

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第163集

K-G-93号窯跡

2010

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県みよし市は、平成22年1月に誕生した新しい市ですが、愛知県のほぼ中央、名古屋市と豊田市の間に位置し、名古屋市や豊田市などのベッドタウンとして近年住宅開発が進み人口が増加しています。産業は、自動車関連産業をはじめとして、数多くの企業が立地していますが、古代から中世にかけては、猿投山西南麓古窯跡群（猿投窯）黒笹地区とよばれる日本を代表する窯業生産地でした。

当財団は、県道豊田知立線の建設に伴う事前調査として、愛知県より委託を受けてK-G-93号窯跡の発掘調査を実施しました。みよし市での調査は、平成4年度に実施しました黒笹40号・黒笹89号・黒笹G2号窯跡以来の2回目になります。調査の結果、山茶碗・小皿を主に焼成した窯体1基と、窯体は検出できませんでしたが、猿投窯では珍しい陶製の羽釜と鍋が出土し、この地区の窯業生産の実態を解明する上で大きな成果を上げることができました。

今回これらの成果をまとめた報告書を刊行することになりました。本書が歴史資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に関するご理解を深める一助となれば幸いに存じます。

なお文末で恐縮ではありますが、発掘調査の実施に当たりまして、地元の方々を初め関係者及び関係機関のご協力とご指導をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

平成22年3月

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 林 良 三

例言

1. 本書は愛知県西加茂郡三好町大字福谷（現愛知県みよし市福谷町）に所在するK-G-93号窯跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県道豊田知立線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成18年9月から12月まで、調査面積は750㎡である。
4. 発掘調査の担当者は、小澤一弘（主査、現主任専門員）、宇佐見守（調査研究員、現調査研究主事）である。
5. 発掘調査において、株式会社イビソクより調査業務全般の支援を受けた。
6. 遺物整理および本書作成に関わる整理作業は平成20年7月から12月まで実施し、伊藤ますみ・斉藤佳美・山田有美子（整理補助員）の協力を得た。（五十音順・敬称略）
なお、整理作業の効率化をはかるため、次の作業を外部委託した。
出土遺物の実測・デジタルトレース（株式会社アコード 今田明子、東野穂澄）
出土遺物の写真撮影（有限会社写真工房・遊）
窯跡3次元モデル作成（株式会社イビソク）
残留磁化測定・炭化材の樹種同定・放射性炭素年代測定・胎土分析（株式会社パレオ・ラボ）
7. 本書の執筆と編集は宇佐見が担当したが、第4章のみ藤根久、Lomatidze、小林克也、パレオ・ラボAMS年代測定グループ、竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が分担執筆した。
8. 発掘調査および本書作成にあたっては、埋蔵文化財運営協議会委員、埋蔵文化財専門委員ならびに次の方々、関係機関のご協力、ご指導を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、
愛知県建設部道路建設課、三好町教育委員会（現みよし市教育委員会）、
井上喜久男、嘉見俊宏、柴垣勇夫、中野晴久、藤澤良祐（順不同・敬称略）
9. 調査および本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第VII系に基づくものであり、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 本書で使用した土壌色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
11. 発掘調査時の記録（実測図・写真など）は愛知県埋蔵文化財センターで保管し、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

第1章 経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	7
第3章 調査の成果	
第1節 層序	1 2
第2節 遺構	1 4
(1) SY01	(2) SD02・灰原
(3) SX03	
第3節 遺物	2 2
(1) 山茶碗	(2) 小皿
(3) 蓋	(4) 片口鉢
(5) 仏供	(6) 羽釜
(7) 鍋	(8) 焼台
(9) 分焰棒	
第4章 理化学的分析	
第1節 K-G-93号窯跡の考古地磁気年代推定 (パレオ・ラボ)	6 2
第2節 K-G-93号窯跡出土炭化材の樹種同定 (パレオ・ラボ)	6 5
第3節 放射性炭素年代測定 (パレオ・ラボ)	6 9
第4節 K-G-93号窯跡出土土器の胎土分析 (パレオ・ラボ)	7 4
第5章 総括	
第1節 窯体 (SY01)	7 9
(1) 規模	(2) 構造
(3) 焼成回数	(4) 出土遺物
(5) 焼成方法	
第2節 出土遺物	8 0
(1) 山茶碗	(2) 小皿
(3) 羽釜・鍋	(4) 編年の位置づけ
参考文献	8 3
写真図版	1 ~ 1 6
CD-ROM内添付データ	
出土遺物写真 (写真図版未掲載分含む)	
K-G-93号窯跡3Dモデル	

挿図目次

図1	調査前平面図	2
図2	みよし市の位置	4
図3	みよし市の地形・地質	4
図4	遺跡周辺地形図	5
図5	遺跡周辺地形図（明治24年）	6
図6	周辺の遺跡	7
図7	周辺遺跡分布図	8
図8	遺構平面図	10
図9	SY01、SD02（灰原）埋土断面図	11
図10	SY01グリッド位置図	12
図11	2トレンチ埋土断面図	12
図12	3トレンチ埋土断面図	13
図13	4トレンチ埋土断面図	13
図14	SY01遺物出土状況図	16
図15	SY01埋土断面図	17
図16	SY01完掘図、断面図	18
図17	SY01焼成室下層被熱範囲図	19
図18	SY01構築時工具痕検出状況図	20
図19	SX03平面図、断面図	21
図20	出土遺物実測図（須恵器・灰釉陶器）	25
図21	出土遺物実測図（山茶碗）	26
図22	出土遺物実測図（山茶碗）	27
図23	出土遺物実測図（山茶碗）	28
図24	出土遺物実測図（山茶碗）	29
図25	出土遺物実測図（山茶碗・溶着）	30
図26	出土遺物実測図（山茶碗溶着）	31
図27	出土遺物実測図（山茶碗溶着）	32
図28	出土遺物実測図（山茶碗溶着・小皿）	33
図29	出土遺物実測図（小皿・溶着）	34
図30	出土遺物実測図（小皿山茶碗溶着）	35
図31	出土遺物実測図（小皿山茶碗溶着・蓋・焼台）	36
図32	出土遺物実測図（焼台）	37
図33	出土遺物実測図（山茶碗・小皿・溶着・蓋）	38
図34	出土遺物実測図（山茶碗・小皿・片口鉢・焼台・羽釜）	39
図35	出土遺物実測図（山茶碗・羽釜・焼台・溶着）	40
図36	出土遺物実測図（山茶碗溶着・小皿・焼台・鍋・羽釜）	41
図37	出土遺物実測図（山茶碗）	42
図38	出土遺物実測図（山茶碗溶着・小皿・羽釜）	43
図39	出土遺物実測図（焼台・山茶碗・溶着・小皿）	44
図40	出土遺物実測図（山茶碗）	45

図4 1	出土遺物実測図（山茶碗）	4 6
図4 2	出土遺物実測図（山茶碗・溶着）	4 7
図4 3	出土遺物実測図（山茶碗溶着・小皿・仏供）	4 8
図4 4	出土遺物実測図（羽釜）	4 9
図4 5	出土遺物実測図（鍋・焼台・分焰棒）	5 0
図4 6	K-G-9 3号窯跡床面焼土の残留磁化と標準曲線	6 4
図4 7	K-G-9 3号窯跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真	6 8
図4 8	暦年較正結果	7 2・7 3
図4 9	分析対象資料	7 5
図5 0	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 分布図	7 7
図5 1	各元素分布図	7 8
図5 2	山茶碗分類図	8 0
図5 3	小皿分類図	8 1

表目次

表1	発掘調査の手続き一覧表	1
表2	調査工程	1
表3	周辺遺跡一覧表	9
表4	主要出土遺物個体数表	2 2
表5	遺物観察表	5 1～6 1
表6	残留磁化測定結果（偏角補正前）	6 3
表7	K-G-9 3号窯跡出土炭化材の樹種同定結果	6 5
表8	K-G-9 3号窯跡出土炭化材の樹種同定結果一覧	6 6
表9	測定試料及び処理	7 0
表1 0	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	7 1
表1 1	分析対象資料	7 4
表1 2	分析結果	7 6
表1 3	山茶碗分類表	8 1
表1 4	小皿分類表	8 2

写真図版目次

写真図版 1	調査区全景（北より） 調査区遠景（西より） 調査区遠景（南より）
写真図版 2	S Y O 1 焼成室遺物出土状況（北西より）
写真図版 3	S Y O 1 焼成室遺物出土状況（北西より） S Y O 1 焼成室土層断面（西より） S Y O 1 分焰柱土層断面（北西より） S Y O 1 焼成室土層断面（南西より） 灰原土層断面（西より）
写真図版 4	S Y O 1 焼成室完掘状況（南東より） S Y O 1 分焰柱完掘状況（南より） S Y O 1 焼成室壁（北東より） S Y O 1 焼成室完掘状況（北西より）
写真図版 5	S Y O 1 焼成室床下黒色土面（北西より） S Y O 1 焼成室床下地山面（北西より） S Y O 1 分焰孔断面（北西より） S Y O 1 分焰柱断面（北より） S Y O 1 焼成室床下断面（北西より） S Y O 1 焼成室床下断面（北西より） S Y O 1 焼成室床下断面（北東より） S Y O 1 焼成室断面（南東より）
写真図版 6	K-G-93号窯跡3Dモデル
写真図版 7	遺物写真（1）
写真図版 8	遺物写真（2）
写真図版 9	遺物写真（3）
写真図版 10	遺物写真（4）
写真図版 11	遺物写真（5）
写真図版 12	遺物写真（6）
写真図版 13	遺物写真（7）
写真図版 14	遺物写真（8）
写真図版 15	遺物写真（9）
写真図版 16	遺物写真（10）

第1章 経過

第1節 調査の経緯

本調査は、県道豊田知立線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は平成18年9月から12月にかけて、調査面積は750㎡である。

また、本書作成にかかる整理作業は、1次整理を平成18年度、2次整理を平成20年度に実施した。1次整理は発掘調査と並行して、コンテナ116箱分の出土遺物を洗浄した。2次整理は平成20年7月から12月にかけて、出土遺物の分類・接合・実測、遺構図面の整理、各種調査データのパソコン入力を行った。

第2節 調査の方法と経過

平成17年12月5日に愛知県教育委員会により実施された試掘確認調査の結果、道路予定地内には2基の窯跡が存在すると想定されていた。そこで、窯跡が存在する畑地と灰原が存在する可能性のある谷状の落ち込みとかつての畑地で当時竹林となっていた2段の平坦面を調査区に設定した(図1)。調査区内の樹木を伐採し、地表観察により遺物の散布を確認すると、灰原が展開すると想定されていた調査区西側の斜面には遺物の散布がみられなかった。そのため、その部分は表土はぎ前に重機掘削により遺構・遺物の有無を確認した。その結果、表土をはぐとすぐに地山が現れ、遺物は出土しなかった。一方、重機進入のため調査区北西部の斜面を掘削したところ、山茶碗や陶製羽釜が出土し、遺跡が想定より北側に広がることが推測された。そこで、調査区西側を調査区から外し、北側を追加して調査を実施することとした。調査は調査区内に国土座標第Ⅶ系による5mグリッドを設定し実施した。出土遺物は出土地点のグリッドがわかるように取り上げた。ただし、窯体内の出土遺物については、窯軸とそれに直交する任意のグリッドを設定し取り上げた(図10)。なお、遺構および地形の測量をレーザー計測で行った。これにより、測量結果を3次元で記録保存することができた(写真図版6、付録CD)。

埋蔵文化財発掘調査の届出	18埋セ第25号	平成18年7月4日
埋蔵文化財の発掘について(通知)	18教生第906号	平成18年7月26日
発掘調査終了の届出	18埋セ第75号	平成18年12月19日
埋蔵物発見届	18埋セ第75号	平成18年12月19日
埋蔵文化財保管証	18埋セ第75号	平成18年12月19日
出土品鑑査結果について(通知)	18教生第2303号	平成19年1月25日

表1 発掘調査の手続き一覧表

2006年	9月			10月			11月			12月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
現況測量										
表土はぎ										
遺構検出										
遺構掘削										
窯体掘削										
窯体断ち割り										
地元説明会										
空中写真撮影										
埋め戻し										

表2 調査工程

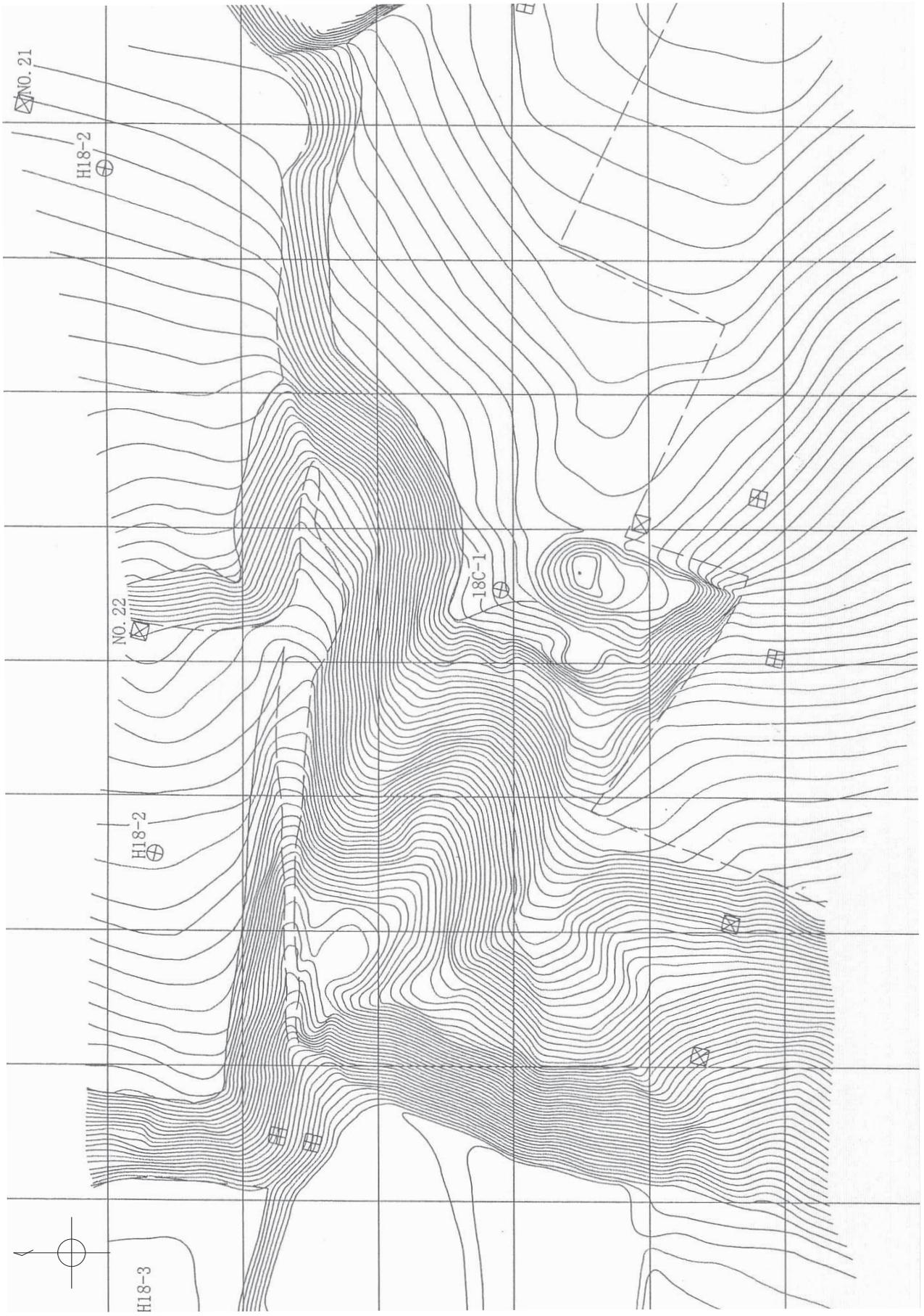


図1 調査前平面図 (S=1/200)

調査日誌 (抄)

9月26日(火)	曇のち雨	表土はぎ開始。窯体1基確認。
10月2日(火)	雨時々曇	本日から作業員を投入。
10月3日(水)	曇のち晴	南東部の平坦面から遺構検出を開始。ドーナツ状に輪切りされた窯体(SY01)を検出。
10月4日(木)	曇のち雨	グリッド杭を設置。調査区南東部の遺構検出が終了。続いて南西部の遺構検出を開始。
10月10日(火)	晴	南西部の未表土はぎ部分に、重機でトレンチを2本入れるが、遺構・遺物とも確認できず。
10月12日(木)	晴	窯軸に沿ってトレンチ(1トレンチ)を掘削し、灰原の深さを確認。南東部の平坦面から北側斜面にかけてトレンチを2本(2・3トレンチ)入れ、盛土であることが判明。
10月13日(金)	晴	南東部の平坦面のトレンチを1本追加(4トレンチ)。3トレンチから陶製羽釜が出土。
10月16日(月)	晴	窯体の掘削開始。窯体は8区に分け、ベルトを残しながら掘削。焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好で、分焰柱右横のアーチが残っていることが判明。
10月17日(火)	晴	焼成室の床面が現れ始めるが、窯壁や山茶碗に阻まれ思うように掘削できない。前庭部下面で灰層と完形に近い山茶碗が多数出土。南東部平坦面のトレンチ1本を北部平坦面まで拡張。南東部平坦面の拡張された時期が新しいことが判明。
10月18日(水)	晴のち曇	焼成室の床面の被熱面が薄いことが判明。2区から小皿を主とした大量の遺物が出土。1トレンチの掘削が終了。谷底まで約1.5mあり、中から仏供が出土。新たに前庭部付近に窯軸に直交するトレンチを入れる。
10月19日(木)	晴	灰原の掘削を開始。レーザー測量を実施。
10月24日(火)	晴	前庭部、平坦面拡張部の盛土の掘削を開始。盛土の下で溝(SD02)を検出。
10月25日(水)	曇	4区で窯壁が現れ始める。前庭部から平坦面拡張部にかけて広がる粘土層を確認。
10月27日(金)	晴	平坦部拡張部下層の谷を掘削、近代の焙烙・磁器碗が出土。
11月1日(水)	晴	灰原から羽釜焼成時の焼台の可能性のある赤色の焼台が数点出土。
11月2日(木)	晴のち曇	北側平坦面1段目から須恵器の有台杯が出土。
11月7日(火)	雨のち曇	分焰柱のアーチが両側とも残存していることが判明。
11月10日(金)	晴	白色粘土層(SX03)を掘削。明瞭な遺構はなく、作業場とは確認できず。
11月13日(月)	晴	灰原から焙烙が出土し、平坦面拡張部下層の谷と同一遺構と判明。
11月16日(木)	晴時々曇	窯体のベルト外し終了、遺物出土状況写真撮影。
11月18日(土)	晴	地元説明会開催、参加者50名。
11月21日(火)	晴	燃焼室から前庭部にかけて炭化物が広がることが判明。
11月22日(水)	晴のち曇	焼成室床面まで掘削終了。床の一部に硬化面が残ること、分焰柱付近が意図的に掘り抜かれていることが判明。燃焼室の壁際に完形の子茶碗が多数残存していることが判明。
11月24日(金)	晴	焼成室の壁に工具の使用痕が良好に残存していることが判明。分焰柱が2面あることが判明。
11月28日(火)	曇のち晴	重機で調査区北部の平坦面の表土はぎを行い、北東角で溝を検出。
11月29日(水)	曇のち晴	窯体断ち割り開始。
11月30日(木)	曇のち晴	床下の黒色土は分焰柱付近に存在しないことが判明。
12月1日(金)	曇	灰原掘削終了。熱残留磁気測定。調査区北部平坦面表土はぎ。
12月6日(水)	晴	床下の赤色砂層に工具痕が黒色の斑点状に残存していることが判明。
12月7日(木)	曇	ラジコンヘリによる空撮。調査終了。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本遺跡は、みよし市の北部にあたる福谷町に所在する。(調査時は西加茂郡三好町大字福谷であった。)みよし市は、愛知県のほぼ中央に位置する(図2)。旧国名でいうと三河国の北西部にあたる。全体的な地形は、南部から北部に向かって徐々に高くなっていく低起伏な丘陵地である。低地は、境川本流沿いや逢妻女川沿いを除くと小規模であり、谷地形を堰堤でせき止めて造られた溜め池が多く分布している。丘陵は、近年まで里山として雑木林が残されていたが、現在は開発が進み住宅地や果樹園などとして利用されている。本遺跡は、境川とその支流である小石川にはさまれた丘陵上に立地しており、丘陵の標高は約88mを測る(図3)。

みよし市の地質は、丘陵の下部をつくる東海層群(鮮新世)、丘陵の上部をつくる三好層(第四紀更新世)、段丘をつくる挙母層など(第四紀更新世)、低地(平野)をつくる沖積層(第四紀完新世)に分かれる(図3)。東海層群は、今から650~300万年前にこの辺りに存在した巨大な湖「東海湖」に堆積した地層である。主に礫・砂・泥層からなり、良質な陶土を包蔵する。一方、三好層は、今から80~70万年前の更新世中期頃に堆積したと考えられている主にチャートの礫からなる礫層である。通常は6~20mの厚さで堆積しているが、本遺跡周辺には礫層はみられず、東海層群に属する白色粘土層が露頭している。地形が大規模に改変されているため一概にはいえないが、このような露頭した白色粘土を利用して山茶碗などを焼成したものとする。(第4章第4節参照)

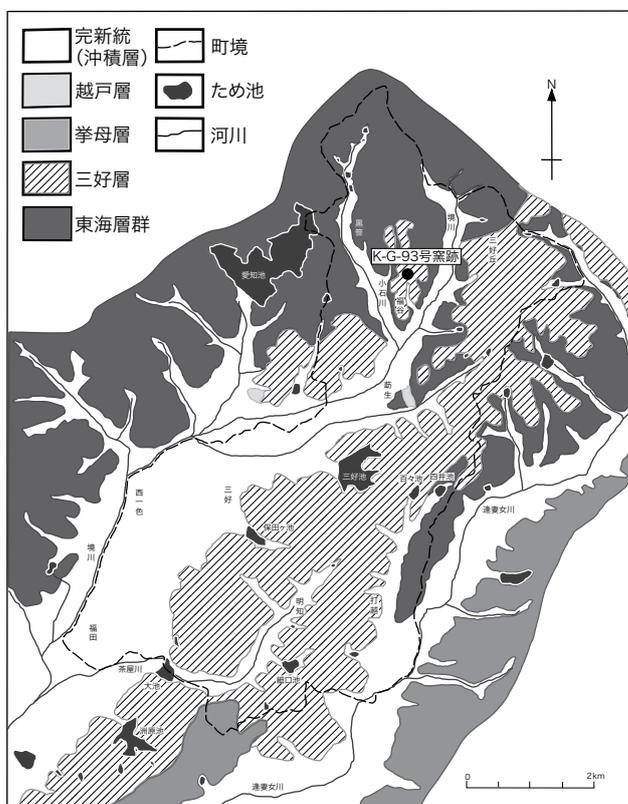


図3 みよし市の地形・地質

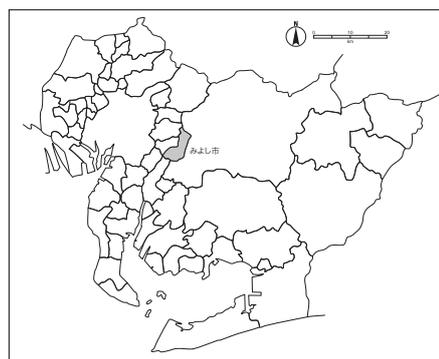
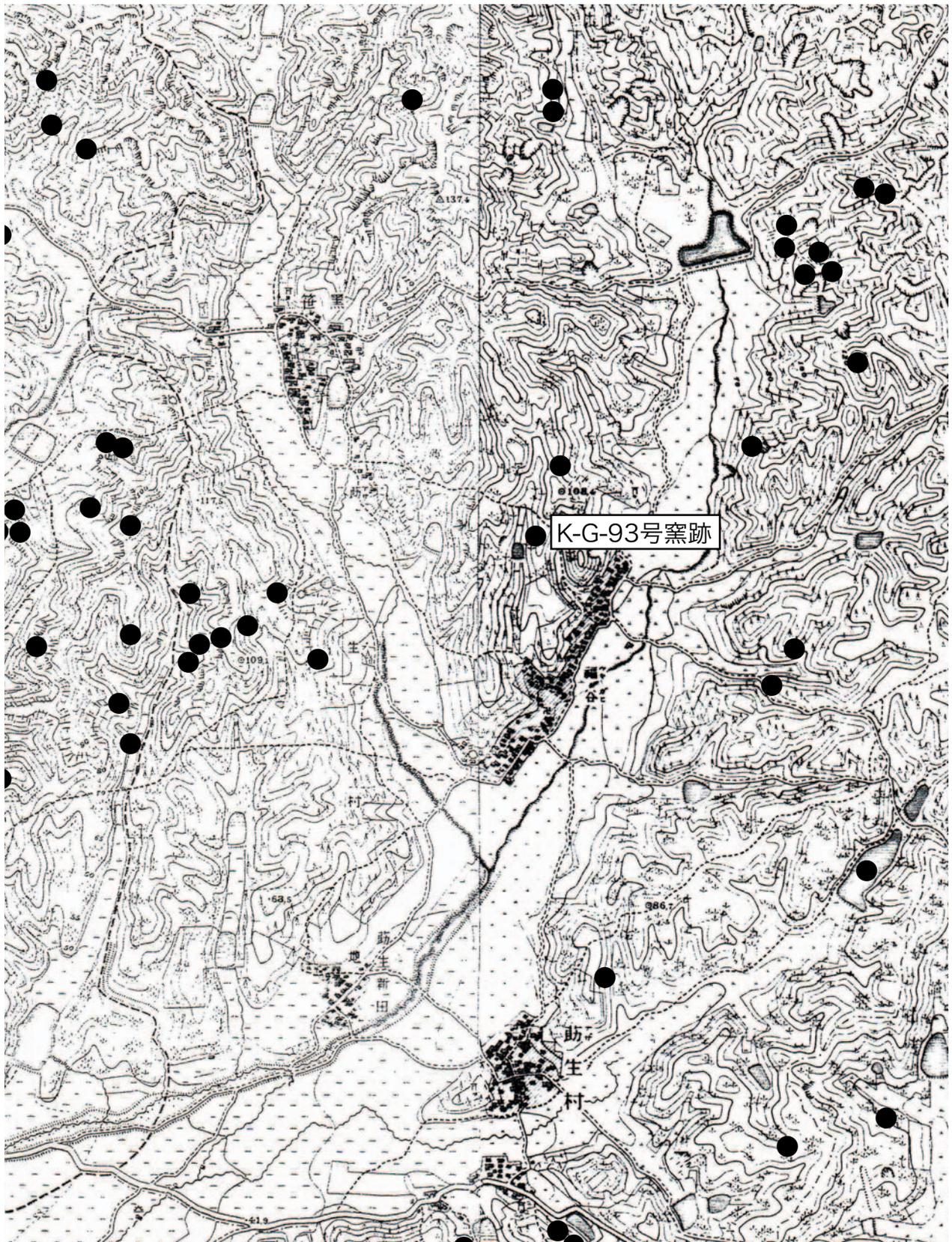


図2 みよし市の位置



図4 遺跡周辺地形図 (S=1/2,500)



『愛知県史別編窯業2中世・近世瀬戸系』所収「窯業位置図」をもとに作成

● 山茶碗窯

図5 遺跡周辺地形図（明治24年）（S=1/20,000）

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

みよし市には、184カ所の遺跡が所在するが、この内の152カ所が奈良～鎌倉時代の窯跡である。猿投山西南麓古窯跡群（猿投窯）は古墳時代に名古屋市の東山地区で須恵器生産を開始し、南東方向へ生産地を拡大していった。奈良時代になるとみよし市を中心とする猿投窯黒笹地区（Kと略す）でも本格的な生産を開始し、平安時代になると灰釉陶器を生産し猿投窯の中心地となる。この時期の保存状態の良好な窯跡としてK-7号窯跡（24 図7、表3の番号に対応、以下同じ）が愛知県指定史跡に、K-27号窯跡（43）とK-90号窯跡（88）が三好町指定史跡として保存されている。

黒笹地区での灰釉陶器生産は11世紀代に途絶えるが、12世紀後半になると山茶碗生産が開始され、13世紀（鎌倉時代）に最盛期を迎える。今回調査を実施したK-G-93号窯跡（168）はこの時期の窯跡である。周辺には奈良～平安時代の須恵器や灰釉陶器を焼成した窯跡は集中しているものの、鎌倉時代の山茶碗を焼成した窯跡は他にはK-G-73号窯跡（159）1カ所のみであり、山茶碗焼成窯の分布の薄い地域である。山茶碗生産は13世紀後半になると急速に衰退し、猿投窯も終焉を迎える。

その後、15世紀後半（室町時代）になると、本遺跡の所在する丘陵先端部に福谷城（192）が築かれる。



図6 周辺の遺跡（左上：K-7号窯跡、右上：K-27号窯跡、左下：福谷城跡、右下：K-90号窯跡）

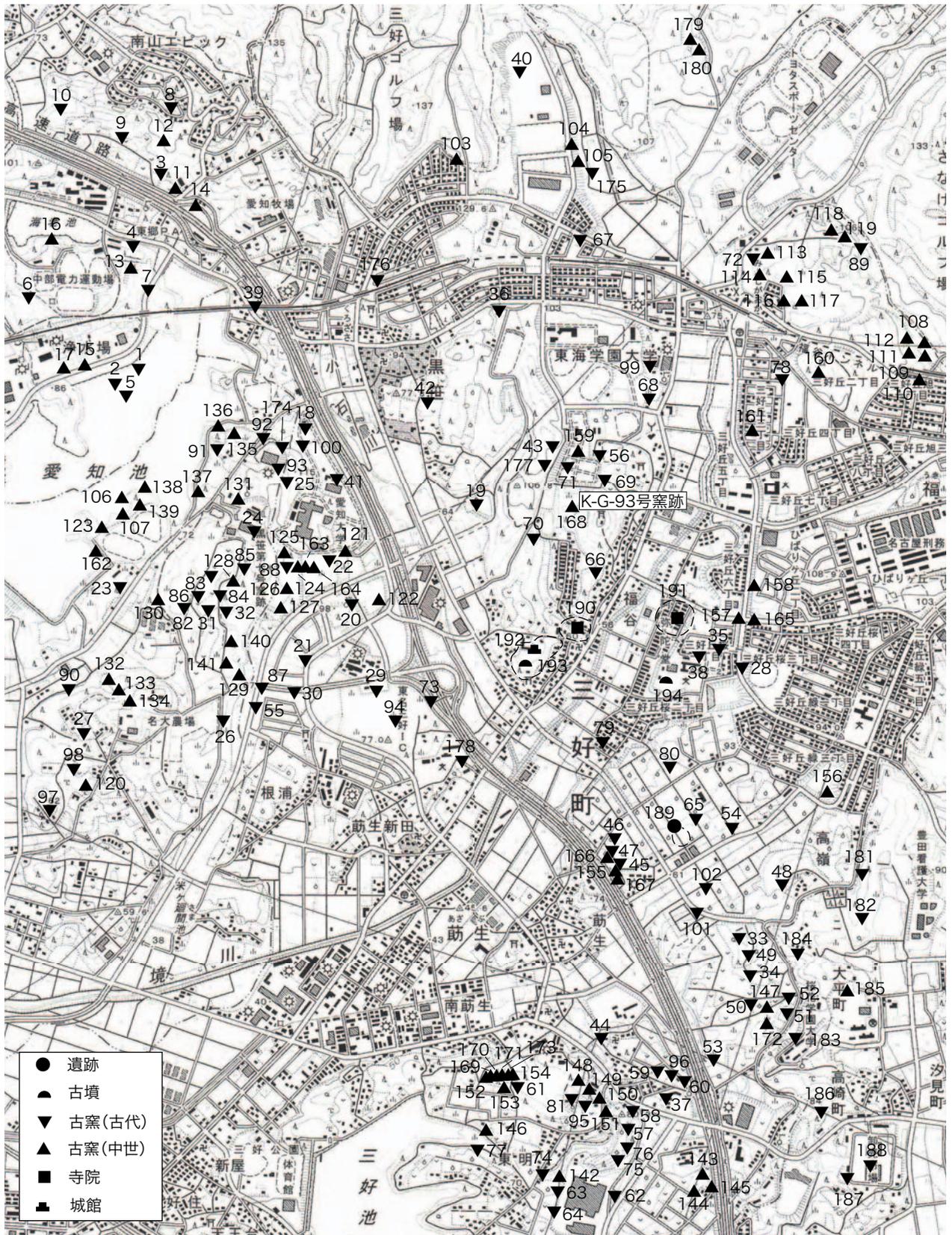


図7 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	O-16号窯	奈良	50	K-35号窯	平安	99	K-113号窯	平安	148	K-G-62号窯	鎌倉
2	O-35号窯	奈～平	51	K-36号窯	奈～平	100	K-115号窯	奈良	149	K-G-63号窯	鎌倉
3	O-36号窯	平安	52	K-37号窯	平安	101	K-116号窯	平安	150	K-G-64号窯	鎌倉
4	O-37号窯	平安	53	K-38号窯	平安	102	K-117号窯	奈良	151	K-G-65号窯	鎌倉
5	O-38号窯	平安	54	K-39号窯	奈～平	103	K-G-1号窯	鎌倉	152	K-G-66号跡	鎌倉
6	O-51号窯	平安	55	K-40号窯	奈～平	104	K-G-2号窯	鎌倉	153	K-G-67号窯	鎌倉
7	O-52号窯	奈～平	56	K-41号窯	奈～平	105	K-G-3号窯	鎌倉	154	K-G-68号窯	鎌倉
8	O-54号窯	平安	57	K-42号窯	奈～平	106	K-G-5号窯	鎌倉	155	K-G-69号跡	鎌倉
9	O-55号窯	平安	58	K-43号窯	平安	107	K-G-6号窯	鎌倉	156	K-G-70号窯	鎌倉
10	O-56号窯	奈～平	59	K-47号窯	奈～平	108	K-G-7号窯	鎌倉	157	K-G-71号窯	鎌倉
11	O-G-3号窯	鎌倉	60	K-48号窯	奈～平	109	K-G-8号窯	鎌倉	158	K-G-72号窯	鎌倉
12	O-G-4号窯	鎌倉	61	K-49号窯	平安	110	K-G-9号窯	鎌倉	159	K-G-73号跡	鎌倉
13	O-G-5号窯	鎌倉	62	K-50号窯	平安	111	K-G-10号窯	鎌倉	160	K-G-74号窯	鎌倉
14	O-G-6号窯	鎌倉	63	K-51号窯	奈良	112	K-G-11号窯	鎌倉	161	K-G-75号窯	鎌倉
15	O-G-7号窯	鎌倉	64	K-52号窯	奈～平	113	K-G-12号窯	鎌倉	162	K-G-76号窯	鎌倉
16	O-G-8号窯	鎌倉	65	K-53号窯	平安	114	K-G-13号窯	鎌倉	163	K-G-84号窯	鎌倉
17	O-G-38号窯	鎌倉	66	K-56号窯	平安	115	K-G-14号窯	鎌倉	164	K-G-85号窯	鎌倉
18	K-1号窯	平安	67	K-57号窯	平安	116	K-G-15号窯	鎌倉	165	K-G-87号窯	鎌倉
19	K-2号窯	奈～平	68	K-58号窯	平安	117	K-G-16号窯	鎌倉	166	K-G-89号窯	鎌倉
20	K-3号窯	奈～平	69	K-59号窯	奈～平	118	K-G-17号窯	鎌倉	167	K-G-90号窯	平～鎌
21	K-4号窯	奈～平	70	K-63号窯	奈～平	119	K-G-18号窯	鎌倉	168	K-G-93号窯	鎌倉
22	K-5号窯	平安	71	K-64号窯	奈～平	120	K-G-19号窯	鎌倉	169	K-G-95号窯	鎌倉
23	K-6号窯	奈～平	72	K-65号窯	平安	121	K-G-20号窯	鎌倉	170	K-G-96号窯	鎌倉
24	K-7号窯	平安	73	K-66号窯	平安	122	K-G-21号窯	鎌倉	171	K-G-97号窯	鎌倉
25	K-8号窯	奈～平	74	K-74号窯	平安	123	K-G-22号窯	鎌倉	172	K-G-98号窯	鎌倉
26	K-9号窯	奈～平	75	K-75号窯	奈～平	124	K-G-23号窯	鎌倉	173	K-G-99号窯	鎌倉
27	K-10号窯	奈～平	76	K-76号窯	奈～平	125	K-G-24号窯	鎌倉	174	百々古窯	奈～平
28	K-11号窯	奈～平	77	K-78号窯	平安	126	K-G-25号窯	鎌倉	175	広久伝古窯	平安
29	K-12号窯	平安	78	K-79号窯	平安	127	K-G-26号窯	鎌倉	176	寺山古窯	平安
30	K-13号窯	平安	79	K-80号窯	奈～平	128	K-G-27号窯	鎌倉	177	経ヶ峰古窯	平安
31	K-14号窯	奈～平	80	K-81号窯	平安	129	K-G-28号窯	鎌倉	178	坂上古窯	平安
32	K-15号窯	奈～平	81	K-82号窯	平安	130	K-G-29号窯	鎌倉	179	西川1号窯	鎌倉
33	K-16号窯	平安	82	K-84号窯	奈～平	131	K-G-30号窯	鎌倉	180	西川2号窯	鎌倉
34	K-17号窯	平安	83	K-85号窯	奈～平	132	K-G-31号窯	鎌倉	181	孫目上池古窯	奈～平
35	K-18号窯	平安	84	K-86号窯	奈～平	133	K-G-32号窯	鎌倉	182	孫目池古窯	奈～平
36	K-19号窯	平安	85	K-87号窯	奈～平	134	K-G-33号窯	鎌倉	183	七曲1号窯	平安
37	K-20号窯	平安	86	K-88号窯	奈～平	135	K-G-34号窯	鎌倉	184	七曲2号窯	奈～平
38	K-21号窯	平安	87	K-89号窯	平安	136	K-G-35号窯	鎌倉	185	平山古窯	鎌倉
39	K-22号窯	平安	88	K-90号窯	平安	137	K-G-36号窯	鎌倉	186	北ノ脇古窯	平安
40	K-23号窯	平安	89	K-91号窯	白鳳	138	K-G-37号窯	鎌倉	187	兼近1号窯	平安
41	K-25号窯	平安	90	K-92号窯	奈～平	139	K-G-38号窯	鎌倉	188	兼近2号窯	鎌倉
42	K-26号窯	奈～平	91	K-93号窯	奈～平	140	K-G-39号窯	鎌倉	189	船ヶ峪遺跡	縄文
43	K-27号窯	平安	92	K-94号窯	奈～平	141	K-G-40号窯	鎌倉	190	了喜院跡	鎌～江
44	K-28号窯	奈～平	93	K-95号窯	奈～平	142	K-G-55号窯	鎌倉	191	伝阿弥陀堂遺跡	中世
45	K-30号窯	平安	94	K-108号窯	奈～平	143	K-G-56号窯	鎌倉	192	福谷城跡	室～戦
46	K-31号窯	奈～平	95	K-109号窯	平安	144	K-G-57号窯	鎌倉	193	市場古墳	古墳
47	K-32号窯	奈良	96	K-110号窯	平安	145	K-G-58号窯	鎌倉	194	伝阿弥陀堂古墳	古墳
48	K-33号窯	平安	97	K-111号窯	奈～平	146	K-G-59号窯	鎌倉			
49	K-34号窯	奈～平	98	K-112号窯	奈～平	147	K-G-60号窯	鎌倉			

表3 周辺遺跡一覧表

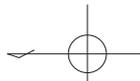
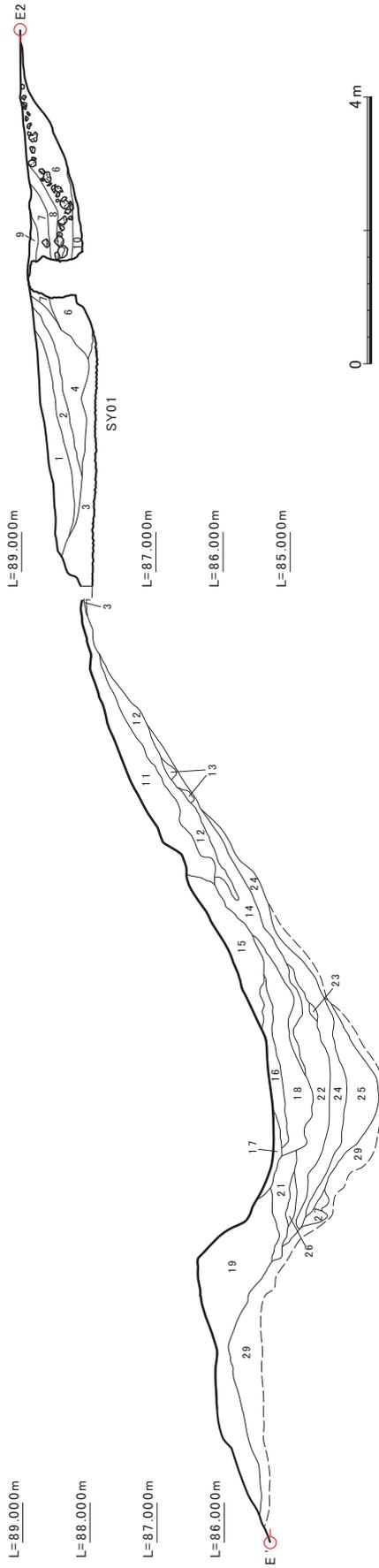


図8 遺構平面図 (S=1/200)



- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 粘性やや高く、しまりは良好、堆物が大量に混入
- 2 2.5YR4/6 赤褐色土 粘性やや高く、しまりは良好、1層が混ざる。C-C断面図の3層
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性は高く、しまりは良好、堆物が大量に混入、灰原の始まりか？
- 4 2.5YR4/6 赤褐色土 粘性やや高く、しまりは良好
- 5 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 粘性は高く、しまりは良好、粘土の比率が高い
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性は低く、しまりは不良
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色土 A-A断面図の2層
- 8 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性は低く、しまりは良好、やや砂っぽい。天井もしくは壁の一部が混入する。
- 9 2.5Y6/2 灰黄色土
- 10 2.5Y4/2 暗灰黄色土
- 11 2.5Y3/1 黒褐色土 現代の攪乱。
- 12 2.5Y3/2 黒色土 現代の攪乱。
- 13 2.5Y5/6 黄褐色土 現代の攪乱。
- 14 2.5Y5/4 黄褐色土 現代の攪乱。(遺物取り上げ時の14層)
- 15 2.5Y4/1 黄灰色土 現代の攪乱。

- 16 2.5Y5/2 暗灰黄色土 現代の攪乱。
- 17 2.5Y3/1 黒褐色土 現代の攪乱。
- 18 2.5Y5/3 黄褐色土 現代の攪乱。(遺物取り上げ時の1層)
- 19 2.5Y5/2 暗灰黄色土 現代の攪乱。
- 21 2.5Y5/3 黄褐色土 現代の攪乱。
- 22 2.5Y4/2 暗灰黄色土 攪乱。山茶碗が若干数混入する。(遺物取り上げ時の2層)
- 23 2.5Y6/6 明黄褐色土 攪乱。
- 24 5Y5/2 灰オリーブ色土 攪乱。山茶碗が若干数混入する。(遺物取り上げ時の4・6・7層)
- 25 2.5Y4/2 暗灰黄色土 攪乱。山茶碗が混入する。
- 26 10YR4/2 灰黄褐色土 攪乱。山茶碗が混入する。
- 27 2.5Y6/4 にぶい黄色土 現代の攪乱。
- 29 2.5Y8/1 灰色粘質土 地山。

図9 SY01、SD02 (灰原) 埋土断面図 (1/100)

第3章 調査の成果

第1節 層序

調査区は窯体（SY01）を検出した南東部の平坦面が一番高く標高約89.0mを測る。谷状地形をはさみ北東部は一段下がり、さらに北西部が一段下がる。調査区南東部と北西部の比高差は6mになる。南東部の平坦面は削平した南側の土を、北側に盛土して造成している。盛土の下でSD02を検出した（図11、12）。北東部の平坦面は削平した東側の土を、南西側に盛土して造成している。南東側でSD02を削平している。北西部の平坦面も削平した東側の土を、南西側に盛土して造成している。これらの平坦面が造成された時期は特定できないが、SD02の埋土から近代の染付碗・焙烙が出土していることから、現代に近い時期と考えられる。

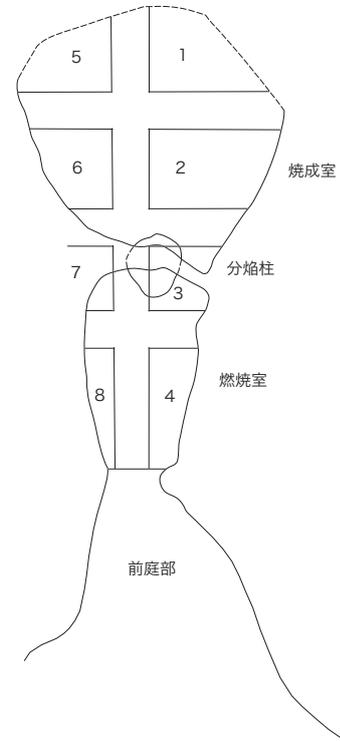
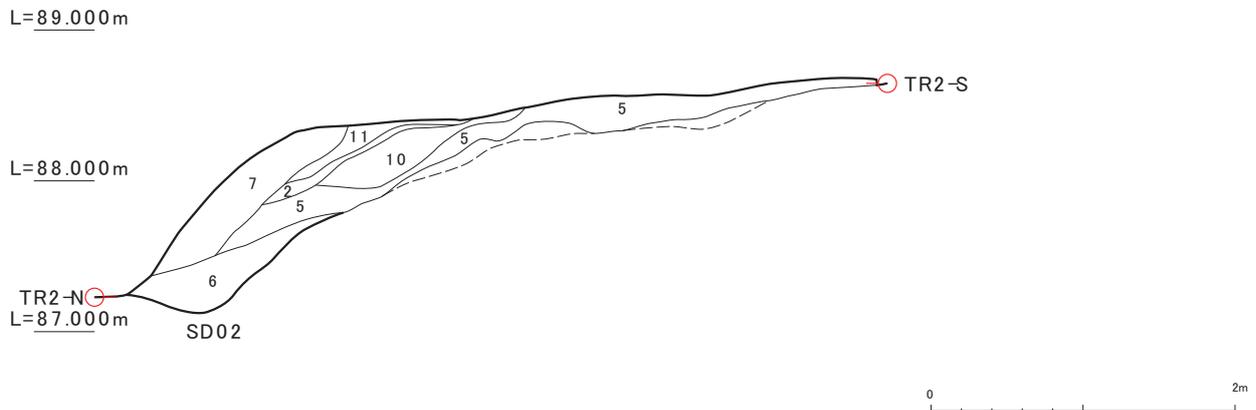
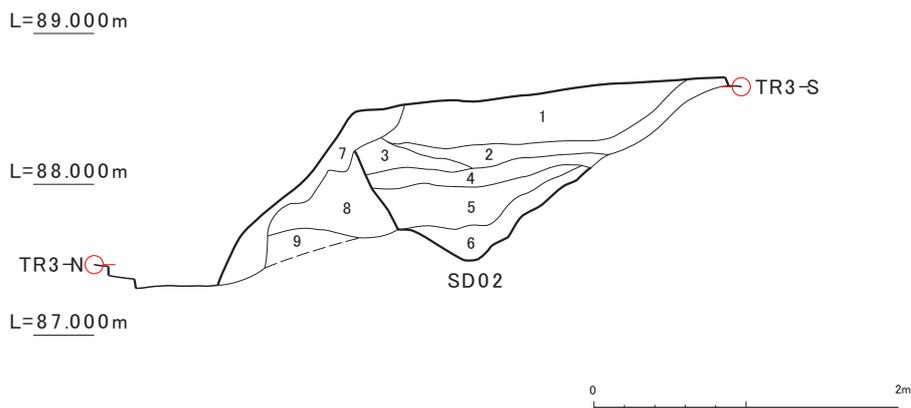


図10 SY01グリッド位置図



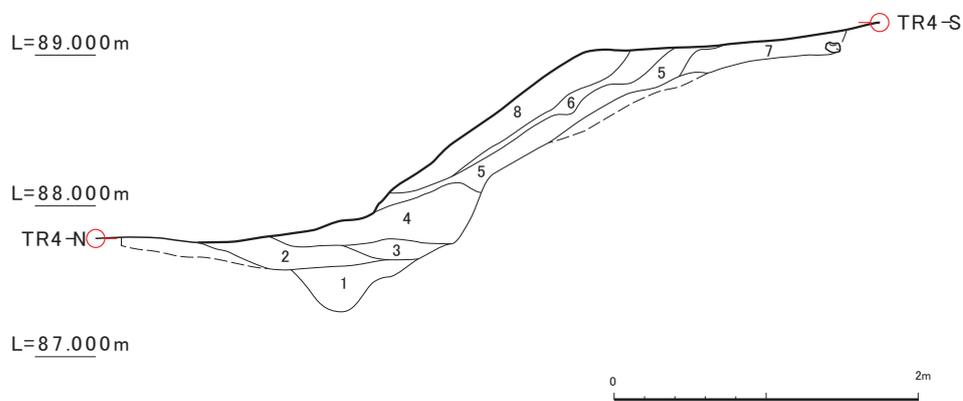
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土 粘性やや高く、しまりは良好、混入物はない
- 5 2.5Y5/4 黄褐色土 4層と酷似するが小礫の混入がない
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄褐色粘質土 粘性非常に高く、しまりは良好、遺物の混入が著しい
SD02埋土最深層
- 7 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性低く、しまりは良好、遺物・焼土がやや混入
表土と考えられる
- 10 2.5Y6/6 明黄褐色土 粘性やや低い、しまりは良好、焼土が混入する
- 11 2.5Y6/8 橙色土 粘性やや高く、しまりは良好、かなり堅固である

図11 2トレンチ埋土断面図（1/50）



- 1 2.5Y6/6 明黄褐色土 粘性やや高く、しまりは良好、焼土の混入やや多い
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土 粘性やや高く、しまりは良好、混入物はない
- 3 2.5Y6/6 明黄褐色土 1層に酷似
- 4 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性高く、しまりは良好、径5mmの小礫が混入する
- 5 2.5Y5/4 黄褐色土 4層と酷似するが小礫の混入がない
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄褐色粘質土 粘性非常に高く、しまりは良好、遺物の混入が著しい
SD02埋土最深層
- 7 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性低く、しまりは良好、遺物・焼土がやや混入
表土と考えられる
- 8 7.5YR5/6 明褐色粘土 非常に高く、しまりは良好、地山
- 9 7.5YR8/2 明褐色粘土 非常に高く、しまりは良好、地山
8層がやや混じるのか？

図12 3トレンチ埋土断面図 (1/50)



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性やや高く、しまりは良好、遺物の混入多い
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性やや低く、しまりは良好、焼土の混入多い
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性高く、しまりは良好、混入物は少ない
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性やや低く、しまりは良好、混入物は少ない
1層よりやや明るく堅い
- 5 10YR4/1 褐灰色土 粘性は高く、しまりは良好、遺物の混入ややあり
- 6 7.5YR5/6 明褐色土 粘性は低く、しまりは良好、焼土の混入多い
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性低く、しまりは良好、遺物混入多い
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色土 粘性低く、しまりは良好、混入物少ない

図13 4トレンチ埋土断面図 (1/50)

第2節 遺構

愛知県教育委員会により実施された試掘範囲確認調査により、窯体は2基残存すると想定されていたが、調査の結果、検出した窯体は1基（SY01）のみであった。SY01は焼成室の半分から上が畑地開墾などによる削平により滅失していたが、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好であった。灰原は谷状の落ち込み部分に存在すると想定されていたが、谷状地形からは、山茶碗・羽釜・焼台・窯壁など窯業生産に関わる遺物は出土したが、SY01内から出土した山茶碗とは異なるものが多数を占めた。さらに底近くから近現代の染付碗・焙烙・瓦が出土したため、SY01に伴う灰原は前庭部末端にわずかに残存しているのみで、大部分は滅失していることが判明した。また、作業場に関しても、前庭部東側で白色粘土のまとまり（SX03）を確認したものの、出土した山茶碗がSY01内から出土したものとは異なるもので、SY01に付属する粘土溜ではないことが判明した。

(1) SY01（図14～18）

SY01は焚口付近の標高が約88.0mを測る北西斜面に築かれており、窯体主軸の方位はS-25°-Eを示す。焚口床面から約1mの高さでほぼ水平に削平されていたため、焼成室の上半分から煙道部は滅失していた。しかし、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好であった。焚口から残存している焼成室先端部分までの長さは約6.0m、最大幅は約3.4mを測る。

a 焼成室

上半部が削平されていたため全長は不明であるが、残存部の長さは約3.84m、幅は分焰柱付近で約1.48m、最大幅約3.40mを測る。床面は分焰柱上端から約60cmはほぼ水平で、それから約18°の傾斜で上がっている。

床面は分焰柱付近のほぼ水平な部分は降灰が溶着し硬く焼け締まっていたが、傾斜が始まる部分から上は、焼台を砕いたような青灰色粗粒砂が床面に敷かれており、明瞭な硬化面はみられなかった。また、焼台で元位置をとどめるものは1点のみであった。

埋土は黄褐色粘質土をしており、上層は遺物をほとんど含まなかった。床面近くで大量の山茶碗・小皿・焼台・窯壁が出土した。これらは窯体廃絶後の早い段階に上部からの転落により堆積したものと考えられる。また、天井が崩落した痕跡がみられないことから、廃絶後も天井は崩落せず残存していたようである。

断ち割りの結果、床は地山を掘り抜いたあとに粘土を充填し構築していることがわかった。充填土は傾斜が始まる部分から上部にみられ、上層が淡黄色、下層が黒色をしている。色の違いは被熱による変色の違いで、本来は同質の粘土だったと思われる。地山は赤褐色に変色していたが、その中に黒色の楕円形をした浅い小穴が多数みられた。これは築窯時についた工具痕と考えられる。側壁にも方向を同じくする長方形の工具痕が残存していた。側壁に粘土を貼付けた痕跡はみられず、焼成は地山を掘り抜いた状態でおこなったと考えられる。

b 分焰柱

分焰柱は、主軸方向約80cm、主軸直交方向約72cmの不定円形をしている。分焰柱付近はかろうじて天井部が残っていたため、分焰孔の形状を知ることができた。

左側の分焰孔は最大幅約5.2cm、下（床面）幅約3.6cm、高さ約8.4cmを測る。右側の分焰孔は最大幅約5.6cm、下（床面）幅約2.8cmを測る（高さ不明）。分焰柱には部分的に粘土を貼付けて補修した跡がみられる。断ち割りの結果、地山を掘り抜いて築かれていることが判明した。

c 燃焼室

全長は約2.16m、幅は焚口付近が一番狭く約0.92m、分焰柱に近づくにつれ広くなり、最大幅約1.24mを測る。床面は分焰柱に向けてわずかに下がるが、ほぼ平坦である。

埋土は、上層はにぶい黄色土、下層は赤褐色土をしており、赤褐色土と床との間で大量の山茶碗・小皿・焼台が出土した。特に壁ぎわで完形に近い山茶碗が集中して出土した。

また、遺物の下には炭化物層が広がっていた。炭化物層は前庭部まで続き、直下の床は赤褐色に焼けていた。遺物は焼成室と同様に上部からの転落により堆積したものとも考えられるが、崩落した天井である赤褐色土より下から出土していることから、窯から製品を取り出した時の状態を残している可能性も考えられる。

断ち割りの結果、床面・側壁とも地山を掘り抜いただけで、粘土を貼付けた痕跡はなかった。

d 前庭部

焚口からハ字状に開く平坦面を検出した。燃焼室同様、床面直上から山茶碗などの遺物や炭化物が出土した。

(2) S D 0 2・灰原

S D 0 2は調査区南東部で検出した溝である。平坦地の盛土部分を掘削したところ、下層から幅約1.5m、深さ約0.6mのV字形の溝を検出した。溝の検出状況から、北東部分の平坦地は溝が埋没した後に削平して造成していることが判明した（図12）。

S Y 0 1前庭部から始まる谷状地形をS Y 0 1の灰原と想定して掘削したが、最終的にはS D 0 2とつながり一連の遺構となった。

出土遺物は、山茶碗・小皿・片口鉢・羽釜・鍋・焼台などが出土した。山茶碗や小皿の多くがS Y 0 1から出土したものとは比べ作りが丁寧で時期差が感じられること、山茶碗と焼成方法が異なる酸化炎焼成された羽釜・鍋が出土したこと、さらに谷底近くから近現代の染付碗・焙烙・瓦が出土したことから、S Y 0 1の灰原は前庭部末端にわずかに残存する他はすべて滅失していることが判明した。谷状地形から出土した遺物の多くは谷を埋める時に、付近にあった別の窯体で焼成されたものが紛れ込んだ可能性が高い。

(3) S X 0 3（図19）

S Y 0 1前庭部の東側で検出した白色粘土のまとまりである。長さ東西約5.2m、南北約3.7m、深さ約0.3mを測る。検出位置からS Y 0 1付属の作業場に伴う粘土溜ではないかと考え調査した。しかし、明確な土坑にはならず、S Y 0 1から出土したものは異なる山茶碗が出土したことから、S Y 0 1に伴う粘土溜ではないことが判明した。しかし、白色粘土は南東方向から流れてきて堆積していることから、S Y 0 1の南東方向にすでに滅失した別の窯体が存在した可能性が考えられる。

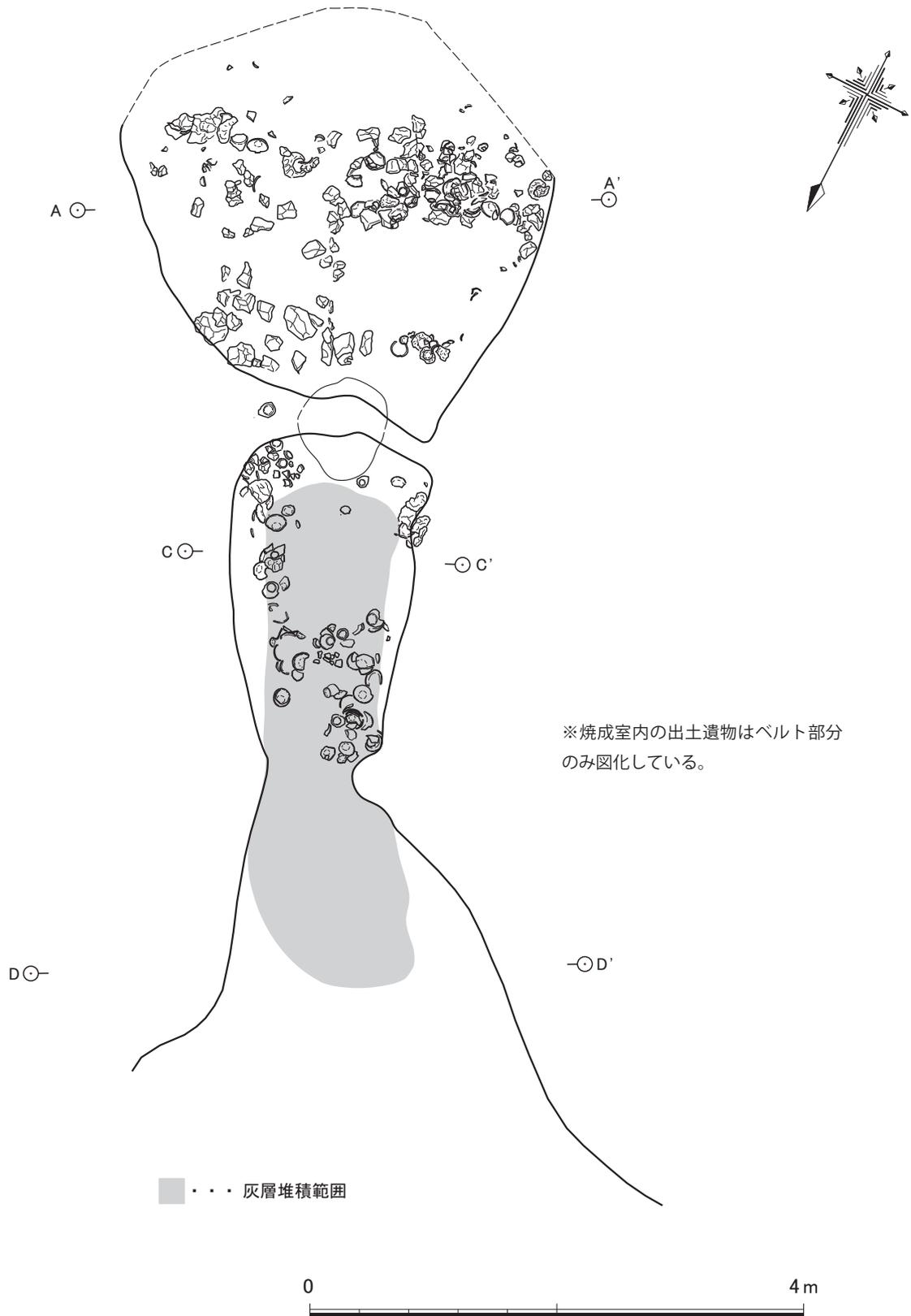


図14 SY01遺物出土状況図(1/50)

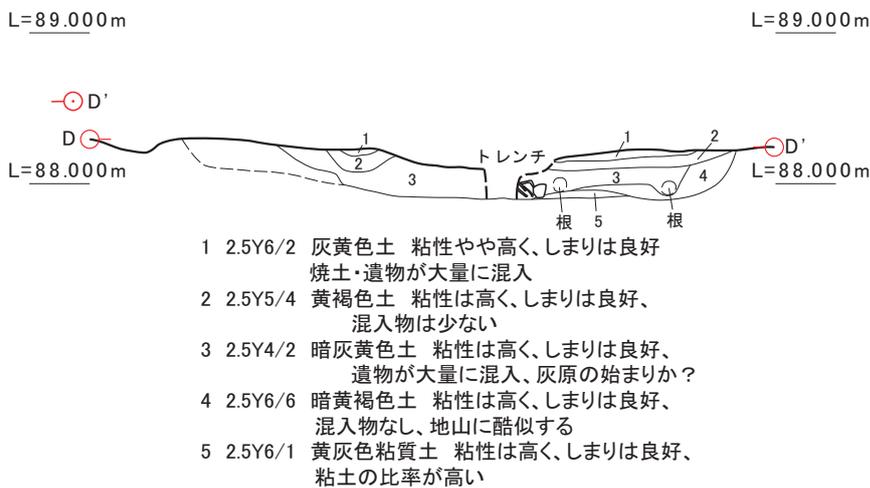
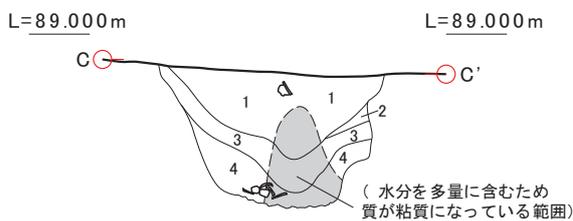
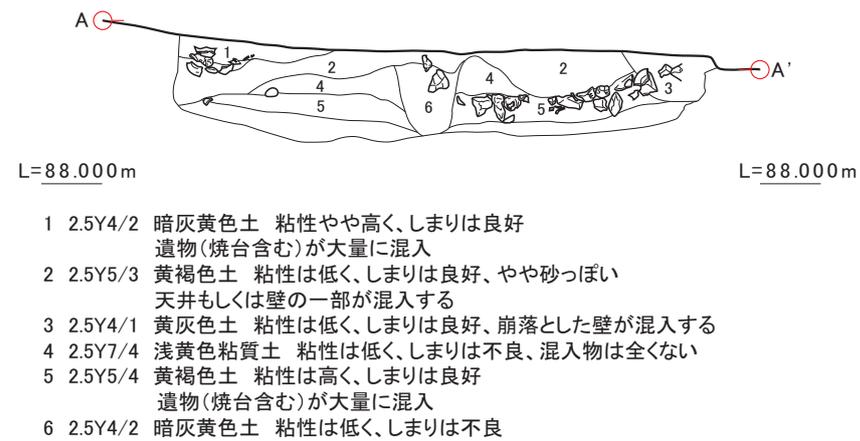


図15 SY01埋土断面図(1/50)

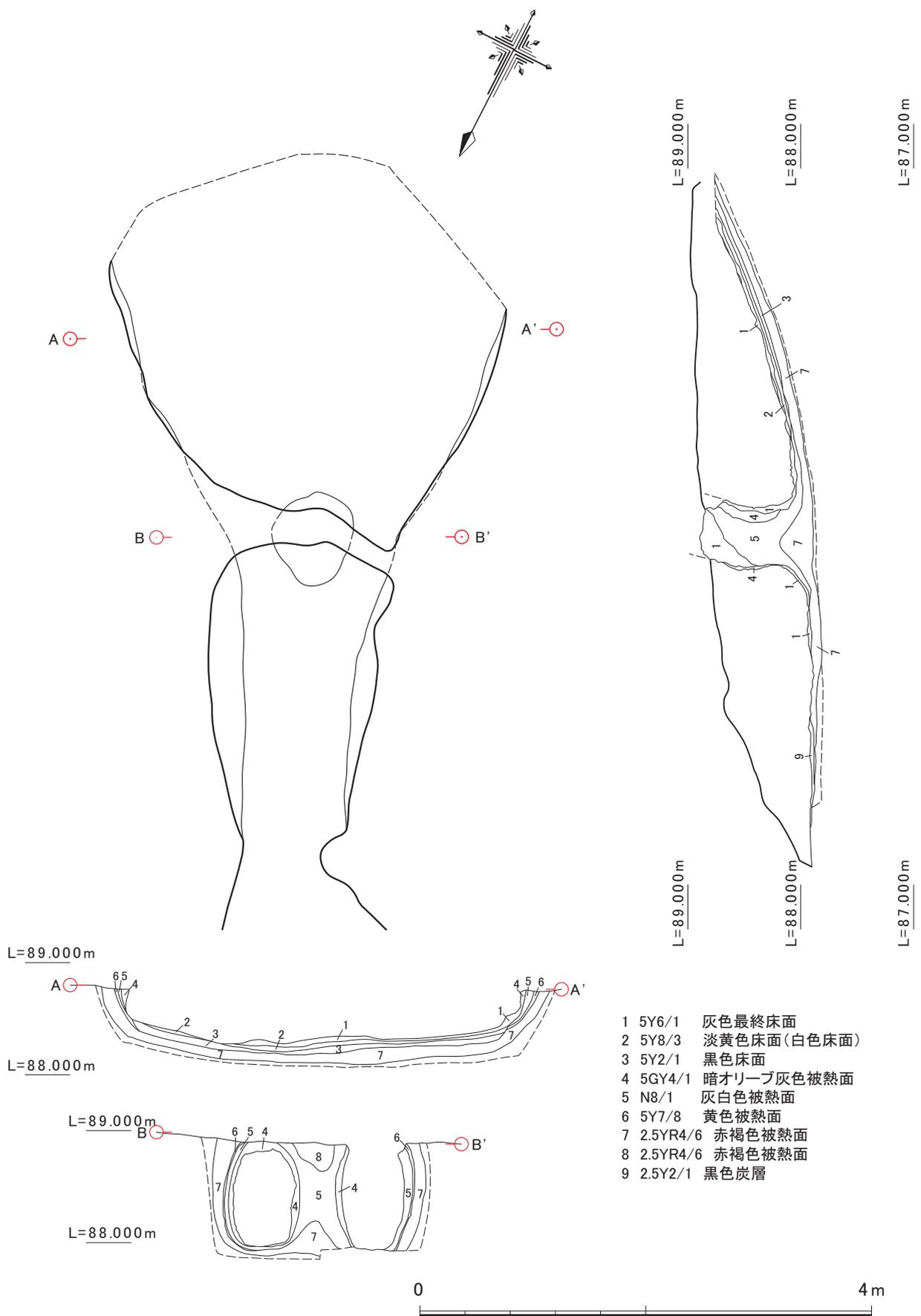


図16 SY01完掘図、断面図(1/50)

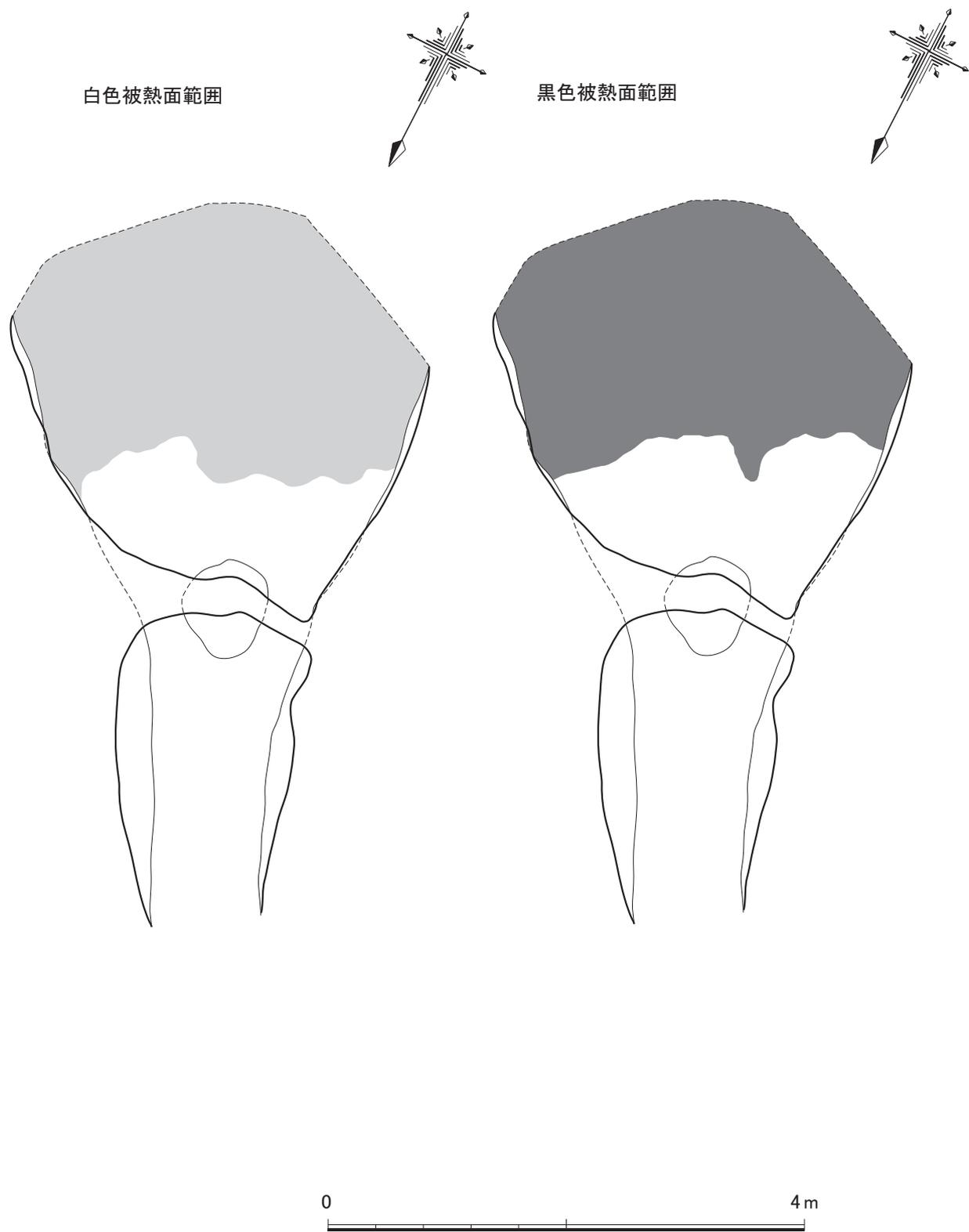


图17 SY01烧成室下層被熱範圍圖 (1/50)

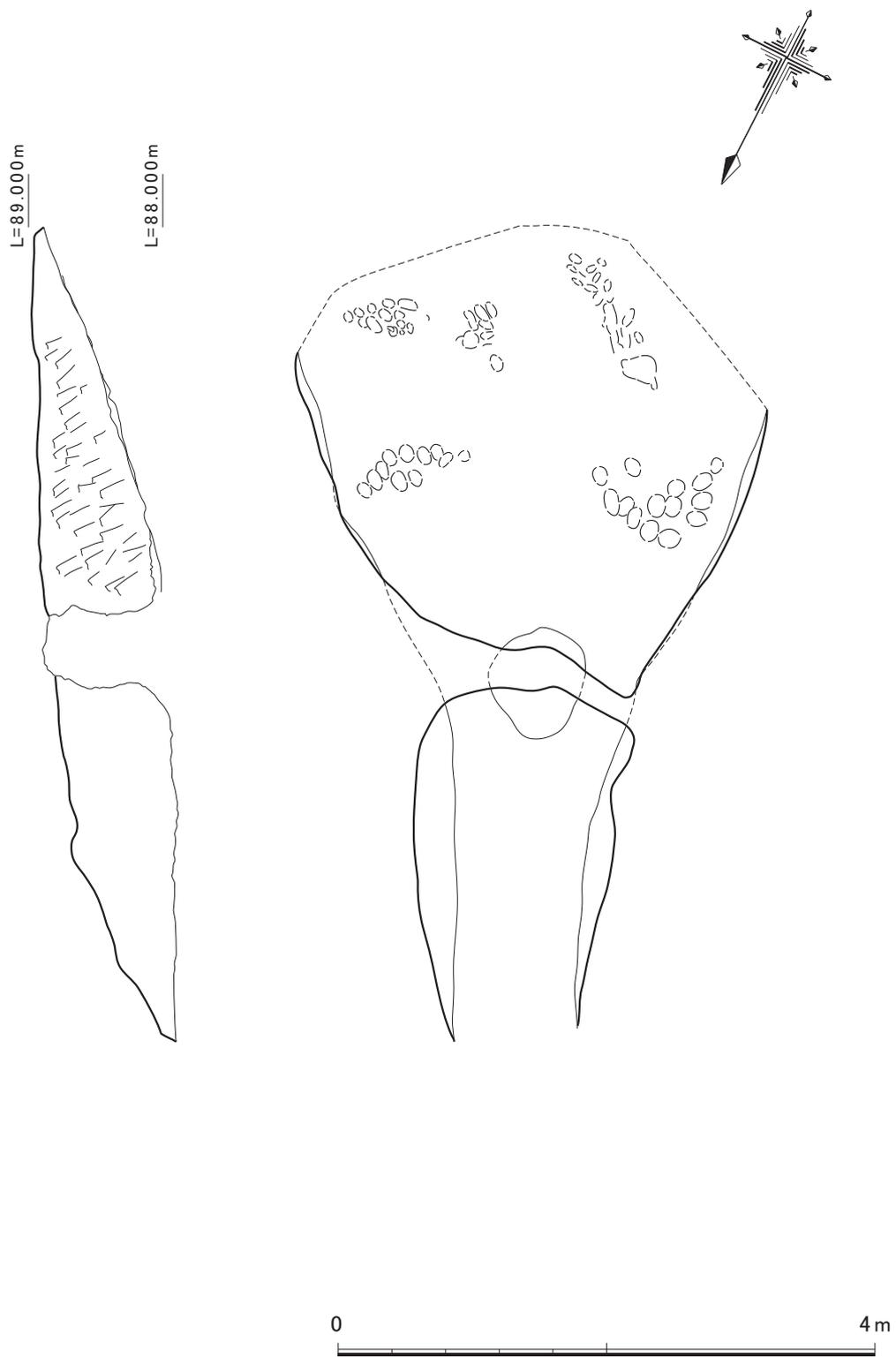
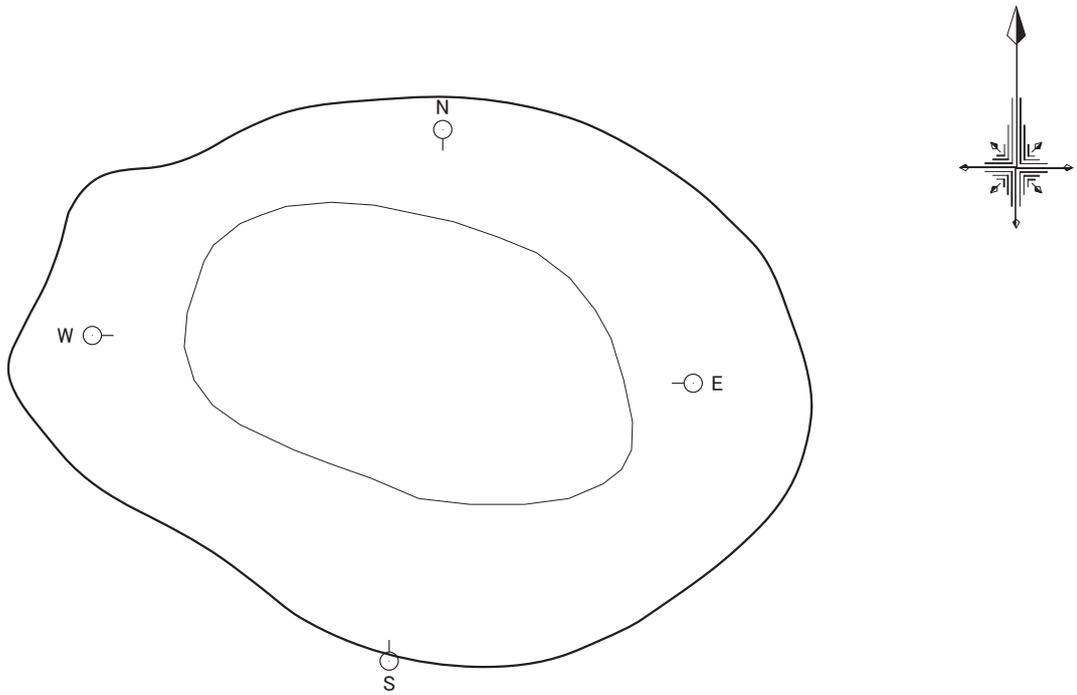
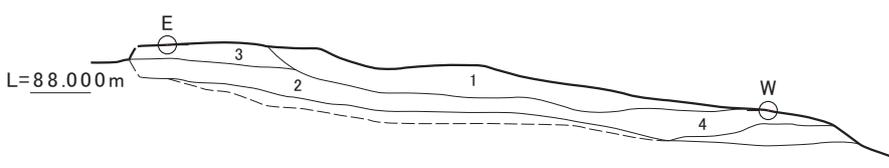


図18 SY01構築時工具痕検出状況図(1/50)



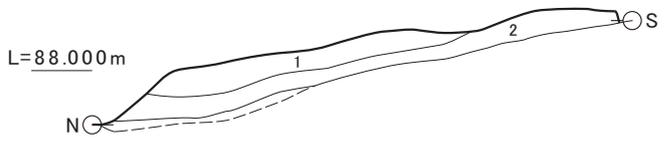
L=89.000m



L=87.000m

- 1 5Y8/2 灰色粘質土
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
- 3 2.5Y4/2 黄灰色土
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄色土

L=89.000m



L=87.000m



図19 SX03平面図、断面図 (1/50)

第3節 遺物

今回の調査で出土した遺物の大半は中世の窯業生産に関連したものである。それらは焼成失敗品として廃棄された製品、焼成時に使用された窯道具、床や壁など窯体の一部に分けられる。製品は大半を無釉陶器である山茶碗と小皿が占める。他には数は少ないものの蓋・片口鉢・仏供・羽釜・鍋が出土した。

また、表土層から古代の須恵器と灰釉陶器が、谷状地形（SD02）から近現代の染付碗・焙烙・瓦などが出土した。調査区内には古代の遺構はないため、須恵器と灰釉陶器は周辺に所在する古代の窯業生産遺跡から持ち込まれたものと考えられる。

(1) 山茶碗

総破片数47,028点、底部1/2以上残存数2,115点を数える。胎土は砂や小石を含み粗いが、焼成が良好なものでも長石粒の吹き出しはほとんどない。器形の相違からAからGの7つに分類することができる。

- A 厚手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下のくびれはほとんどない。口縁部は端部を丸く仕上げている。高台は低く、靱殻痕がみられるが、丁寧に装着されている。底部外面の糸切り痕は高台装着時にぬぐわれて不鮮明である。板目状圧痕がみられるものがある。底部と体部内面の境はわずかに凹む程度である。底部内面中央に指ナデ痕がみられる。焼成良好で白色をしているものが多い。
- B 体部は下方が強くくびれ、上方にかけて逆ハ字状に広がる。他の特徴はAに類似する。
- C 薄手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下でわずかにくびれ外反する。口縁部断面は三日月状を呈し、頂部が尖る。高台は低く、靱殻痕がみられる。不整形に装着されたものや、一部が剥離しているものが目立つ。底部外面の糸切り痕は高台装着時にぬぐわれて不鮮明である。板目状圧痕がみられるものが多い。底部と体部内面の境が凹むものが多い。底部内面中央の指ナデ痕が2・3本残るものがある。焼成良好で灰白色をしているものが多い。

遺構	破片数 (接合前)				底部 1/2 以上数 (接合後)		
	山茶碗	小皿	羽釜	鍋	山茶碗	小皿	焼台
SY01 焼成室	3774	1189	0	0	279	260	71
SY01 分焰柱周辺	5344	565	0	0	103	65	3
SY01 燃烧室	3140	552	0	0	66	75	5
SY01 前庭部	7208	182	0	0	270	21	0
SY01 その他	192	8	0	0	16	1	0
SD02	2942	51	8	1	117	14	1
SX03	28	0	1	0	3	0	7
灰原	3944	161	28	0	282	63	74
検出	6945	147	43	2	153	31	25
表土	6832	148	37	2	423	31	35
トレンチ	5558	197	13	0	352	58	46
その他	1121	83	31	1	51	11	13
合計	47028	3283	161	6	2115	630	280

焼台は接合前 1/2 以上残存数である。

表4 主要出土遺物個体数表

- D 薄手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下でくびれ外反するものが多い。口縁部は端部を丸く仕上げている。高台は低く、靨痕がみられるが、丁寧に装着されている。底部外面の糸切り痕は高台装着時にぬぐわれて不鮮明である。板目状圧痕がみられるものがある。体部と底部内面の境の凹みがなく、底部内面が平らなものと、体部と底部内面の境に稜がみられ、底部内面が浅く凹むものがある。底部内面中央の指ナデ痕がないものがある。焼成良好で白色をしているものが多いが、酸化炎焼成された可能性のある赤褐色をしたものもみられる。
- E A～Dと比べ口径・底径は大きく、器高は逆に低い。薄手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下でくびれ外反するものと、厚手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下のくびれはほとんどないものがある。口縁部は端部を丸く仕上げている。高台は頂部がつぶれ、逆台形を呈し、靨痕がみられる。不整形に装着されたものが多い。厚手のものに高台の剥離が目立つ。底部外面の糸切り痕は明瞭で間隔が広い。板目状圧痕はないものが多く、あっても糸切り痕が一部消える程度である。体部と底部内面の境に明瞭な稜がみられるものが多い。底部内面は浅く凹み、底部内面中央の指ナデ痕がないものが多い。焼成良好で灰白色をしているものが多い。
- F 高台を除き、Eの薄手に類似する。高台は幅広で高く、断面が逆三角形をしている。靨痕はなく丁寧に作られている。底部外面の糸切り痕が明瞭にみられ、板目状圧痕は痕跡程度である。体部外面下方がくびれる。
- G 薄手で、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部直下でわずかにくびれ外反する。口縁部は先端にいくほど細くなるように仕上げている。高台は幅広で高く、断面が逆台形をしている。靨痕以外に砂利痕がみられるものがある。底部外面の糸切り痕は不鮮明である。板目状圧痕はみられない。体部と底部内面の境に稜はみられず、底部内面は凹むことなく平らで、底部内面中央の指ナデ痕はみられない。暗灰色をしている。

(2) 小皿

総破片数3,283点、底部1/2以上残存数630点を数える。山茶碗と同様の胎土で、砂や小石を含み粗いが、焼成が良好なものでも長石粒の吹き出しはほとんどない。器形の相違からaからhの8つに分類することができる。

- a 厚手で、体部は丸みを持って立ち上がる。口縁部の断面は四角形をしている。体部と底部外面の境は明瞭である。b・cと比べ底部外面の糸切り痕がみられる割合が高い。板目状圧痕がみられるものが多い。底部と体部内面の境は明瞭で、底部内面中央に指ナデ痕がみられる。焼成良好で白色をしているものが多い。大小2サイズある。
- b 体部と底部外面の境は不明瞭である。底部外面の糸切り痕はぬぐわれて不鮮明である。他の特徴はaに類似する。
- c 厚手で、体部下方はわずかにくびれ、上方にかけて丸みを持って立ち上がる。体部と底部外面の境は明瞭である。底径がa・bと比べ狭い。他の特徴はbに類似する。
- d 薄手で、体部は丸みを持って立ち上がる。口縁部の断面は三角形をしている。器高が低く、底径が広い。底部外面の糸切り痕は明瞭で、板目状圧痕がみられるものが多い。底部と体部内面の境は明瞭で、底部内面中央に指ナデ痕がみられる。焼成良好で灰色をしているものが多い。

- e 厚手で、体部は丸みを持って立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げている。底部外面に糸切り痕と板目状圧痕がみられるものが多い。底部と体部内面の境に工具による整形痕が円形に残るものが多い。底部内面中央の指ナデ痕は薄い。焼成良好で灰白色をしているものが多いが、酸化炭焼成された可能性のある赤褐色をしたものもみられる。
- f 厚手で、体部下方がくびれ、上方にかけて丸みを持って立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げている。底径が狭く、底部外面の糸切り痕は明瞭で間隔が広い。板目状圧痕がみられるものが多い。体部と底部内面との境が不明瞭であり、底部内面中央の指ナデ痕は薄い。焼成良好で灰白色をしているものが多い。
- g 薄手で、体部は下方がくびれ、口縁部にかけて外反する。口縁部の断面は三日月状を呈し、頂部が尖る。他の特徴は f に類似する。
- h 厚手で、体部下方がくびれ、上方にかけて丸みを持って立ち上がる。口縁部の断面は三日月状を呈し、頂部が尖る。底径が狭く、底部外面の糸切り痕は明瞭で間隔が広い。板目状圧痕はほとんどみられない。体部と底部内面との境は f より不明瞭であり、底部内面中央の指ナデ痕はみられない。焼成良好で灰白色をしているものが多い。

(3) 蓋 (354、401~403)

4 個体分出土した。厚手で、平らな頂部中央に円柱状のつまみを持つ。体部は丸みを持って緩やかに下がり、口縁部に近づくと急に下がる。端部は丸く仕上げている。内面に指による整形痕がみられる。外面全面に自然釉がかかる。出土位置や焼成具合などから、S Y O 1 で焼成されたと考えられる。

(4) 片口鉢

口縁部 (428) と底部 (429) の破片がそれぞれ 1 点ずつ出土した。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は大きく内傾する。片口部分は付け根の部分のみ残存していた。底部は平底で外面に糸切り痕が明瞭にみられる。内面に自然釉がかかる。糸切り痕や胎土から山茶碗 E と同時に焼成されたと考えられる。

(5) 仏供 (696)

底部のみ 1 点出土した。山茶碗と同様の胎土をし、焼成具合は良好で灰白色を呈する。底部より 5 mm ほど下方で糸切りし、底部との境を凹ませ脚台を作出している。底部内面に指ナデ痕、底部外面に糸切り痕がみられる。

(6) 羽釜

破片で 161 点出土した。器形や焼成具合の相違から 7 個体以上はあると思われる。胎土は粗く、焼成良好のものも多く、生焼けの 1 点を除き、赤褐色、赤黒色、灰色を呈する。まず底部から体部を作り、次に鰐をはりつけ、鰐下方の体部との接着面をナデて接合する。そのため鰐の表面が垂直に装着されているのに対し、裏面の断面は丸く円弧を描く。最後に口縁部を装着するが、内面をナデて接合している。鰐先端の断面は三角形が多いが四角形のものもある。口縁部は内湾した後、端部が逆にわずかに外反し、断面は逆台形状を呈す。端部と鰐との間に稜が 2~3 本入るものが多い。

体部内面に斜めにヘラ削りの痕跡がみられる。底部は平底をし、体部との境は不明瞭で、丸く立ち上がる。底部内面や口縁部から鏝にかけて自然釉がかかるものが多い。体部の接合面に斜めに刻み目をいれたもの（469）がある。SY01からは出土しておらず、別の窯体で焼成されたと考える。

(7) 鍋（462、722～725）

胎土は羽釜と同様で、赤褐色を呈する。破片で6点出土したが、体部だけの破片では羽釜と区別できない。口縁部が受け口状を呈し、体部と口縁部を別につくり装着しており、体部内面に接合痕が残る。器形や焼成具合の相違から2個体程度と思われる。受け口部分に自然釉がかかるものが多い。羽釜と同様にSY01からは出土しておらず、別の窯体で焼成されたと考える。

(8) 焼台

形状や焼成具合から3つに分類することができる。山茶碗焼成用の焼台以外に、小皿焼成用の小型のものが出土している。

SY01から出土したものは、不定形の円形をしており、山茶碗用の大型のもの、小皿用の小型のものがある。焼成具合は大変良好で白色をし、裏面に床が付着したものが多い。側面には整形時の手の痕が、表面には遺物痕がみられる。

SY01以外から出土した焼台は青灰色と赤褐色をしたものがあり、さらに青灰色のものには小皿焼成用の小型のもの（734）がある。SY01から出土したもの比べると小振りですらに作られている。裏面に床に敷かれた砂利やスサの痕跡が、表面に遺物や靱殻の痕跡がみられる。赤褐色のものの中に1点だけであるが、表面に羽釜の胴部片が溶着するもの（726）があるため、赤褐色の焼台は羽釜焼成時に使用された可能性がある。

(9) 分焰棒（735）

焼成時に炎の調整のため分焰柱付近に置かれたと考えられているものである。山茶碗と焼台が溶着したものを2段積み、さらに頂部に先端が緩やかに尖った粘土塊をのせている。全面に自然釉がかかる。使用されている山茶碗と焼台からSY01で使用された可能性が高い。

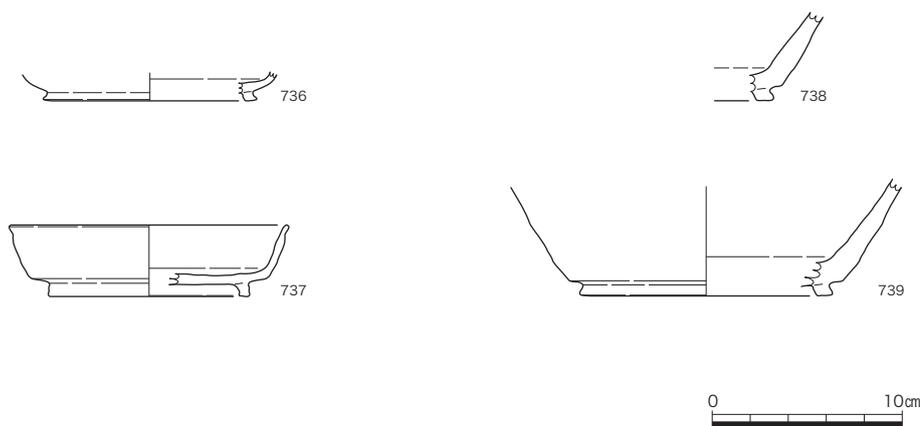
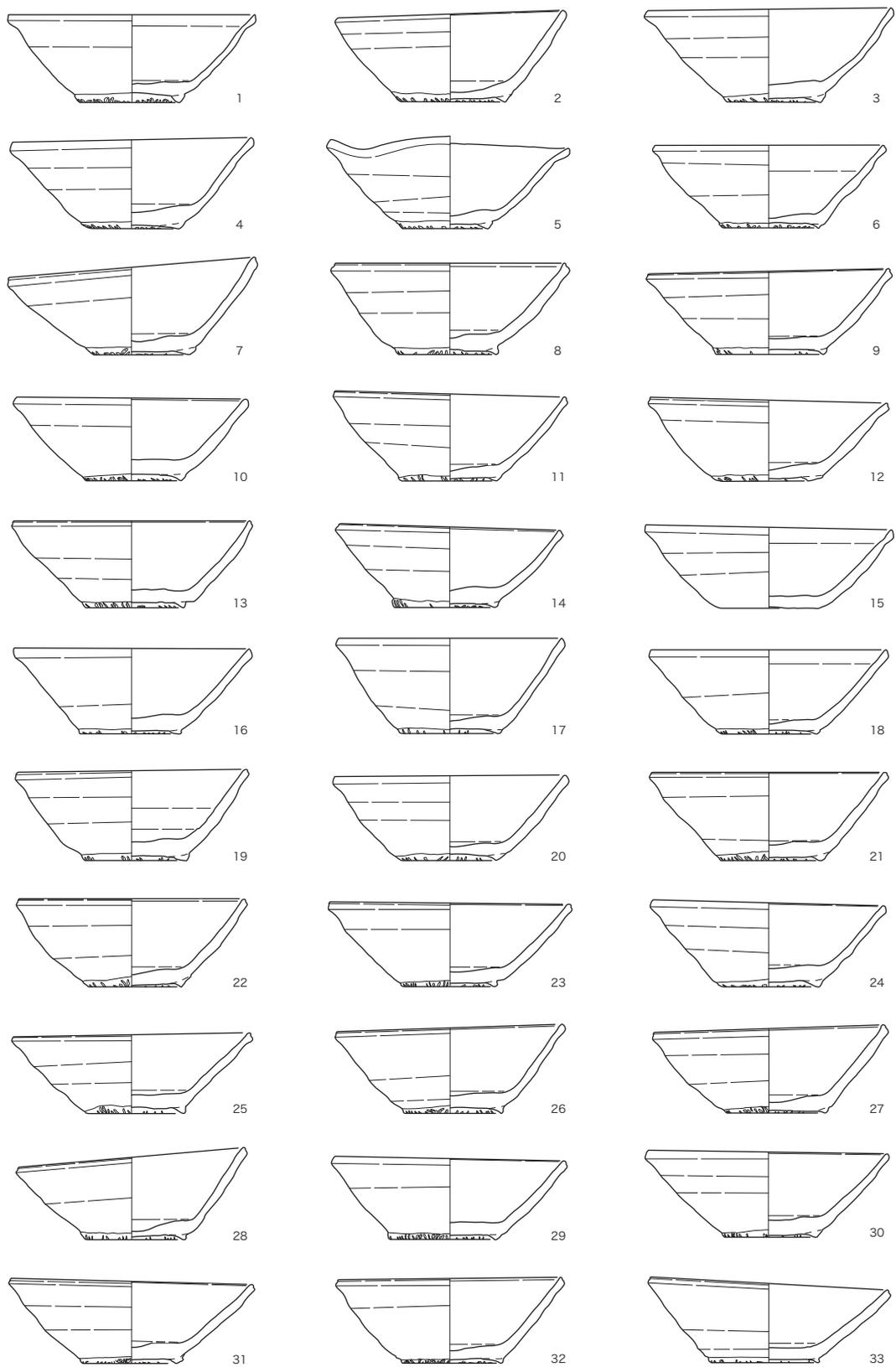


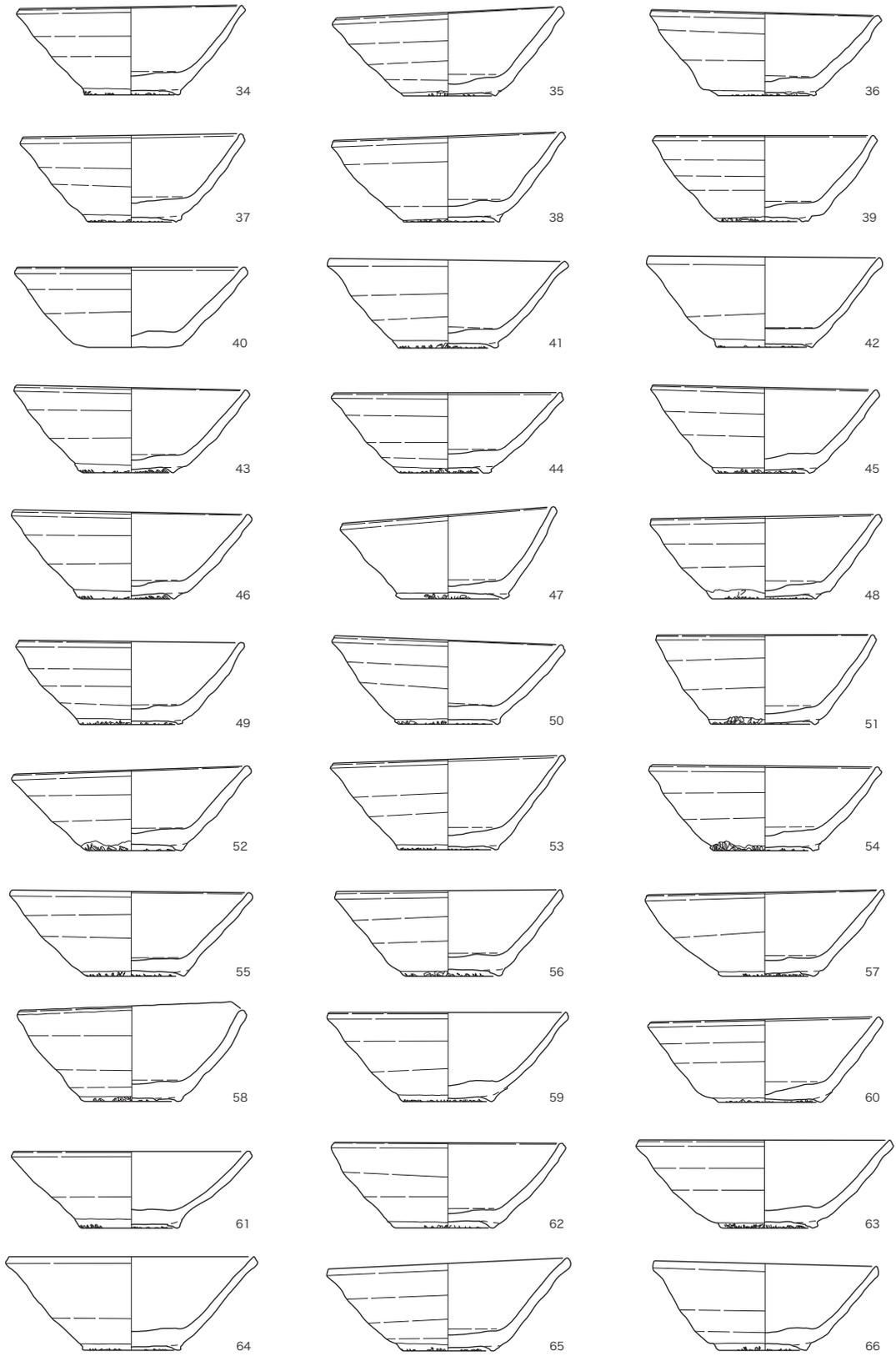
図20 出土遺物実測図（須恵器・灰釉陶器）（S=1/4）



1~33 SY01



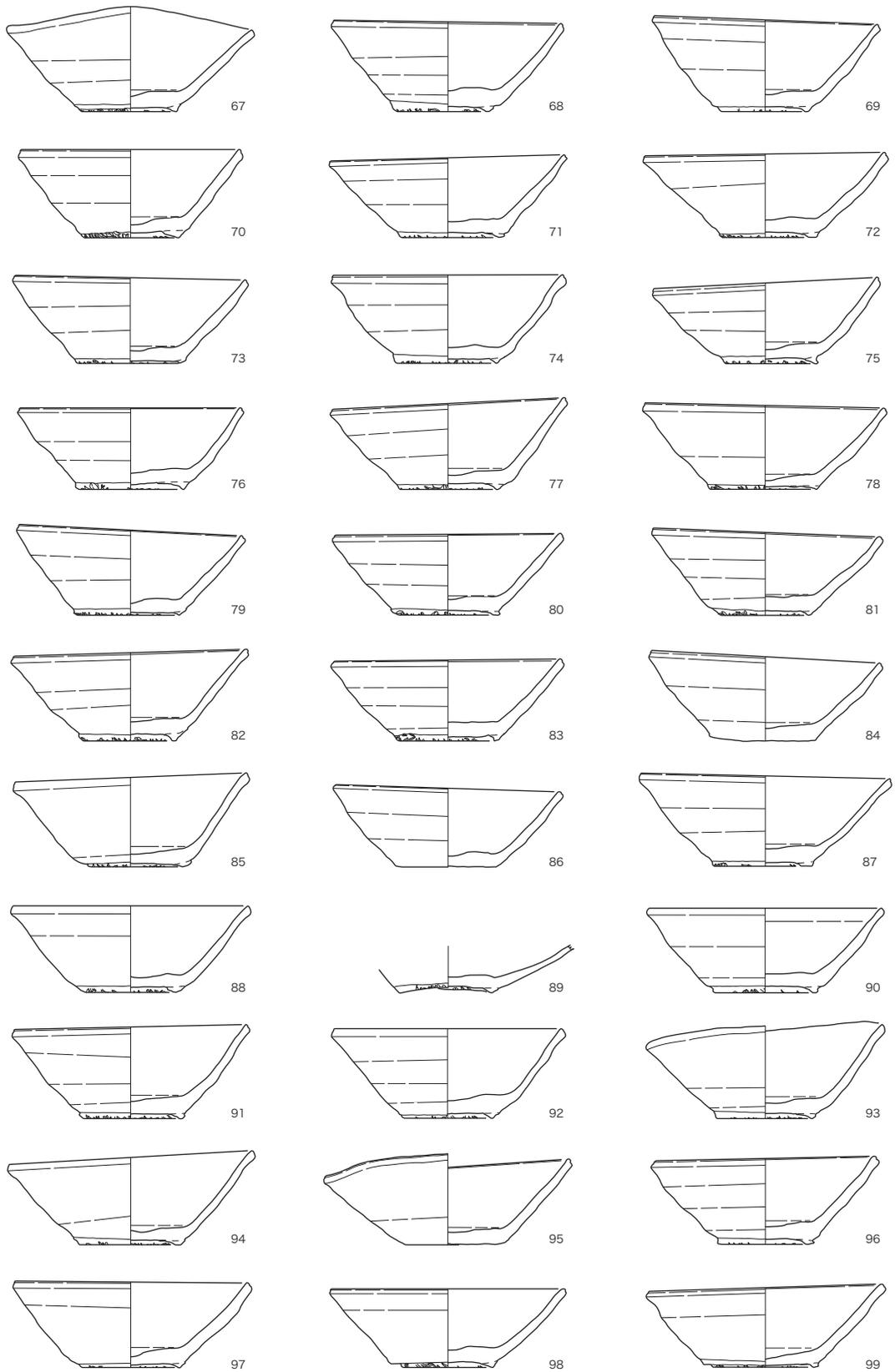
图21 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



34~66 SY01



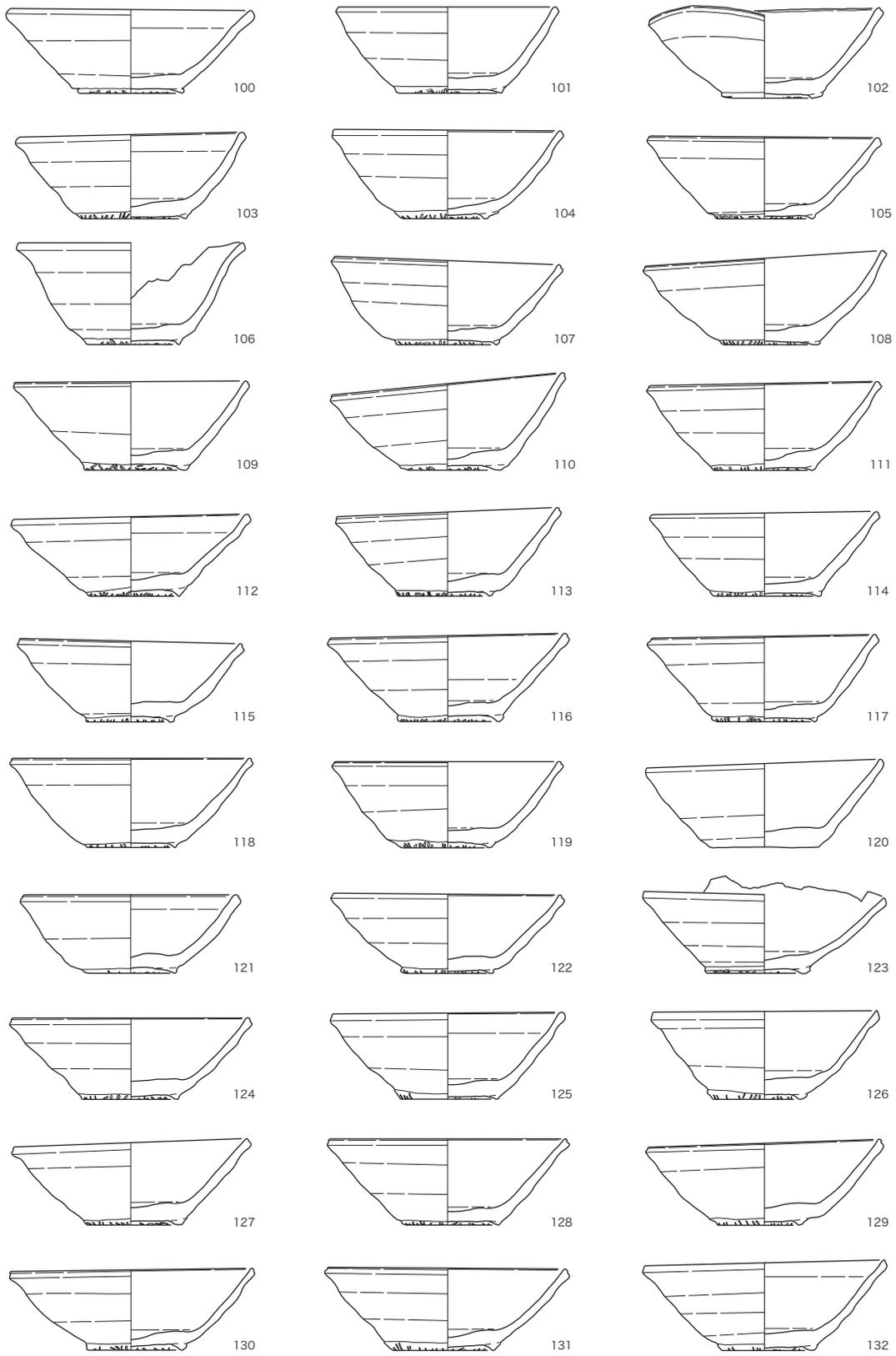
图 22 出土遺物実測図 (山茶碗) (S=1/4)



67~99 SY01



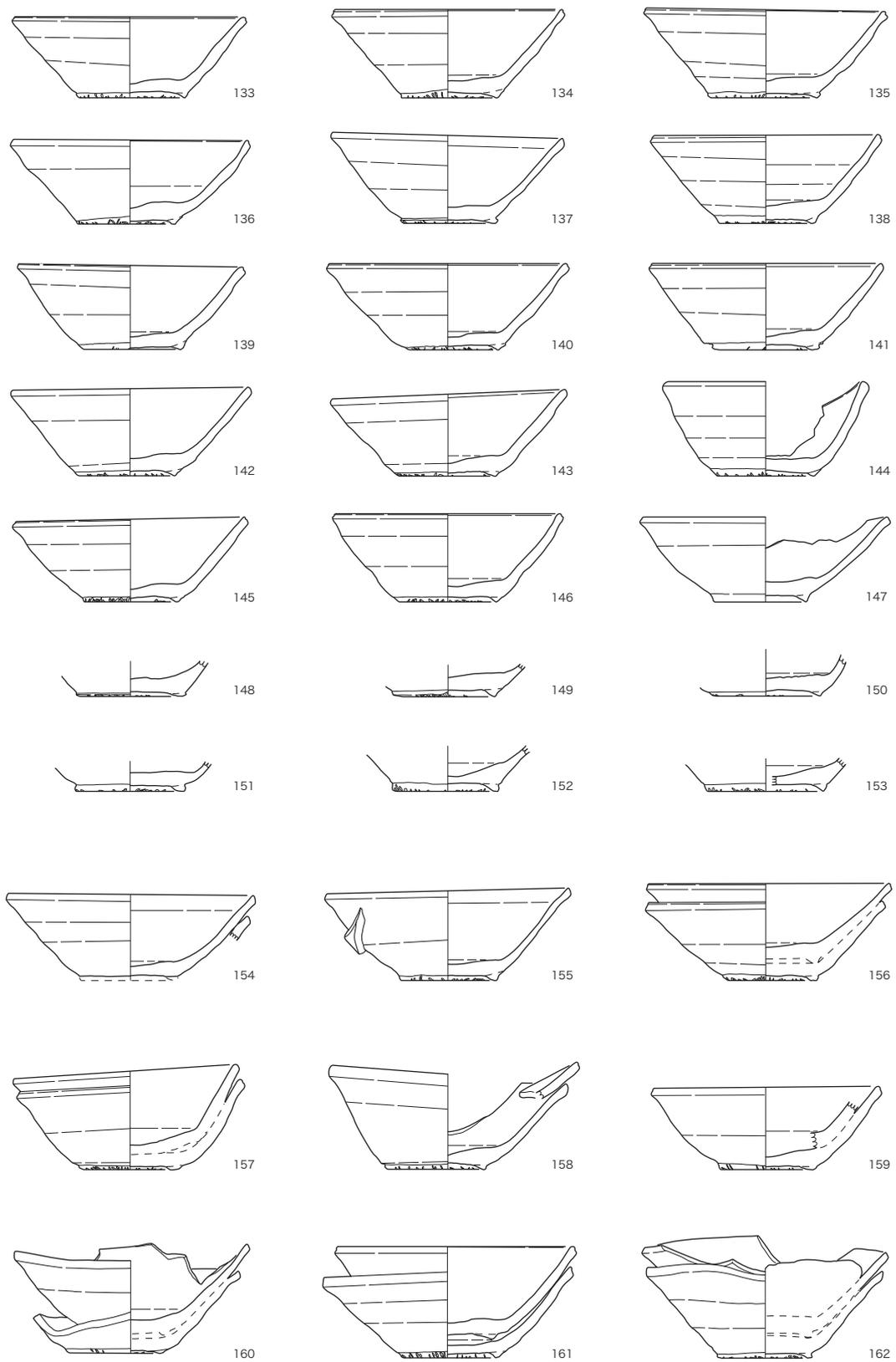
图23 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



100~132 SY01



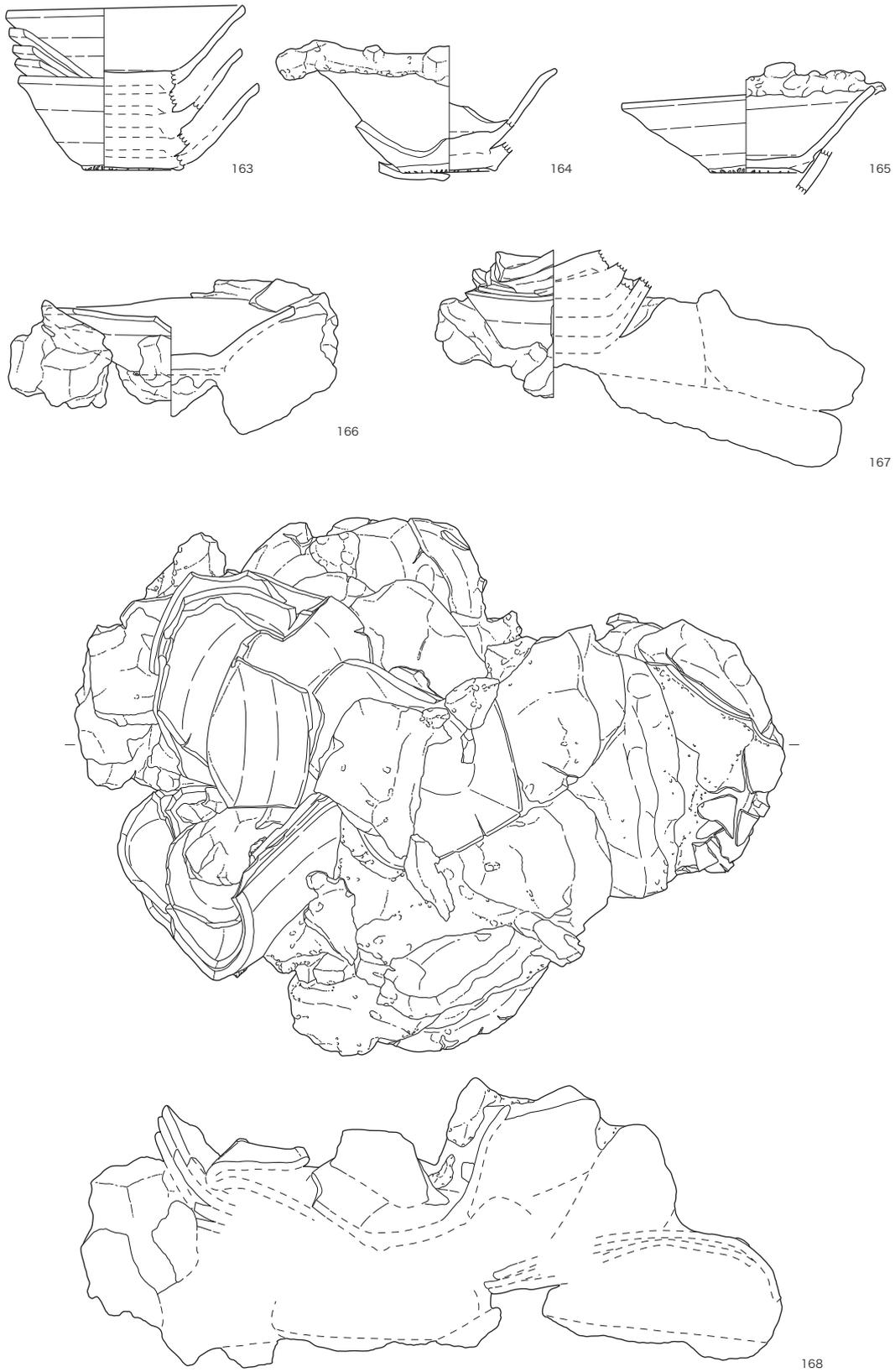
图 24 出土遺物実測図 (山茶碗) (S=1/4)



133~162 SY01



图25 出土遺物実測図(山茶碗・溶着)(S=1/4)



163~168 SY01



图26 出土遺物実測図(山茶碗溶着)(S=1/4)

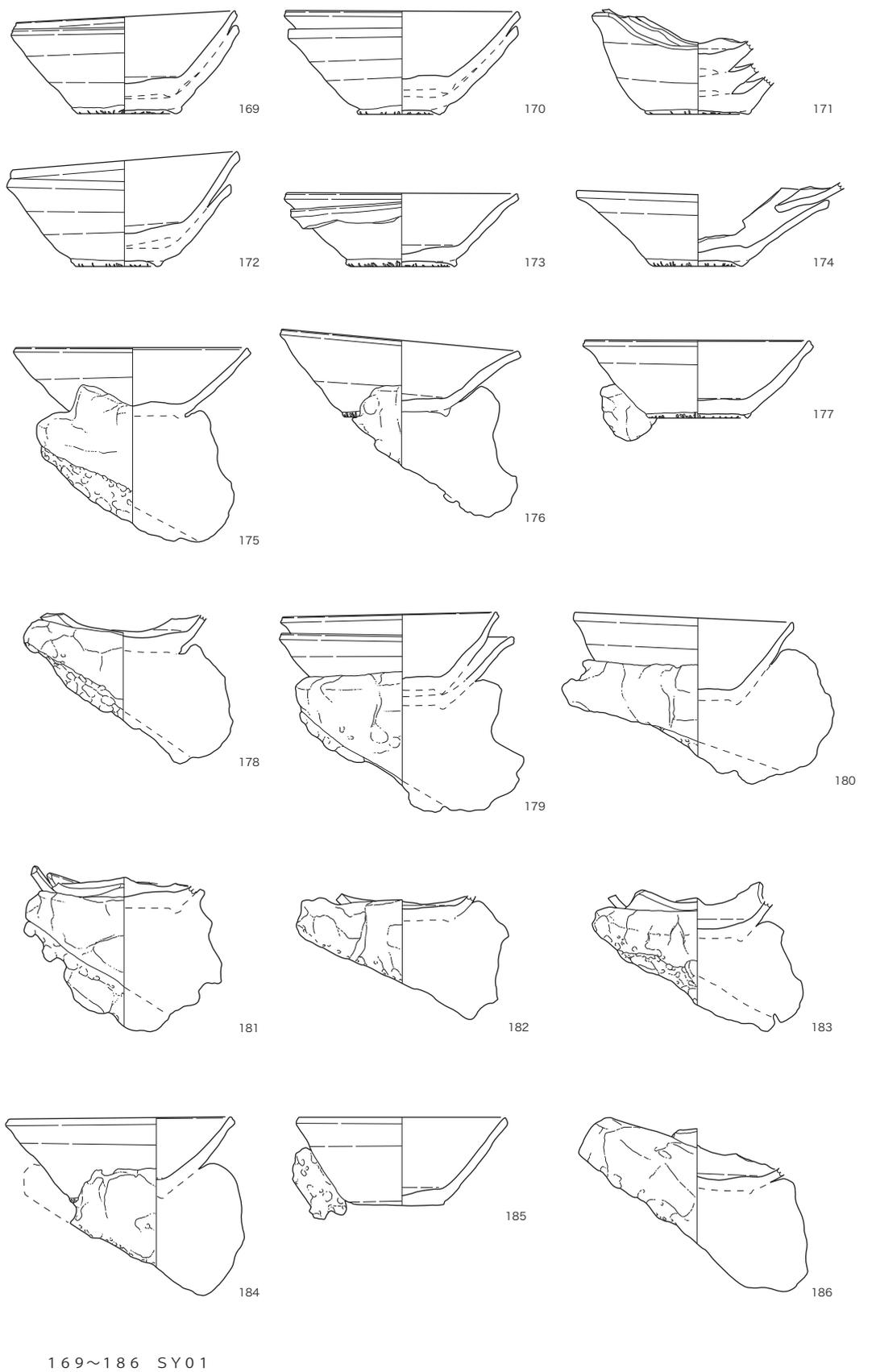
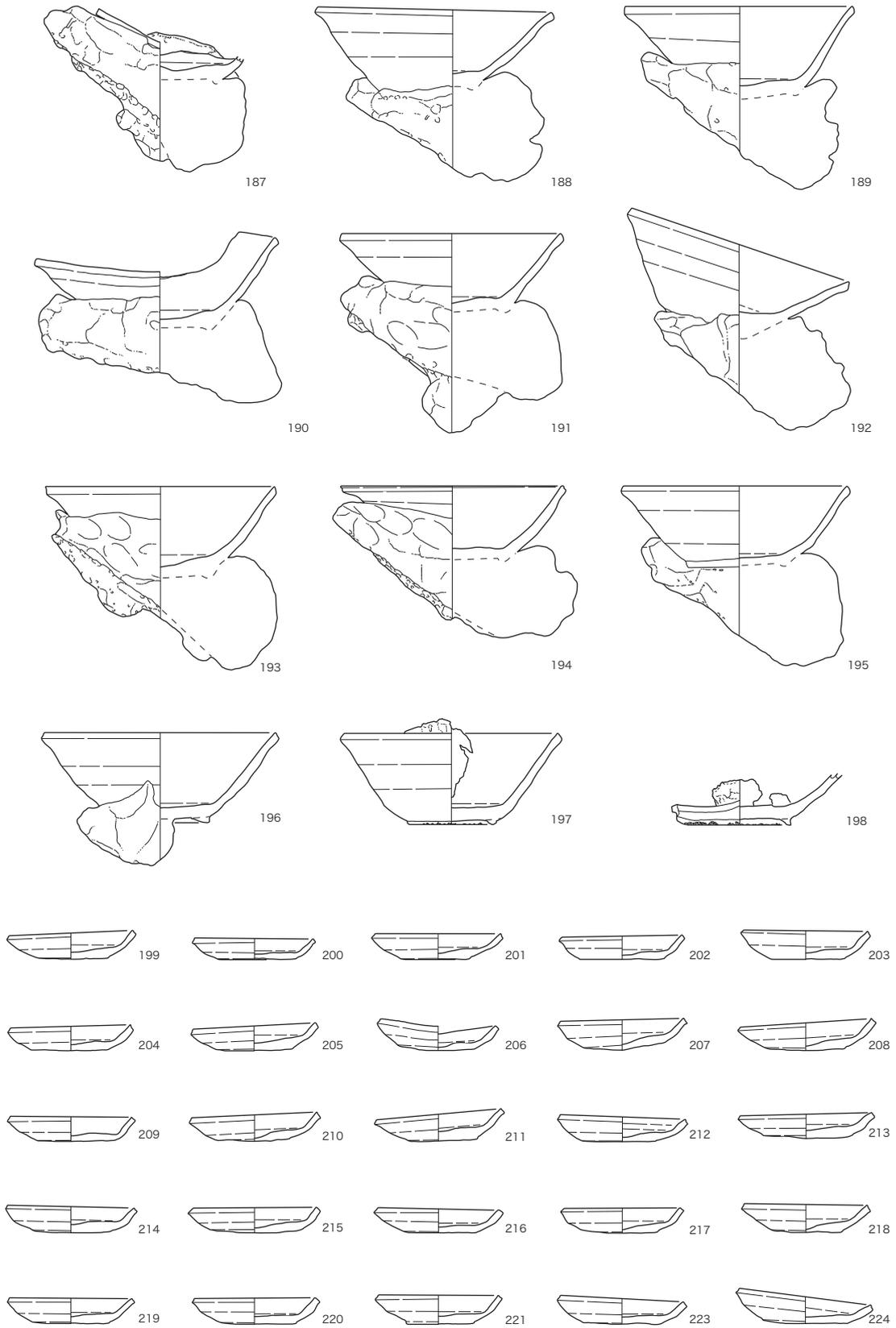


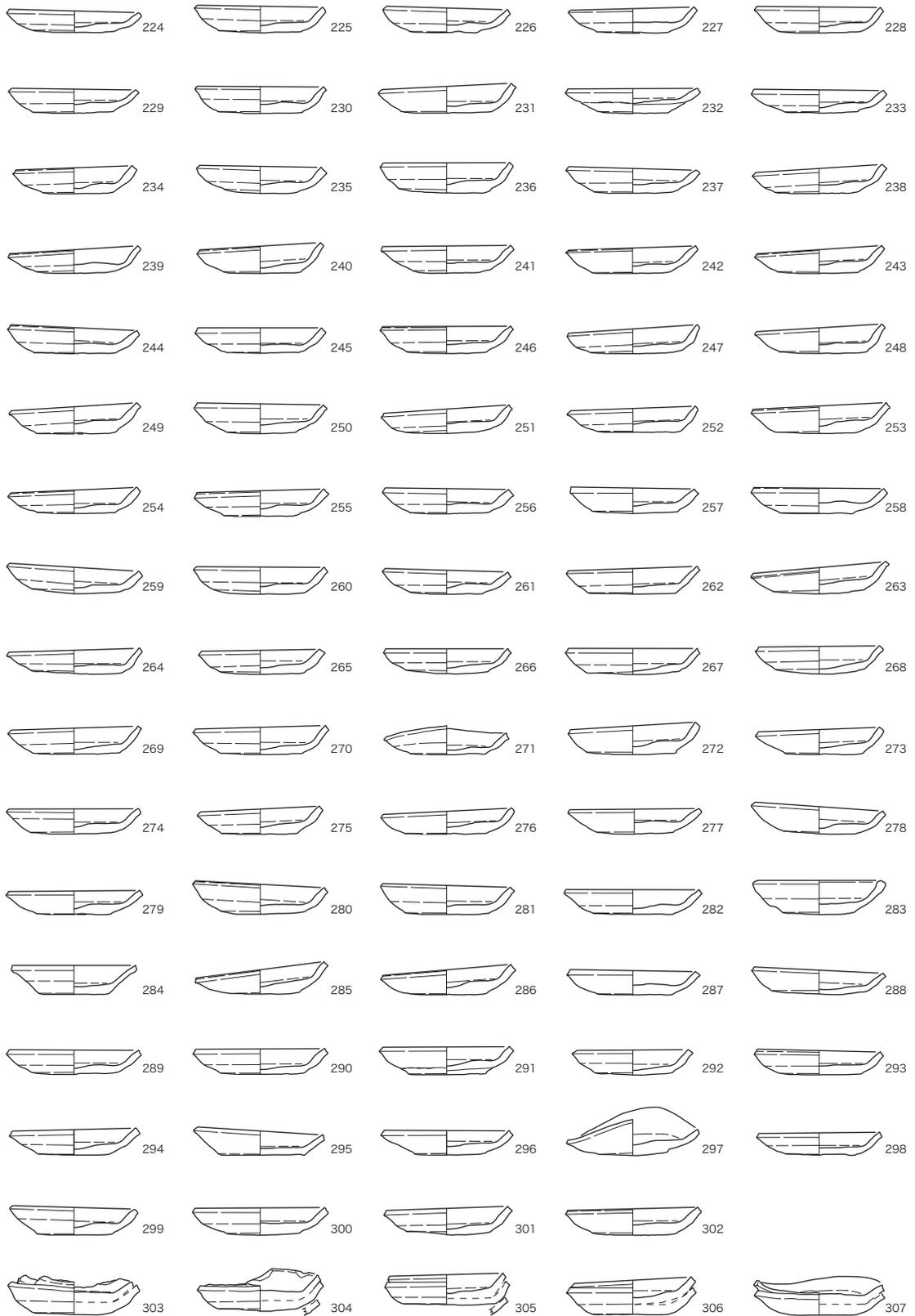
图27 出土遺物実測図（山茶碗溶着）（S=1/4）



187~224 SY01



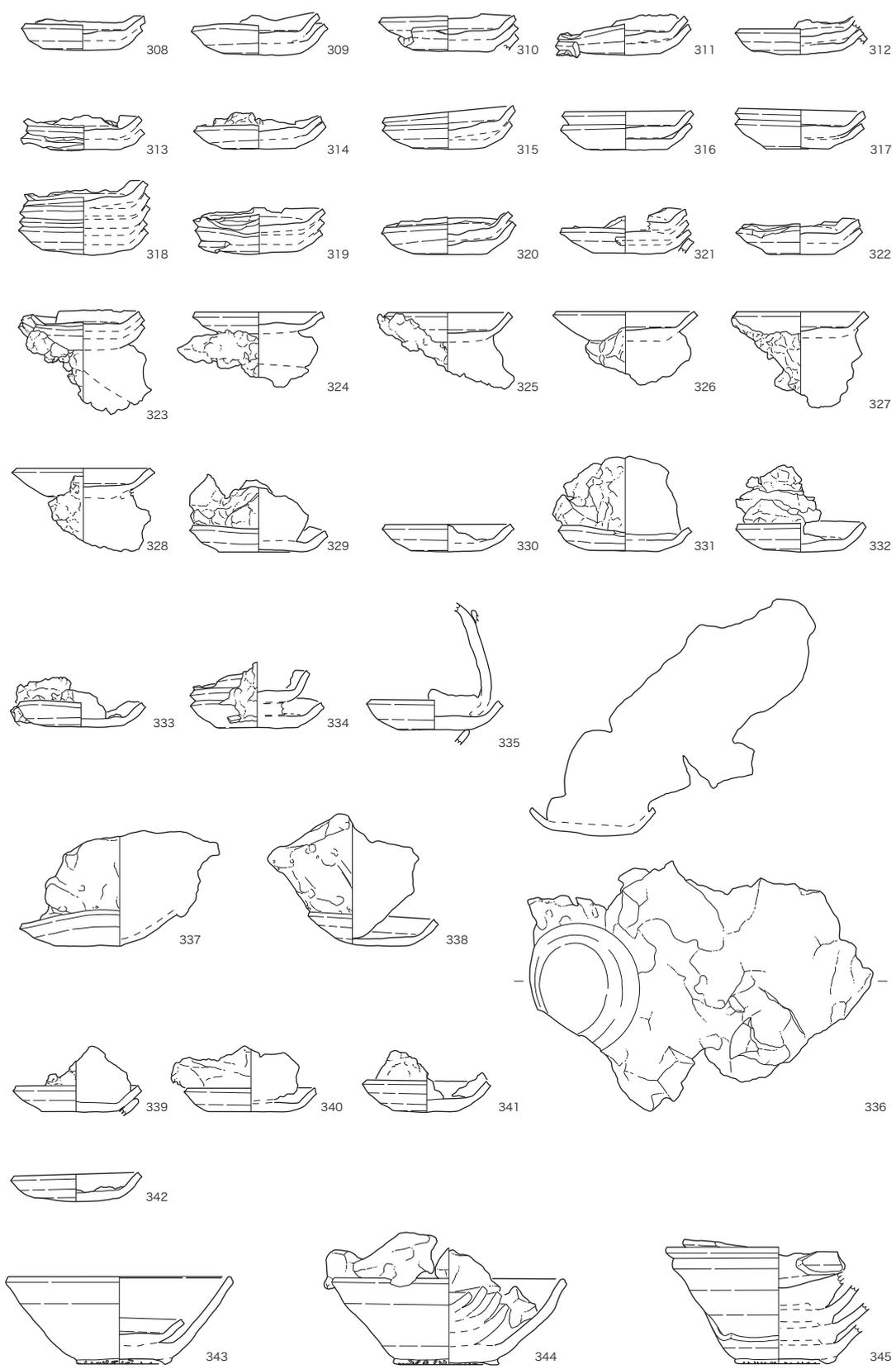
图 28 出土遺物実測図 (山茶碗溶着・小皿) (S=1/4)



187~307 SY01



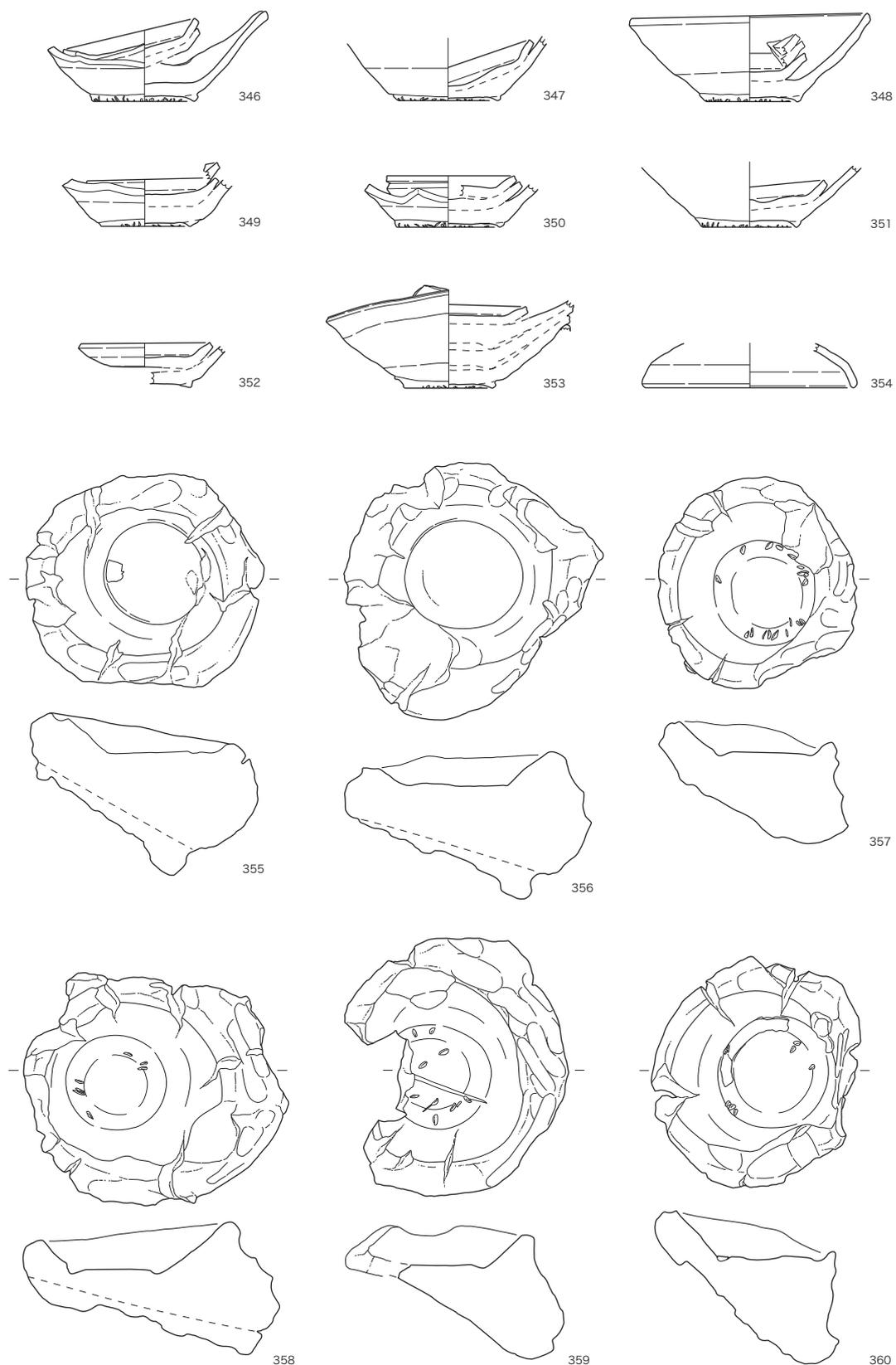
图29 出土遺物実測図 (小皿・溶着) (S=1/4)



308~345 SY01



图30 出土遺物実測図(小皿山茶碗溶着)(S=1/4)



346~360 SY01

0 10cm

图31 出土遺物実測図(山茶碗小皿溶着・蓋・焼台)(S=1/4)

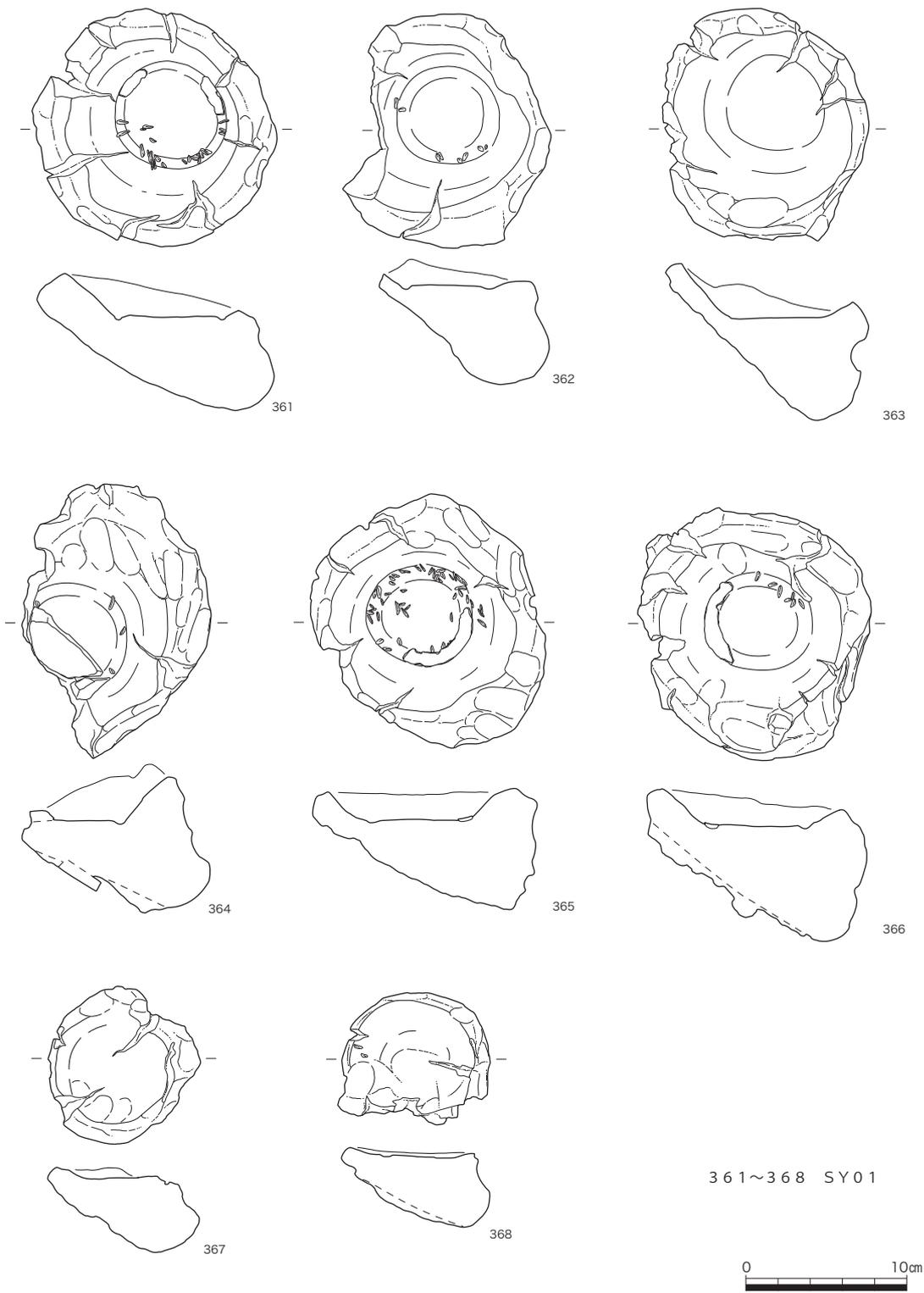
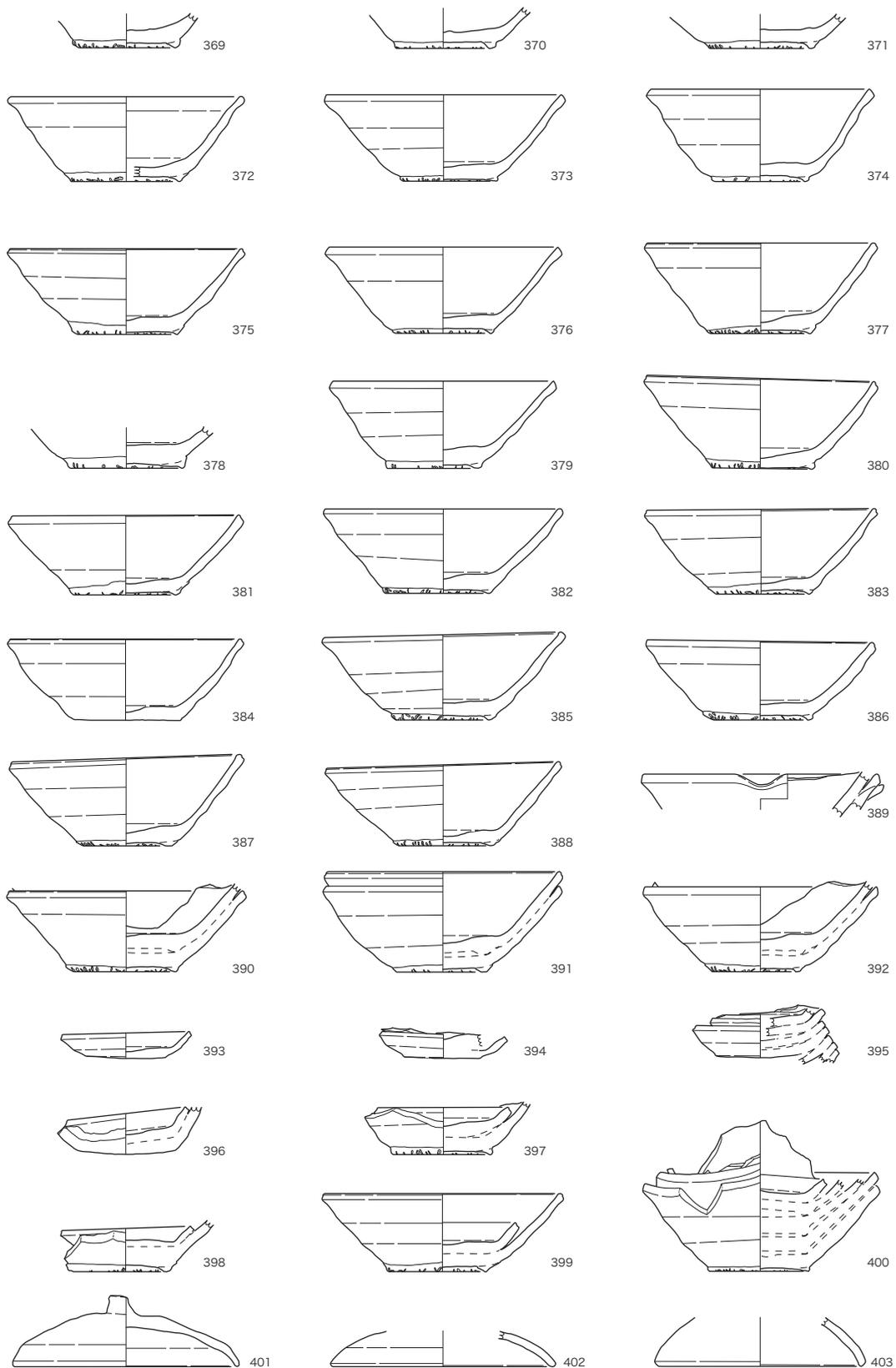


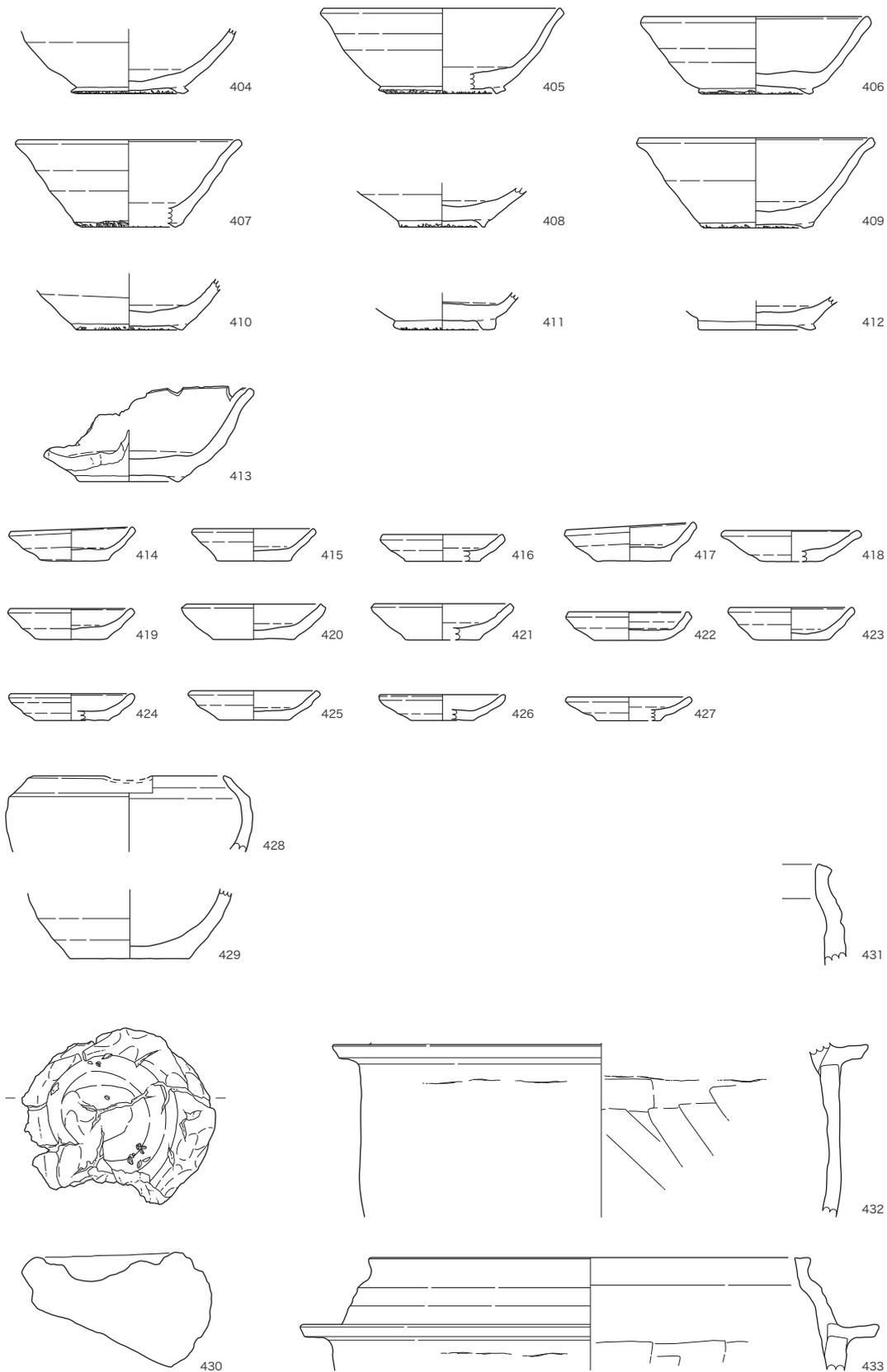
图32 出土遺物実測図(焼台)(S=1/4)



369~403 SY01前庭部



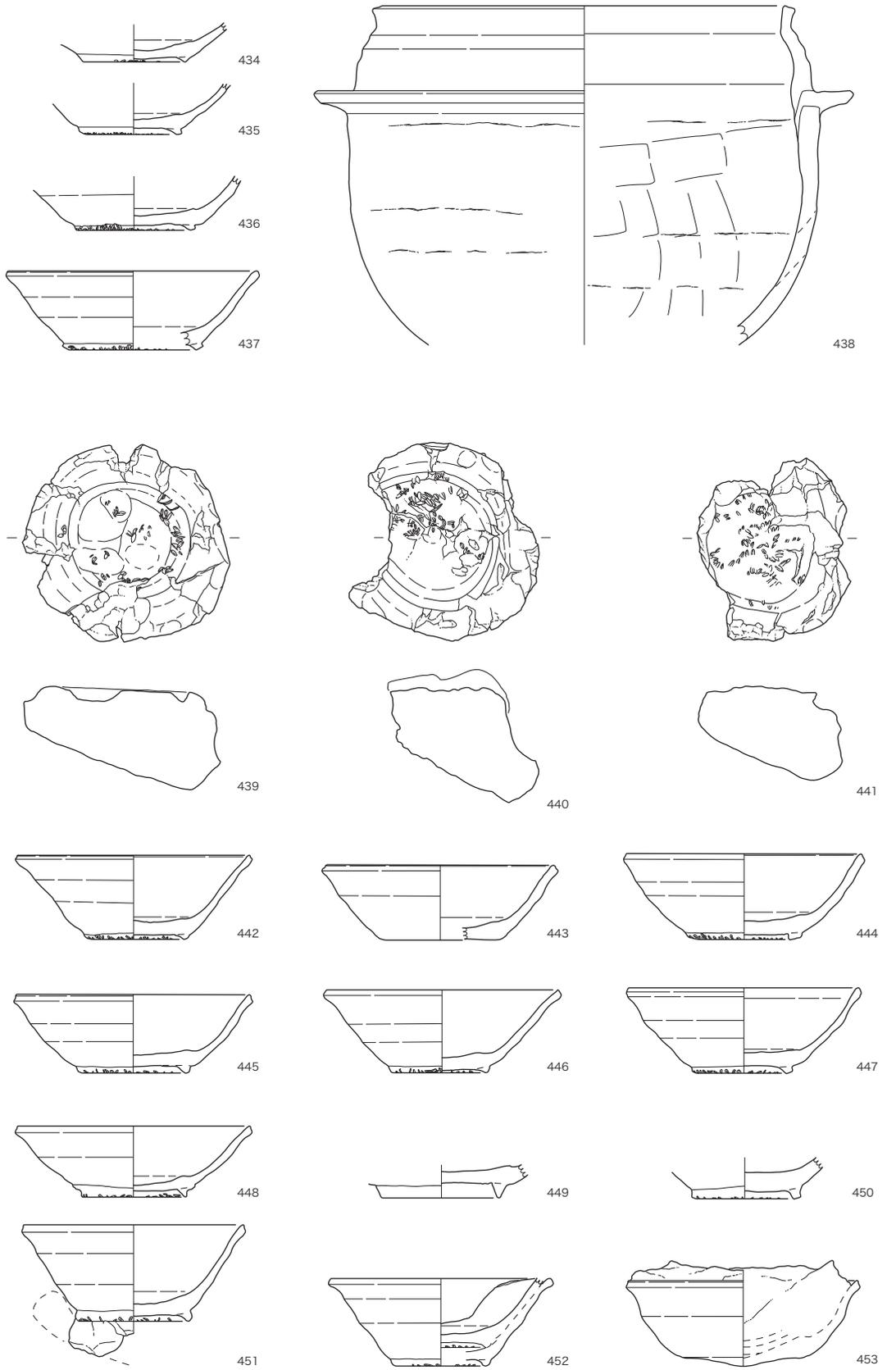
图33 出土遺物実測図(山茶碗・小皿・溶着・蓋)(S=1/4)



404~427、429~433 SD02 428 表土



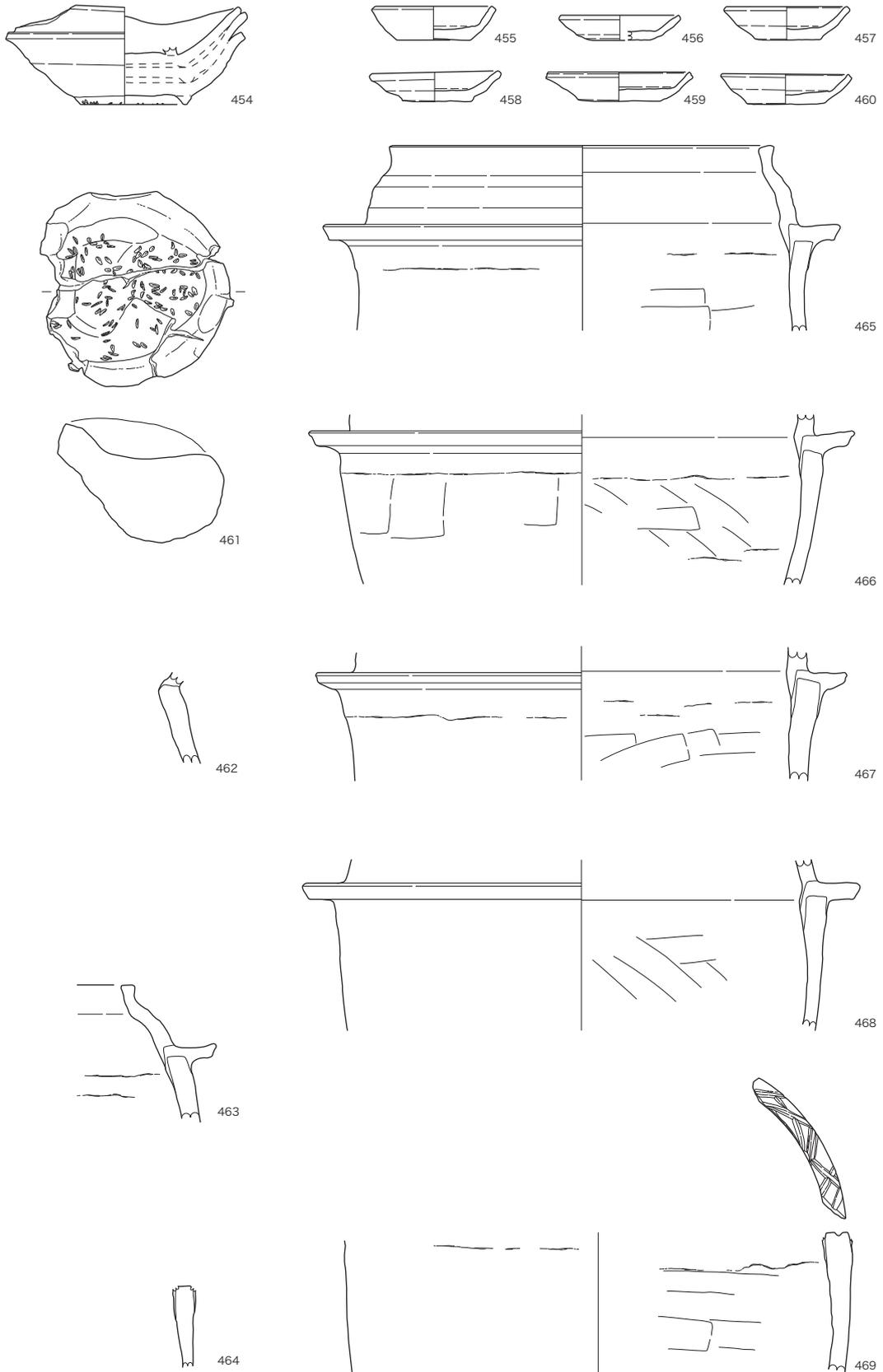
图34 出土遺物実測図(山茶碗・小皿・片口鉢・烧台・羽釜)(S=1/4)



434~441 SX03 442~453 灰原



图35 出土遺物実測図(山茶碗・羽釜・焼台・溶着)(S=1/4)



454~469 灰原



图36 出土遺物実測図(山茶碗溶着・小皿・焼台・鍋・羽釜)(S=1/4)

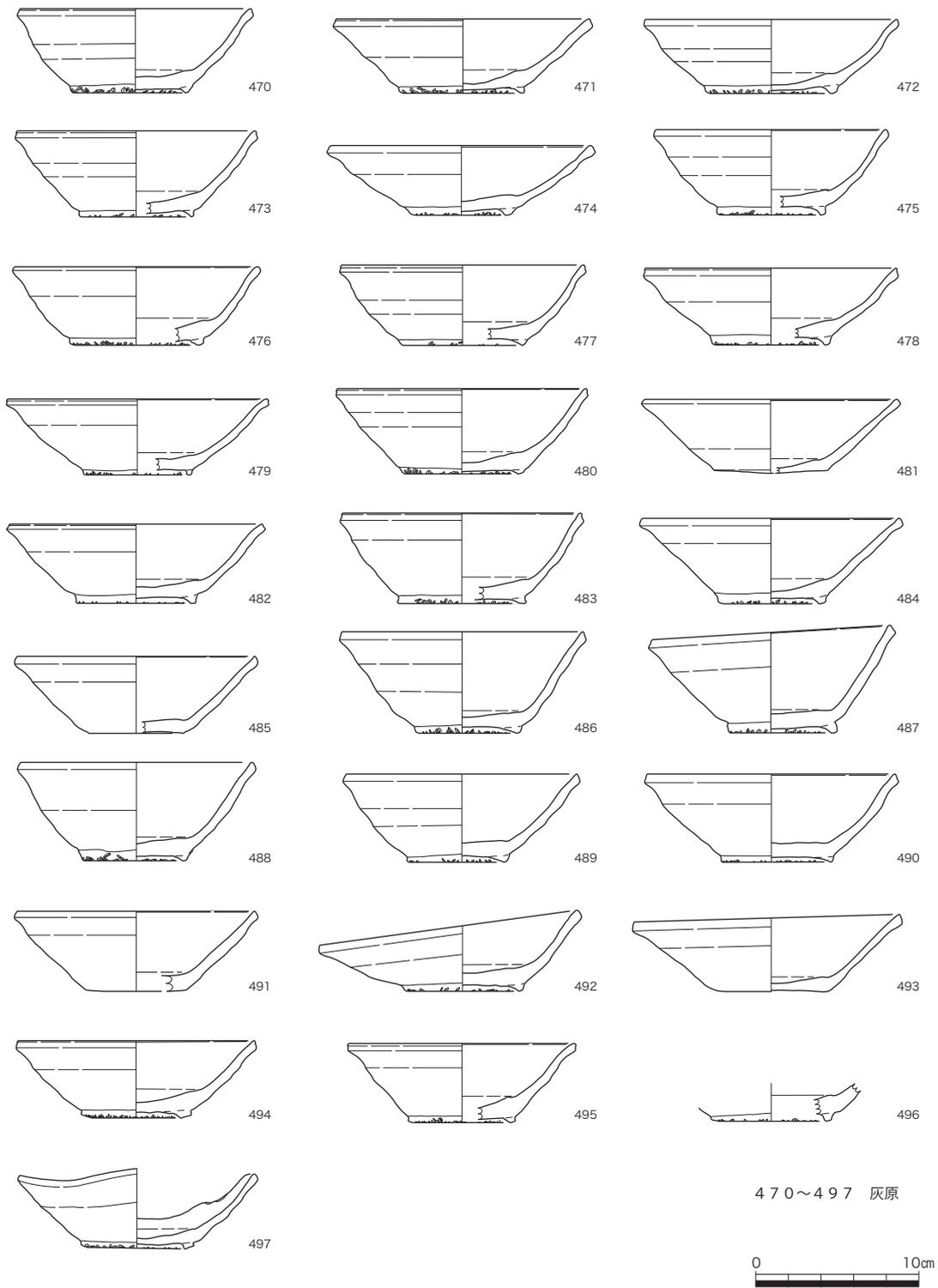
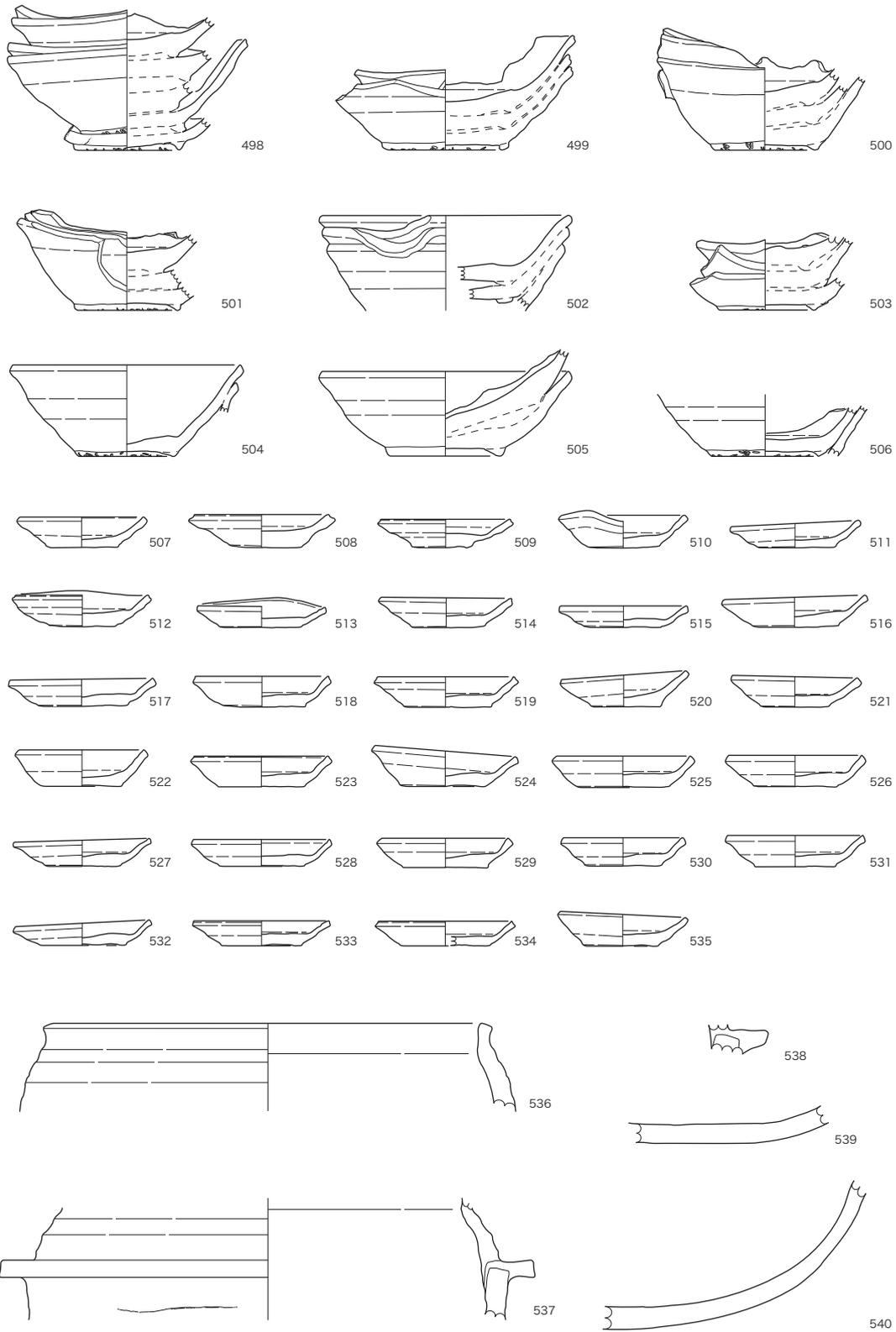


图37 出土遺物実測図（山茶碗）（S=1/4）



498~540 灰原

图38 出土遺物実測図 (山茶碗溶着・小皿・羽釜) (S=1/4)

0 10cm

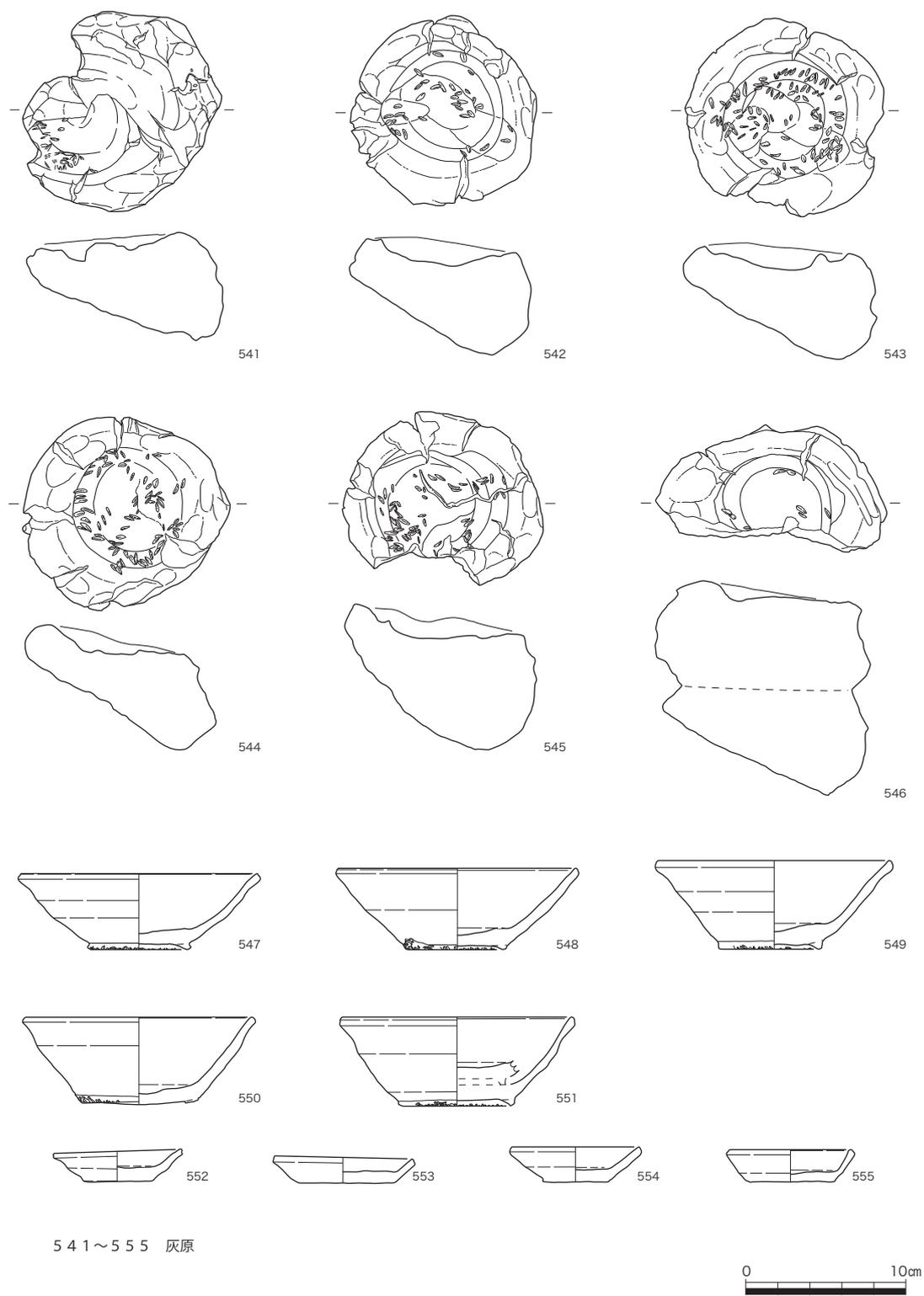


图39 出土遺物実測図（烧台・山茶碗・溶着・小皿）（S=1/4）

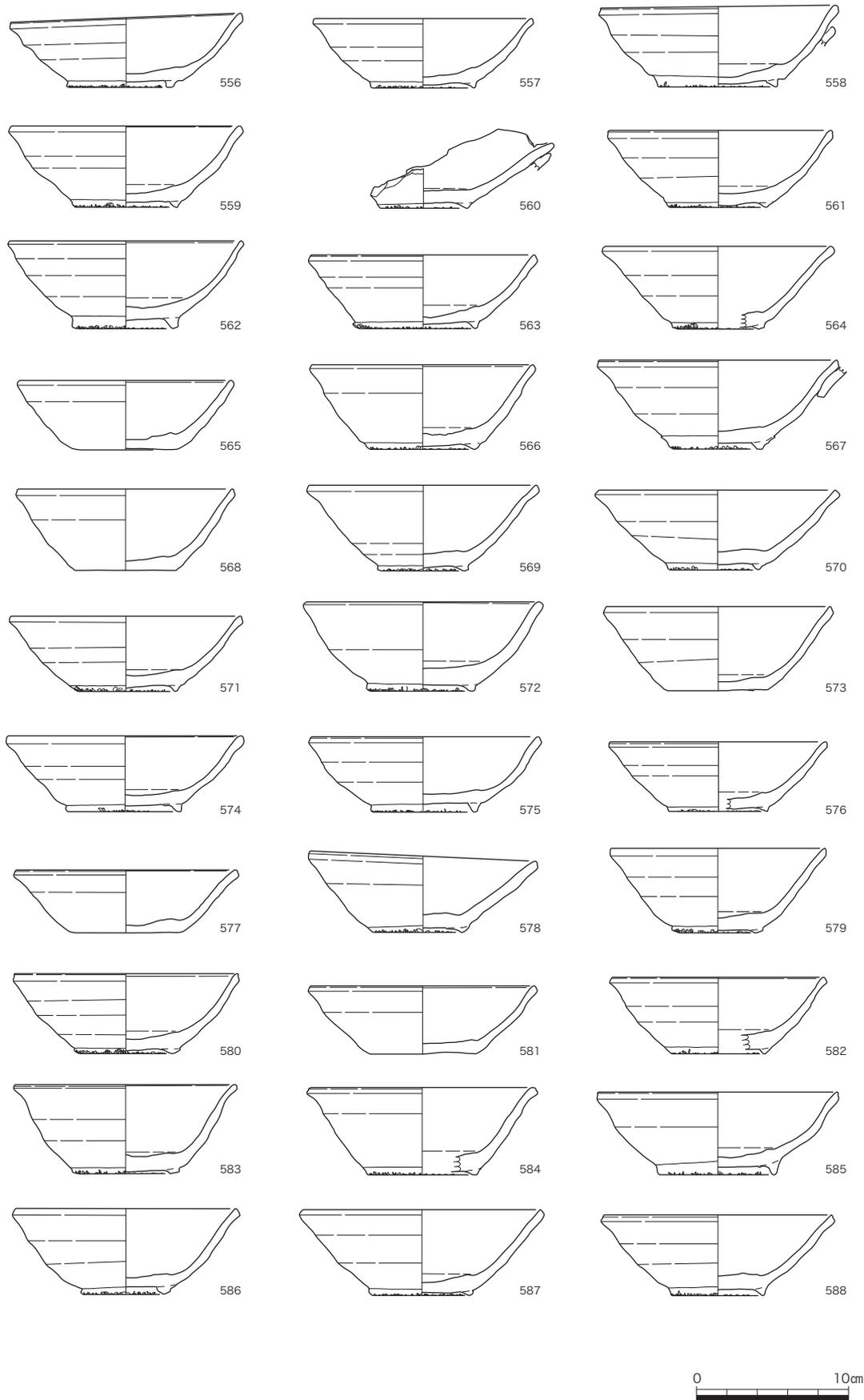


图40 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)

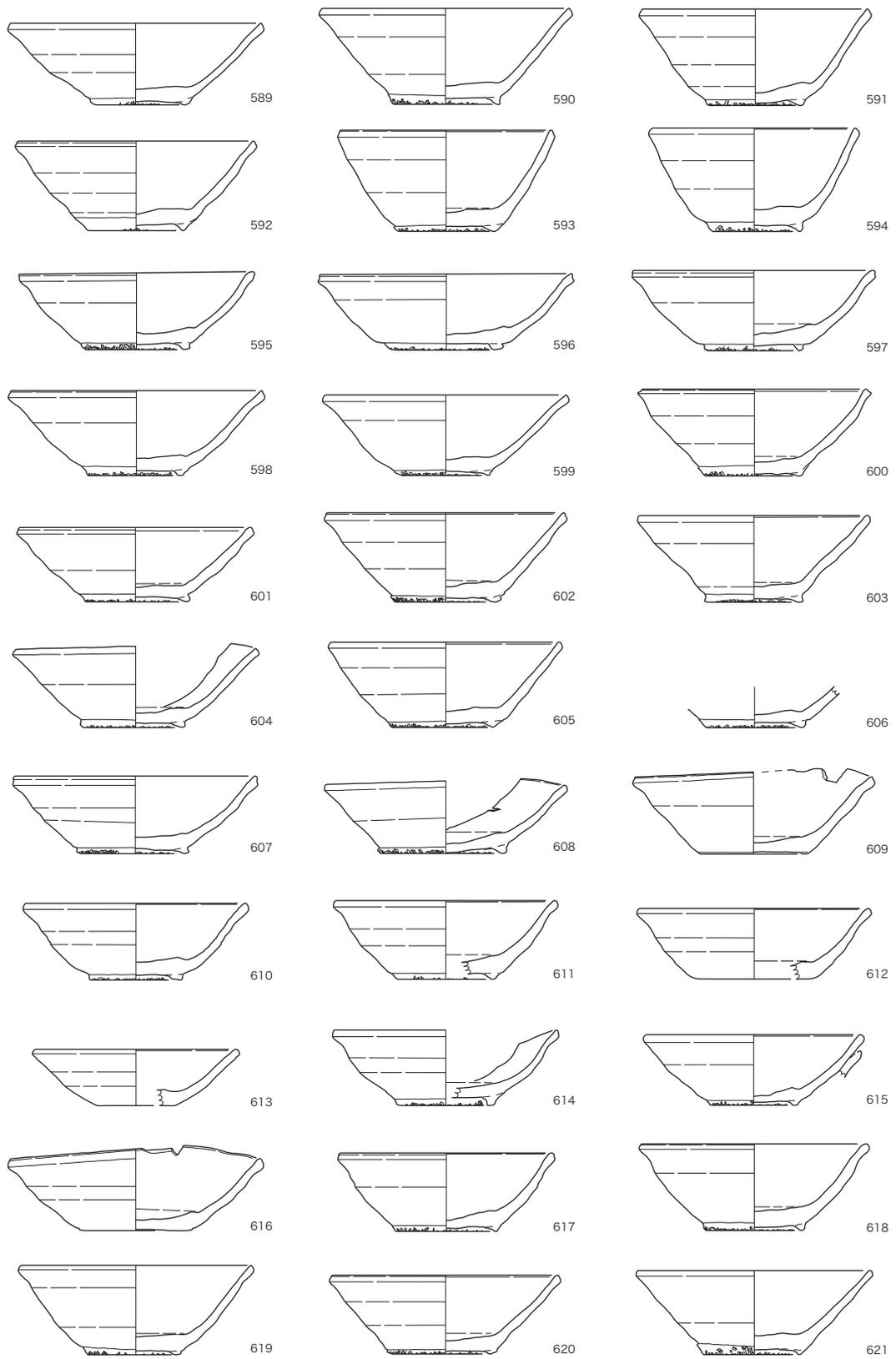


图41 出土遺物実測図（山茶碗）（S=1/4）

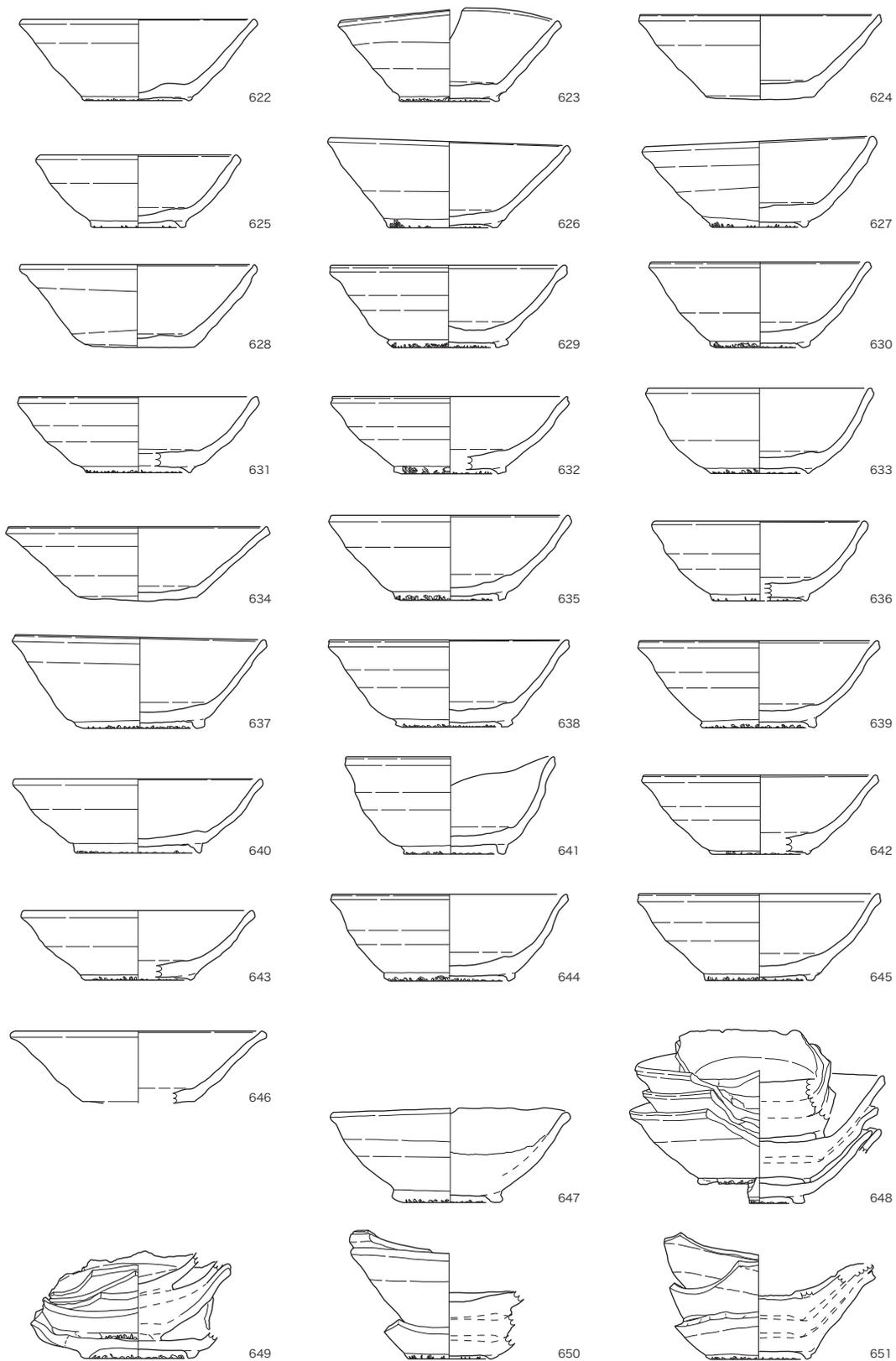


图4.2 出土遺物実測図（山茶碗・溶着）（S=1/4）

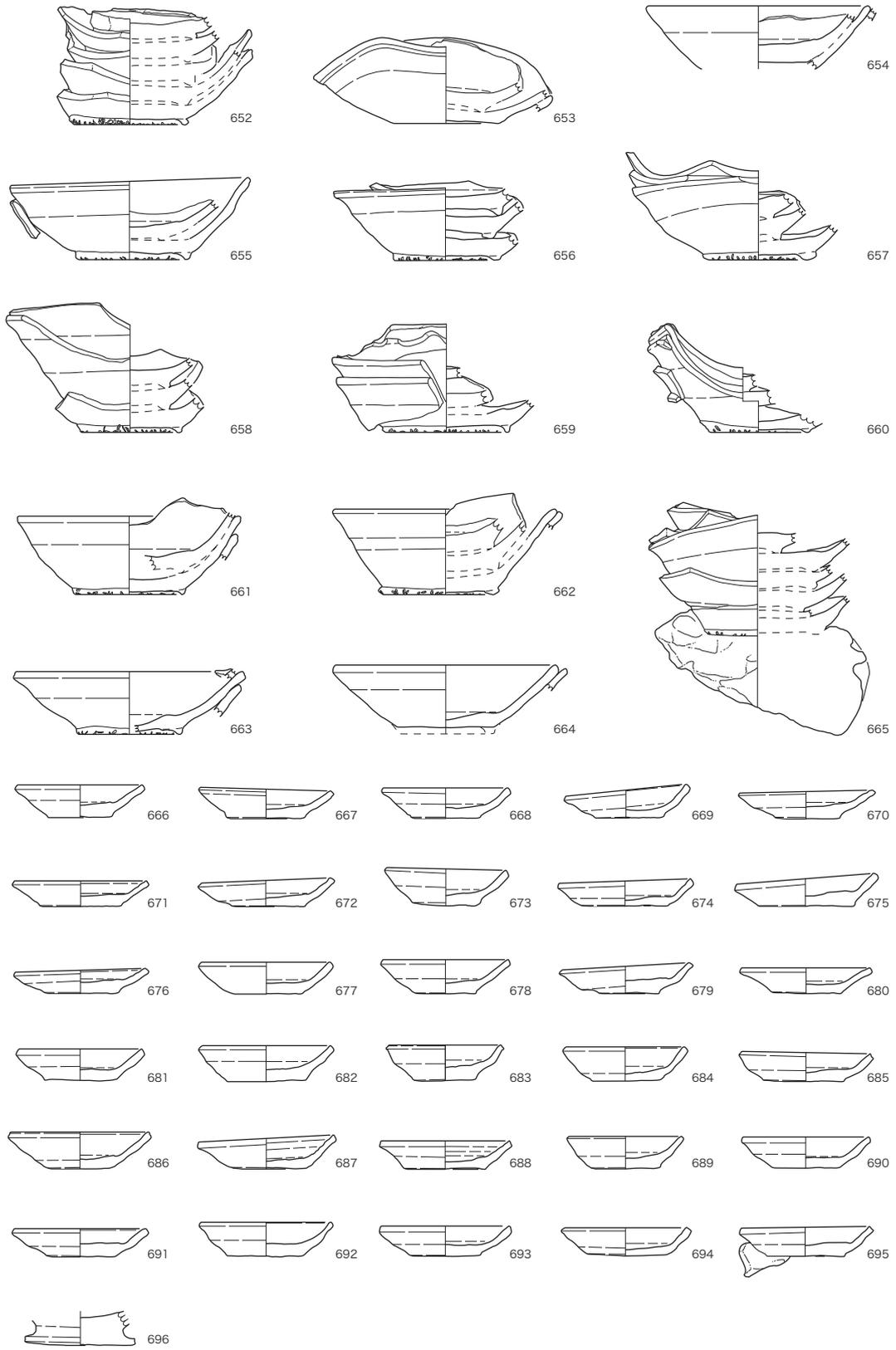


图43 出土遺物実測図（山茶碗溶着・小皿・仏供）（S = 1 / 4）

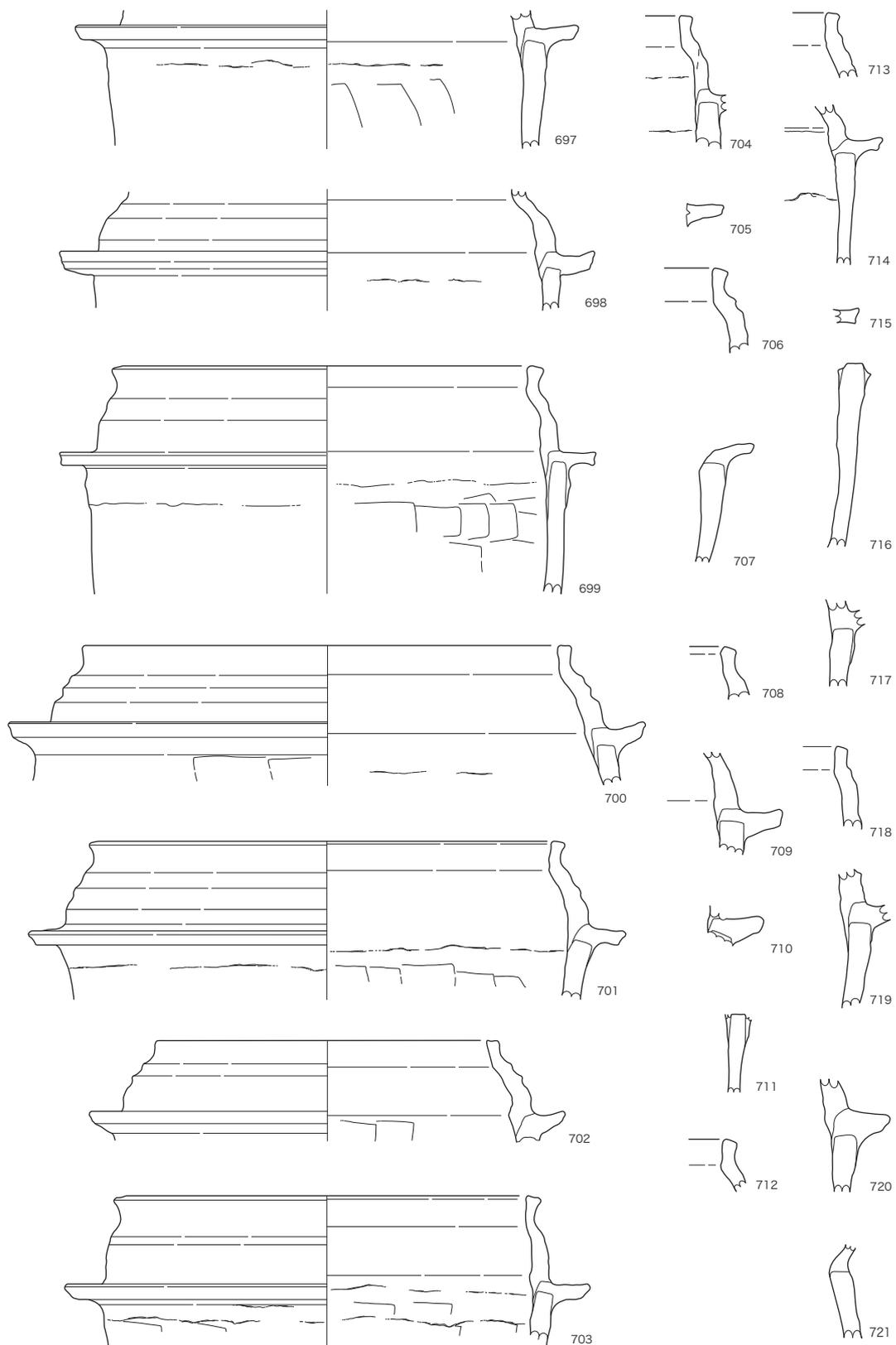


图44 出土遺物実測図(羽釜) (S=1/4)

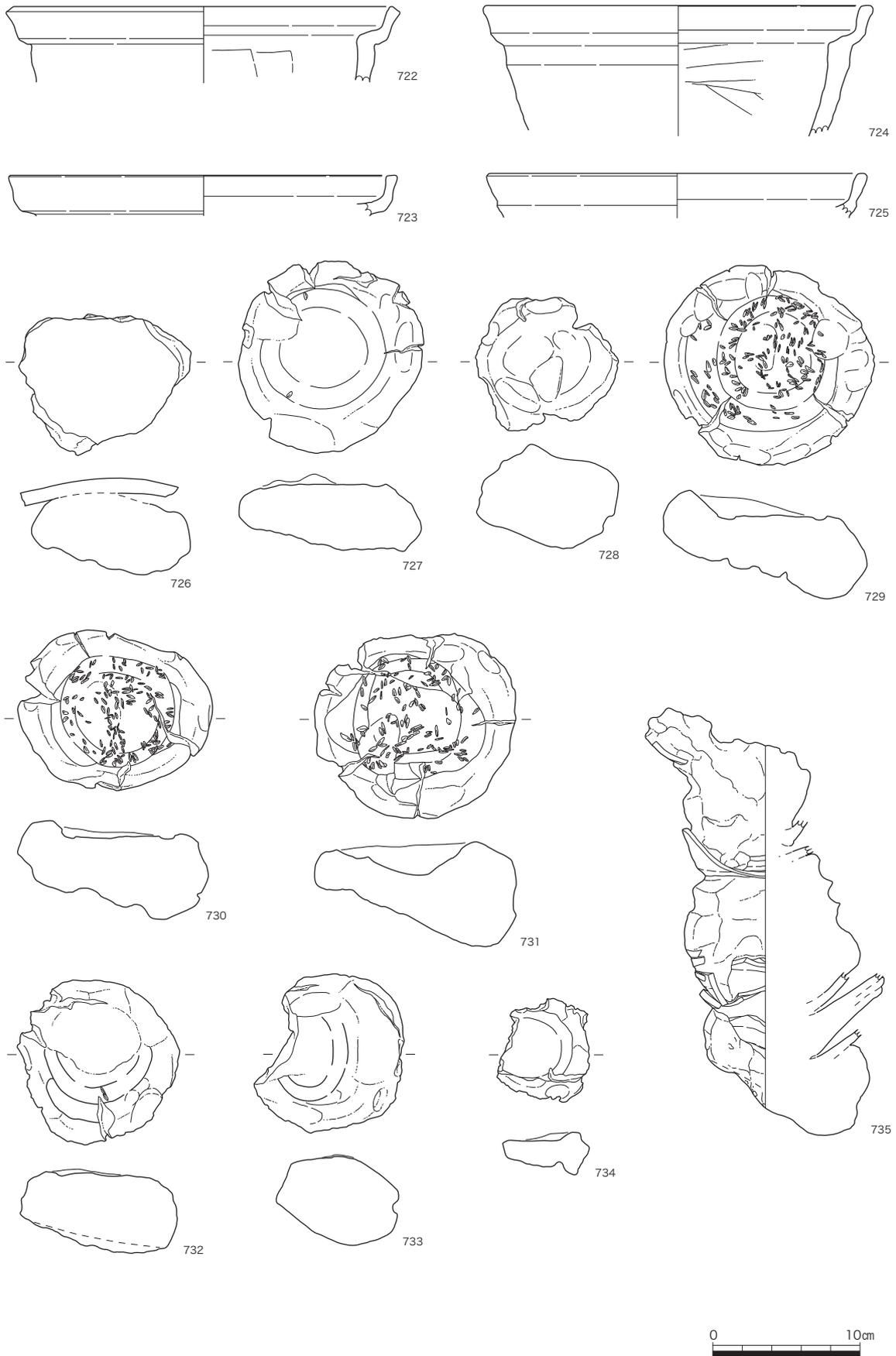


図45 出土遺物実測図（鍋・焼台・分焰棒）（S=1/4）

表5 遺物観察表

遺物 番号	種類		出土地点				法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位		器高	口径	底径	高台径					
1	山茶碗	C	8B1e	SY01	1区床面直上	5.9	15.0	6.7	6.0	5/12	白	E-1	最下段	
2	山茶碗	A	8B1e	SY01	1区	5.7	14.1	6.7	6.4	8	白	E-2	最上段, 歪み	
3	山茶碗	C	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	6.1	14.8	6.1	5.8	8	灰白	E-3	最下段	
4	山茶碗	C	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.8	14.5	6.2	5.4	6	灰白	E-4		
5	山茶碗	C	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.9	15.0	6.0	5.3	5	白	E-5	最上段, 歪み	
6	山茶碗	B	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.3	14.3	6.8	6.1	4	灰白	E-6	最下段	
7	山茶碗	B	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.9	14.8	6.7	—	6	白	E-7	最下段, 歪み	
8	山茶碗	A	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.7	—	6.5	6.1	5	白	E-8	最下段	
9	山茶碗	B	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.3	14.6	7.0	6.6	5	白	E-9		
10	山茶碗	A	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.4	14.5	6.5	5.7	6	白	E-10		
11	山茶碗	B	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.6	14.1	6.6	6.0	6	白	E-11	最上段, 歪み	
12	山茶碗	A	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.4	14.8	6.9	5.9	6	白	E-12	最上段, 歪み	
13	山茶碗	A	8B1e	SY01	1.2区間ベルト5層	5.1	15.0	6.7	6.1	7	白	E-13	最下段, 歪み	
14	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区床面直上	5.1	13.7	6.3	5.4	9	白	E-14	最上段	
15	山茶碗	C	7B20e	SY01	2区	5.4	15.2	6.3	—	8	灰白	E-15	最下段	
16	山茶碗	C	7B20e	SY01	2区	5.6	15.0	6.2	5.9	5	白	E-16		
17	山茶碗	C	7B20e	SY01	2区	5.1	14.5	6.8	—	9	白	E-17	最下段	
18	山茶碗	C	7B20e	SY01	2区	5.0	14.7	6.4	5.8	6	白	E-18	最下段	
19	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.7	14.2	7.0	6.5	8	白	E-19	最下段	
20	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.3	14.3	6.7	6.1	5	灰白	E-20		
21	山茶碗	B	7B20e	SY01	2区	5.6	14.4	6.5	6.0	6	灰白	E-21	最下段	
22	山茶碗	B	7B20e	SY01	2区	5.3	14.1	6.1	5.7	6	灰白	E-22	最上段, 歪み	
23	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.8	14.9	6.2	5.8	8	白	E-23	最上段, 歪み	
24	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.4	14.4	6.5	5.9	8	白	E-24		
25	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.2	14.6	6.4	6.2	7	白	E-25		
26	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.4	14.0	6.3	6.0	5	灰白	E-26		
27	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.3	14.3	6.4	5.9	7	灰白	E-27		
28	山茶碗	B	7B20e	SY01	2区	5.2	14.3	6.9	6.1	8	灰白	E-28		
29	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	4.9	14.2	6.5	6.0	6	灰白	E-29		
30	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.7	15.0	6.0	5.6	7	白	E-30	最上段	
31	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.2	15.0	6.4	5.8	6	灰白	E-31	最下段	
32	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.5	13.8	6.7	6.1	8	白	E-32		
33	山茶碗	B	7B20e	SY01	2区	5.0	14.7	7.0	6.6	9	白	E-33	最上段, 歪み	
34	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.8	13.7	6.2	5.8	9	白	E-34	最上段	
35	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.3	13.9	6.2	5.8	10	灰白	E-35		
36	山茶碗	B	7B20e	SY01	2区	5.4	14.0	6.6	5.7	8	灰白	E-36		
37	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.4	13.6	6.1	5.7	6	白	E-37		
38	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.5	14.3	6.4	5.8	6	灰白	E-38	最下段	
39	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.1	13.8	6.5	5.1	5	灰白	E-39		
40	山茶碗	A	7B20e	SY01	2区	5.1	—	6.3	—	4	白	E-40		
41	山茶碗	C	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.7	14.5	6.4	5.8	8	灰白	E-41		
42	山茶碗	C	7B20e	SY01	3区床面直上	5.6	14.5	6.3	5.8	5	灰白	E-42		
43	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.5	14.5	6.7	5.7	9	白	E-43		
44	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区床面直上	5.2	14.2	6.2	5.5	7	白	E-44		
45	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.2	14.3	6.6	6.2	10	白	E-45	最上段, 歪み	
46	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.4	14.2	6.7	6.2	5	白	E-46	歪み	
47	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.3	14.1	7.6	—	9	白	E-47	歪み	
48	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.0	14.6	7.5	6.5	7	灰白	E-48	歪み	
49	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.5	13.9	6.9	6.5	10	白	E-49	最上段	
50	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.5	14.1	6.7	6.2	8	灰白	E-50	最下段	
51	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区燃焼室床面直上	5.1	14.3	7.2	6.4	9	灰白	E-51	歪み	
52	山茶碗	A	7B20e	SY01	3区分焰柱脇西	5.1	14.3	6.5	5.8	7	白	E-52	歪み	
53	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	5.7	14.6	6.8	6.3	8	灰白	E-53		
54	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	5.4	14.0	6.8	6.2	9	灰白	E-54		
55	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	5.5	14.9	7.0	6.2	7	灰白	E-55	歪み	
56	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	5.4	14.2	6.5	5.8	7	白	E-56		
57	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	5.5	14.9	6.3	5.6	6	白	E-57	歪み	
58	山茶碗	A	7B20d	SY01	4区燃焼室床面直上	6.5	—	6.5	5.8	1	白	E-58	歪み	
59	山茶碗	C	8B1e	SY01	5区	5.6	—	6.0	—	4	灰白	E-59		
60	山茶碗	A	7B20e	SY01	5.6区間ベルト1層	5.2	14.2	7.2	6.3	9	灰白	E-60	最下段	
61	山茶碗	B	7B20e	SY01	6区, 5.6区間ベルト1層	5.4	15.0	6.5	5.9	5	白	E-61	最上段	
62	山茶碗	A	7B20e	SY01	6区, 5.6区間ベルト2層	5.2	14.2	6.8	6.0	7	白	E-62		
63	山茶碗	C	7B20e	SY01	6区, 5.6区間ベルト	5.8	14.5	6.2	5.8	6	白	E-63		
64	山茶碗	C	7B20e	SY01	6区床面直上	5.8	15.2	6.1	5.8	4	白	E-64	最下段	
65	山茶碗	C	7B20e	SY01	6区床面直上	5.6	14.8	6.5	5.7	7	白	E-65	最下段	
66	山茶碗	C	7B20e	SY01	6区床面直上	5.4	14.1	6.2	5.5	7	白	E-66		
67	山茶碗	C	7B20e	SY01	6区床面直上	5.9	15.3	6.4	5.9	7	灰白	E-67	歪み	
68	山茶碗	A	7B20e	SY01	6区床面直上	5.4	14.5	6.6	5.5	7	白	E-68	歪み	
69	山茶碗	B	7B20e	SY01	6区床面直上	5.6	13.7	6.0	5.0	8	灰白	E-69	最下段	
70	山茶碗	A	7B20e	SY01	6区床面直上	5.2	14.2	6.3	5.8	6	白	E-70		

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
71	山茶碗	B	7B20e	SY01 6区床面直上	5.3	14.0	6.5	5.9	5/12	白	E-71	歪み
72	山茶碗	B	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	14.4	6.0	5.3	4	白	E-72	
73	山茶碗	B	7B20e	SY01 6区床面直上	5.6	14.1	6.9	5.8	5	白	E-73	
74	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.5	14.2	6.7	5.7	9	白	E-74	
75	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.0	14.0	6.0	5.3	9	灰白	E-75	
76	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	4.9	—	7.0	6.2	6	灰白	E-76	最下段
77	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	14.1	6.5	5.5	9	白	E-77	最下段
78	山茶碗	B	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	14.3	6.4	6.2	6	白	E-78	最下段
79	山茶碗	B	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	13.7	6.8	5.8	2	白	E-79	最下段
80	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.1	13.9	6.3	5.5	8	灰白	E-80	
81	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.1	13.7	6.7	5.7	8	白	E-81	最下段, 歪み
82	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	14.5	6.1	5.3	4	白	E-82	
83	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.3	13.8	6.4	5.7	7	白	E-83	
84	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	5.4	14.1	6.5	—	6	白	E-84	
85	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区	5.8	14.2	6.4	5.6	6	白	E-85	
86	山茶碗	A	7B20e	SY01 6区	4.9	14.0	6.0	—	8	白	E-86	
87	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区床面直上, 白色面下	5.5	15.3	6.0	5.6	3	白	E-87	最下段
88	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区床面直上	5.0	—	6.5	—	2	白	E-88	最下段, 内面釉
89	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区床面直上	(3.2)	—	6.4	5.6	0	白	E-89	内外面釉, 歪み
90	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区	5.3	—	7.0	5.3	3	白	E-90	最下段
91	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区	5.7	14.2	6.2	5.4	6	白	E-91	最下段
92	山茶碗	C	7B20e	SY01 6区	5.7	14.0	5.8	5.2	7	白	E-92	
93	山茶碗	C	7B20e	SY01 7区燃烧室床面直上	5.3	14.0	6.1	5.4	6	白	E-93	最上段, 歪み
94	山茶碗	C	7B20e	SY01 7区燃烧室床面直上	5.5	14.8	6.4	5.7	8	白	E-94	
95	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区燃烧室床面直上	4.8	14.5	6.0	—	9	白	E-95	最上段, 歪み
96	山茶碗	B	7B20e	SY01 7区燃烧室床面直上	5.3	13.5	5.7	5.3	12	白	E-96	最上段
97	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区燃烧室床面直上	5.4	14.1	6.4	5.6	6	白	E-97	最上段
98	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区床面直上, 燃烧室分焰柱	4.8	13.9	6.5	5.4	7	白	E-98	
99	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区燃烧室分焰柱裏	5.0	14.0	6.5	6.0	1	白	E-99	
100	山茶碗	C	7B20e	SY01 7区分焰柱脇東床面直上	5.2	14.7	6.6	—	6	白	E-100	最下段
101	山茶碗	B	7B20e	SY01 7区分焰柱脇東	5.0	14.0	6.6	6.1	4	白	E-101	
102	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区分焰柱脇東	5.3	13.9	5.8	5.2	12	白	E-102	最上段, 歪み
103	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区床面直上	5.3	14.1	7.0	6.2	6	白	E-103	歪み
104	山茶碗	A	7B20e	SY01 7区床面直上	5.5	14.3	6.6	5.4	5	白	E-104	最上段
105	山茶碗	A	7B20e	SY01 8区4層	5.3	14.2	7.2	6.0	3	灰白	E-105	
106	山茶碗	C	7B20e	SY01 8区4層	6.5	—	5.8	5.1	3	白	E-106	蓋, 歪み
107	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.7	13.9	7.1	6.5	6	灰白	E-107	最下段
108	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.5	15.1	6.8	5.9	6	白	E-108	歪み
109	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.5	14.5	6.8	6.0	7	灰白	E-109	最下段
110	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.5	14.4	6.5	5.4	4	白	E-110	
111	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	14.5	6.8	6.0	7	白	E-111	歪み
112	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.1	14.2	6.6	5.8	7	白	E-112	最上段
113	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.3	13.9	6.7	5.8	10	白	E-113	
114	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.3	14.5	7.5	6.8	10	灰白	E-114	
115	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.1	13.8	6.2	5.4	8	白	E-115	最上段
116	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.7	14.7	6.8	6.2	10	灰白	E-116	
117	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.3	14.0	7.0	6.2	7	白	E-117	
118	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.7	—	6.5	5.6	1	白	E-118	
119	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.7	—	6.4	5.6	3	白	E-119	
120	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	14.0	6.6	—	10	白	E-120	
121	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.0	—	6.4	5.5	5	灰白	E-121	最下段
122	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	13.9	6.5	5.7	8	白	E-122	最上段
123	山茶碗	C	7B20e	SY01 2.6区間ベルト, 7区分焰柱脇東	5.0	14.6	6.3	5.8	3	白	E-123	最上段, 歪み
124	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	—	6.7	5.9	3	白	E-124	
125	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	14.3	6.5	5.9	7	灰白	E-125	最上段
126	山茶碗	C	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	—	6.3	5.4	3	白	E-126	最上段, 歪み
127	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.3	14.3	6.5	5.8	6	白	E-127	最上段
128	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト, 4.8区間ベルト	5.5	14.8	6.5	5.8	4	灰白	E-128	
129	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.2	14.2	6.3	5.1	7	灰白	E-129	
130	山茶碗	A	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.4	14.8	7.0	5.9	7	白	E-130	最上段, 歪み
131	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.6	14.1	6.8	5.9	8	白	E-131	最上段, 歪み
132	山茶碗	C	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.6	15.0	6.5	5.8	6	白	E-132	最下段
133	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.1	14.1	7.1	6.5	6	灰白	E-133	
134	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.6	—	6.4	5.8	5	灰白	E-134	
135	山茶碗	B	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	5.6	14.7	7.2	6.6	11	白	E-135	
136	山茶碗	B	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	5.3	14.7	6.9	6.0	5	白	E-136	歪み
137	山茶碗	C	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	5.4	14.3	5.9	5.4	11	灰白	E-137	
138	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	5.5	13.8	6.2	5.6	6	白	E-138	最上段
139	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	5.3	13.7	6.5	6.0	6	灰白	E-139	
140	山茶碗	B	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	5.6	14.1	6.4	5.2	7	白	E-140	

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
141	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.3	14.0	6.7	6.1	4/12	灰白	E-141	
142	山茶碗	C	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.5	14.7	6.2	5.5	5	灰白	E-142	
143	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.1	14.0	6.1	5.6	3	白	E-143	
144	山茶碗	C	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	6.1	—	6.2	5.6	3	白	E-144	蓋, 歪み
145	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.3	14.0	6.2	5.4	8	灰白	E-145	
146	山茶碗	A	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.6	14.0	6.6	5.9	5	灰白	E-146	最下段
147	山茶碗	C	7B20e	SY01 断ち割り	5.5	—	6.0	5.5	0	白	E-147	内外面釉, 歪み
148	山茶碗	D	7B20e	SY01 8 区 1 層	(2.2)	—	6.4	6.0	0	白	E-148	
149	山茶碗	D	7B20e	SY01 7 区床面直上	(2.0)	—	6.5	6.1	0	赤黒	E-149	蓋
150	山茶碗	E	7B19d	SY01 トレンチ	(2.2)	—	7.2	6.4	0	赤薄	E-150	蓋, 歪み
151	山茶碗	D	7B19d	SY01 トレンチ	(1.6)	—	6.7	6.3	0	白	E-151	最上段
152	山茶碗	E	7B19d	SY01 トレンチ	(2.5)	—	7.0	—	0	白	E-152	最上段
153	山茶碗	E	7B20e	SY01 3 区床面直上	(1.7)	—	—	—	0	赤黒	E-153	
154	山茶碗 (重ね焼)	C	7B20e	SY01 2 区	5.2	14.8	6.5	—	7	白	E-154	2 段
155	山茶碗 (重ね焼)	C	7B20e	SY01 2 区	5.8	15.1	6.3	5.6	4	白	E-155	2 段
156	山茶碗重ね焼	A	7B20e	SY01 2 区	6.0	13.7	6.2	5.4	1	白	E-156	最上段, 2 段, 歪み
157	山茶碗重ね焼	A	7B20e	SY01 2 区	5.7	13.9	6.7	5.5	0	白	E-157	最上段, 2 段
158	山茶碗 (重ね焼)	C	7B20e	SY01 3 区分焼柱西	4.8	—	6.7	5.8	1	白	E-158	内外面釉, 歪み
159	山茶碗 (重ね焼)	A	7B20d	SY01 4 区焼室床面直上	5.3	13.8	6.8	5.6	5	白	E-159	2 段
160	山茶碗重ね焼	A,B	7B20e	SY01 5.6 区間ベルト 2 層, 6 区床面直上	5.4	14.8	6.5	—	8	白	E-160	最下段, 2 段
161	山茶碗重ね焼	A,B	7B20e	SY01 6 区床面直上	5.7,5.9	-15.1	6.7,6.7	5.9,6.1	3,8	白、 灰白	E-161	最下段
162	山茶碗重ね焼	C	7B20e	SY01 8 区 1 層	6.0	14.6	6.2	5.6	6	白	E-162	最上段, 2 段
163	山茶碗重ね焼	C	7B20e	SY01 8 区 4 層	6.0	—	6.2	5.7	2	白	E-163	5 段
164	山茶碗重ね焼	C	7B20e	SY01 6 区	—	—	6.5	5.3	—	白	E-164	蓋, 2 段, 歪み
165	山茶碗重ね焼	C	7B20e	SY01 6 区	—	—	6.2	5.4	—	白	E-165	蓋, 歪み
166	山茶碗溶着	C	7B20e	SY01 2 区	—	16.0	—	—	6	白	E-166	蓋, 歪み
167	山茶碗重ね焼	—	7B20e	SY01 7 区分焼柱脇	—	—	—	—	0	白	E-167	最下段, 5 段
168	山茶碗重ね焼	—	7B20e	SY01 8 区 4 層	—	—	—	—	—	白	E-168	溶着塊
169	山茶碗重ね焼	A	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	5.8	—	6.9	5.8	5	白	E-169	最下段, 2 段
170	山茶碗重ね焼	A,B	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	5.9	14.8	6.0	5.3	6	白	E-170	2 段
171	山茶碗重ね焼	D	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	6.6	—	7.3	6.4	0	白	E-171	3 段
172	山茶碗重ね焼	C	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	6.0	14.6	6.3	5.4	7	白	E-172	2 段
173	山茶碗 (重ね焼)	A	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	4.6	14.9	6.9	6.7	6	白	E-173	2 段
174	山茶碗 (重ね焼)	C	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	5.7	—	6.7	5.9	0	白	E-174	1 段
175	山茶碗+焼台	A	8B1e	SY01 1 区床面直上	(14.7)	14.4	台 13.6	—	8	白	E-175	最下段
176	山茶碗+焼台	C	8B1e	SY01 1 区床面直上	5.5(11.2)	14.5	6.7	5.9	8	白	E-176	最下段, 歪み
177	山茶碗+焼台	A	8B1e	SY01 1.2 区間ベルト 5 層	5.1(6.8)	13.8	6.7	5.8	9	白	E-177	最下段
178	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 2 区床面直上	(9.6)	—	台 14.2	—	0	白	E-178	最下段
179	山茶碗+焼台	A	7B20e	SY01 2 区	(14.0)	13.7	台 14.5	—	6	白	E-179	最下段, 2 段
180	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 2 区	(11.5)	—	台 17.1	—	1	白	E-180	最下段
181	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 2 区	(10.0)	—	台 13.5	—	0	白	E-181	最下段
182	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 2 区	6.6	—	台 15.1	—	0	白	E-182	最下段
183	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 2 区	(9.4)	—	台 14.8	—	0	白	E-183	最下段
184	山茶碗+焼台	A	7B20e	SY01 5.6 区間ベルト	(11.4)	14.2	—	—	5	白	E-184	最下段
185	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 5.6 区間ベルト	5.9(7.1)	—	6.0	—	2	白	E-185	最下段
186	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 6 区床面直上	(7.7)	—	台 15.8	—	0	白	E-186	最下段
187	山茶碗+焼台	—	7B20e	SY01 6 区床面直上	(9.4)	—	台 15.0	—	0	白	E-187	最下段
188	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 6 区床面	(7.6)	—	台 13.6	—	2	白	E-188	最下段
189	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 6 区	(11.0)	14.8	台 14.2	—	5	白	E-189	最下段
190	山茶碗+焼台	A	7B20e	SY01 6 区	(11.5)	—	台 14.0	—	3	白	E-190	最下段
191	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 7 区焼室分焼柱裏	(14.0)	—	台 15.5	—	3	白	E-191	最下段
192	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 8 区 4 層	(9.9)	14.8	台 11.8	—	4	白	E-192	最下段
193	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	(12.9)	14.7	台 16.6	—	6	白	E-193	最下段
194	山茶碗+焼台	A	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	(11.4)	14.4	台 15.5	—	9	白	E-194	最下段
195	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	(9.8)	—	台 14.4	—	1	白	E-195	最下段
196	山茶碗+焼台	C	7B20e	SY01 2.6 区間ベルト	(11.6)	15.1	台 (11.3)	5.7	8	白	E-196	最下段
197	山茶碗溶着	C	7B20e	SY01 4.8 区間ベルト	6.1	—	5.7	5.2	4	白	E-197	最上段
198	山茶碗溶着	E	7B19d	SY01 1 トレンチ	(3.2)	—	6.6	6.3	0	白	E-198	最上段
199	小皿	c	8B1e	SY01 1.2 区間ベルト 5 層	1.7	8.0	4.2	—	8	白	E-199	最上段
200	小皿	a	8B1e	SY01 1.2 区間ベルト 5 層	1.4	7.5	4.9	—	9	白	E-200	
201	小皿	c	8B1e	SY01 1.2 区間ベルト 5 層	1.9	8.0	4.4	—	9	白	E-201	
202	小皿	a	7B20e	SY01 2 区床面直上	1.6	7.7	5.2	—	8	白	E-202	
203	小皿	b	7B20e	SY01 2 区床面直上	2.0	8.0	4.7	—	10	白	E-203	
204	小皿	c	7B20e	SY01 2 区	1.7	7.7	4.8	—	11	白	E-204	
205	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	1.7	7.8	4.6	—	10	白	E-205	
206	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	1.6	7.8	4.6	—	11	白	E-206	最上段, 歪み
207	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	2.0	7.9	4.9	—	10	白	E-207	最上段, 歪み
208	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	1.8	8.2	4.9	—	8	白	E-208	
209	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	1.7	7.9	4.7	—	7	白	E-209	
210	小皿	b	7B20e	SY01 2 区	1.8	7.9	4.8	—	9	白	E-210	焼台付着

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
211	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.9	8.1	4.5		8/12	白	E-211	歪み
212	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	8.1	4.7		9	灰白	E-212	最上段, 歪み
213	小皿	a	7B20e	SY01 2区	1.5	8.7	5.3		9	灰白	E-213	最上段, 歪み
214	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.0	4.9		9	白	E-214	最上段
215	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	7.9	5.4		9	白	E-215	最上段
216	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.9	4.5		8	白	E-216	
217	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.6	7.4	4.9		9	白	E-217	最上段, 歪み
218	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.6	8.1	4.5		9	白	E-218	最上段, 歪み
219	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.9	5.0		9	白	E-219	最上段
220	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.9	7.8	4.8		6	白	E-220	
221	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.9	7.7	4.3		8	白	E-221	
222	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.0	4.7		8	灰白	E-222	
223	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.4	5.0		8	白	E-223	
224	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.5	8.2	4.8		10	灰白	E-224	最上段
225	小皿	a	7B20e	SY01 2区	1.8	7.8	5.2		8	灰白	E-225	
226	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	7.6	4.5		7	白	E-226	
227	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.8	7.8	4.5		6	白	E-227	
228	小皿	a	7B20e	SY01 2区	1.8	7.9	5.1		9	白	E-228	
229	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.9	5.1		8	白	E-229	最上段
230	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	7.9	5.1		9	灰白	E-230	
231	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.2	5.4		9	白	E-231	焼台痕
232	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	—	4.7		1	灰白	E-232	補修痕
233	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	8.1	4.4		8	白	E-233	
234	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	7.2	4.2		8	白	E-234	
235	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	7.6	4.6		5	灰白	E-235	最上段
236	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.1	5.4		10	灰白	E-236	最上段
237	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.0	4.9		8	白	E-237	最上段
238	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.0	5.3		7	白	E-238	最上段
239	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	8.2	4.9		6	白	E-239	最上段
240	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	7.6	4.6		8	白	E-240	
241	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.0	4.8		7	白	E-241	
242	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.2	4.5		7	白	E-242	
243	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.8	4.9		7	白	E-243	
244	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	7.9	5.1		9	白	E-244	
245	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	7.8	4.2		9	白	E-245	
246	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.0	4.6		6	白	E-246	
247	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.1	5.4		10	白	E-247	
248	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.0	5.5		9	白	E-248	
249	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.8	8.0	4.9		9	灰白	E-249	
250	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.9	8.0	4.4		8	白	E-250	
251	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	8.0	5.1		8	灰白	E-251	
252	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.8	5.0		6	白	E-252	
253	小皿	a	7B20e	SY01 2区	1.8	8.5	5.6		6	灰白	E-253	
254	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.7	8.0	4.7		6	白	E-254	
255	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	7.8	4.4		5	白	E-255	
256	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.6	7.8	4.6		6	白	E-256	
257	小皿	b	7B20e	SY01 2区	1.6	—	5.2		5	白	E-257	
258	小皿	c	7B20e	SY01 2区	1.7	8.1	4.5		7	灰白	E-258	
259	小皿	b	7B20e	SY01 3区床面直上	1.8	8.5	5.3		8	白	E-259	最上段, 歪み
260	小皿	b	7B20e	SY01 3区床面直上	1.6	8.1	5.0		8	白	E-260	
261	小皿	c	7B20e	SY01 3区床面直上	1.6	7.7	4.3		9	灰白	E-261	
262	小皿	a	7B20e	SY01 3区燃焼室床面直上	1.8	8.2	5.5		8	白	E-262	
263	小皿	b	7B20e	SY01 3区燃焼室床面直上	1.8	8.3	5.0		7	白	E-263	
264	小皿	b	7B20e	SY01 3区燃焼室床面直上	1.6	8.3	5.4		8	白	E-264	
265	小皿	a	7B20e	SY01 3区燃焼室床面直上	1.6	—	5.1		5	白	E-265	
266	小皿	b	7B20e	SY01 3区分焰柱西	1.9	7.8	5.1		10	白	E-266	焼台付着
267	小皿	b	7B20e	SY01 3区分焰柱西	1.8	8.0	5.5		11	灰白	E-267	
268	小皿	b	7B20e	SY01 3区分焰柱西	1.8	7.7	5.4		11	白	E-268	歪み
269	小皿	a	7B20e	SY01 3区分焰柱脇西	1.9	7.9	5.3		7	灰白	E-269	
270	小皿	b	7B20e	SY01 3区分焰柱脇西	1.8	8.1	4.8		11	灰白	E-270	
271	小皿	c	7B20e	SY01 3区分焰柱脇西	1.6	7.3	4.7		9	白	E-271	最上段, 歪み
272	小皿	a	7B20e	SY01 3区分焰柱脇西	1.7	7.9	5.1		6	白	E-272	最上段, 歪み
273	小皿	b	7B20e	SY01 3区分焰柱脇西	1.6	7.6	5.0		7	白	E-273	
274	小皿	b	7B20d	SY01 4区燃焼室床面直上	1.8	8.2	5.0		7	白	E-274	
275	小皿	c	7B20d	SY01 4区燃焼室床面直上	1.6	7.5	4.7		8	白	E-275	最上段
276	小皿	e	7B20d	SY01 4区燃焼室床面直上	1.6	8.0	5.7		6	白	E-276	
277	小皿	b	7B20d	SY01 4区燃焼室床面直上	1.8	8.0	4.6		9	白	E-277	
278	小皿	b	7B20d	SY01 4区燃焼室床面直上	1.9	8.0	4.1		7	灰白	E-278	
279	小皿	b	8B1e	SY01 5区床面直上	1.6	8.2	4.5		6	白	E-279	
280	小皿	b	7B20e	SY01 5.6区間ベルト	1.9	8.2	5.0		6	灰白	E-280	

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
281	小皿	b	7B20e	SY01 6区床面直上	1.9	8.2	5.3		8/12	白	E-281	
282	小皿	b	7B20e	SY01 7区床面直上	1.6	8.4	4.9		7	灰白	E-282	
283	小皿	e	7B20e	SY01 7区床面直上	2.1	—	4.5		2	灰白	E-283	
284	小皿	g	7B20e	SY01 7区床面直上	1.9	—	4.5		2	白	E-284	最上段
285	小皿	b	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東床面直上	1.5	8.2	4.4		11	白	E-285	歪み
286	小皿	b	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東床面直上	1.6	8.1	4.6		9	白	E-286	
287	小皿	b	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東	1.6	8.0	4.7		8	白	E-287	
288	小皿	a	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東	1.9	8.0	5.9		9	灰白	E-288	最上段
289	小皿	b	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東	1.7	8.2	4.9		11	白	E-289	
290	小皿	b	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東	1.7	8.2	5.1		12	灰白	E-290	
291	小皿	c	7B20e	SY01 7区分焼柱東	1.7	—	5.1		5	白	E-291	補修痕
292	小皿	a	7B20e	SY01 8区焼室床面直上	1.6	7.3	4.9		12	白	E-292	最上段,歪み
293	小皿	b	7B20e	SY01 8区焼室床面直上	1.6	7.9	5.0		9	白	E-293	最上段
294	小皿	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.7	7.8	4.2		8	白	E-294	
295	小皿	a	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.7	7.9	5.5		10	白	E-295	歪み
296	小皿	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.6	7.8	4.4		8	白	E-296	歪み
297	小皿	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	2.2	7.4	4.4		11	白	E-297	最上段,歪み
298	小皿	b	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.8	7.4	4.5		10	白	E-298	歪み
299	小皿	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.9	7.8	4.9		10	白	E-299	
300	小皿	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.8	8.2	4.6		8	白	E-300	
301	小皿	a	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.6	7.7	5.3		6	白	E-301	
302	小皿	b	7B20e	SY01 4.8区間ベルト	1.8	8.4	4.9		7	白	E-302	最下段
303	小皿重ね焼	b	8B1e	SY01 1.2区間ベルト 5層	(2.0)	—	4.1		3	白	E-303	2段
304	小皿重ね焼	a	7B20e	SY01 2区	(2.3)	—	4.9		2	白	E-304	最上段,3段
305	小皿重ね焼	a	7B20e	SY01 2区	(2.0)	7.1	5.0		7	白	E-305	3段
306	小皿重ね焼	a	7B20e	SY01 2区	(2.2)	7.3	5.0		6	白	E-306	2段
307	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2区	(2.3)	7.8	4.4		6	白	E-307	3段
308	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2区	(2.2)	—	4.6		3	白	E-308	2段
309	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2区	(2.6)	—	5.0		2	白	E-309	最上段,2段, 歪み
310	小皿重ね焼	c	7B20e	SY01 2区	(2.4)	8.1	5.0		5	白	E-310	3段
311	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2区	(2.5)	—	4.5		0	白	E-311	4段
312	小皿重ね焼	a	7B20e	SY01 2区	(1.8)	—	5.1		0	白	E-312	最上段,3段
313	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2区	(2.1)	—	4.4		1	白	E-313	最上段,3段
314	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 3区床面直上	(2.0)	—	4.5		0	白	E-314	最上段,2段
315	小皿重ね焼	c	7B20e	SY01 3区分焼柱脇西	(3.0)	8.0	4.3		8	白	E-315	2段
316	小皿重ね焼	a	7B20d	SY01 4区焼室床面直上	(2.1)	8.0	4.9		8	白	E-316	最上段,2段
317	小皿重ね焼	c	7B20e	SY01 5.6区間ベルト	(2.8)	7.5	4.2		9	白	E-317	2段
318	小皿重ね焼	a	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	(4.6)	—	5.0		2	白	E-318	最上段,6段
319	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	(3.0)	—	4.5		3	白	E-319	4段
320	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	(2.7)	—	4.7		0	白	E-320	2段
321	小皿重ね焼	b	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	(2.7)	—	4.6		2	白	E-321	4段
322	小皿重ね焼	c	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	(2.2)	—	4.4		1	白	E-322	2段
323	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	—	—	4.5		3	白	E-323	3段
324	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	(4.7)	7.3	—		7	白	E-324	最下段
325	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	(4.6)	—	—		5	白	E-325	最下段
326	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	(4.8)	—	—		4	白	E-326	最下段
327	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	(5.7)	—	—		2	白	E-327	最下段
328	小皿+焼台	—	7B20e	SY01 2区	(4.2)	—	—		5	白	E-328	最下段
329	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区床面	1.8	7.7	5.3		11	白	E-329	最上段,歪み
330	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区	1.8	7.1	4.3		10	白	E-330	最上段
331	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区	1.6	7.5	4.6		10	白	E-331	最上段
332	小皿溶着	a	7B20e	SY01 2区	1.6	7.5	5.0		10	白	E-332	最上段
333	小皿溶着	a	7B20e	SY01 2区	1.6	7.4	5.3		9	白	E-333	最上段,2段
334	小皿溶着	c	7B20e	SY01 2区	(3.7)	—	5.2		1	灰白	E-334	4段
335	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区	1.9	7.7	4.5		10	白	E-335	最上段,2段
336	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区	—	7.9	5.0		9	白	E-336	最上段,歪み
337	小皿溶着	c	7B20e	SY01 2区	2.2	—	4.2		6	白	E-337	最上段,歪み
338	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2区	1.5	7.8	4.1		6	白	E-338	最上段,歪み
339	小皿溶着	c	7B20e	SY01 3区分焼柱西	1.6	7.3	4.8		6	白	E-339	最上段,2段
340	小皿溶着	b	7B20e	SY01 5.6区間ベルト	1.4	7.6	4.9		7	白	E-340	最上段
341	小皿溶着	c	7B20e	SY01 7区分焼柱脇東床面直上	2.0	7.4	4.2		11	白	E-341	最上段
342	小皿溶着	b	7B20e	SY01 2.6区間ベルト	1.7	8.1	5.3		9	白	E-342	最上段
343	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 2区	5.6	—	6.0	5.5	4	白	E-343	最上段,2段
344	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 2区	5.5	13.4	6.4	5.9	7	白	E-344	最上段,6段, 歪み
345	小皿+山茶碗	C	7B20e	SY01 3区床面直上	6.0	—	6.3	5.3	0	白	E-345	最上段,5段, 歪み
346	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 3区床面直上	5.7	—	6.5	6.1	0	白	E-346	最上段,3段
347	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 3区床面直上	(3.9)	—	6.5	6.0	0	白	E-347	最上段,2段
348	小皿+山茶碗	B	7B20e	SY01 5.6区間ベルト	5.6	—	6.0	5.4	0	白	E-348	最上段,4段
349	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 6区床面直上	(3.0)	—	6.1	5.3	0	白	E-349	最上段,3段
350	小皿+山茶碗	A	7B20e	SY01 6区	(4.0)	—	6.6	6.1	0	白	E-350	最上段,3段

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
351	小皿+山茶碗		7B20e	SY01 7区分焰柱脇	(4.9)	—	6.0	5.5	0	白	E-351	最上段,2段,歪み
352	小皿+山茶碗		7B20e	SY01 7区燃焼室床面直上	(2.6)	皿8.1	皿4.8	—	皿9	灰白	E-352	最上段,2段
353	小皿+山茶碗		7B20e	SY01 2.6区間ベルト	4.9	12.5	5.9	5.2	—	白	E-353	最上段,4段,歪み
354	蓋		7B20e	SY01 2区,6区床面直上, 7区分焰柱脇東	(3.0)	—	—	—	5	白	E-354	自然釉
355	焼台		8B1e	SY01 1区床面直上	9.5	—	15.0	—	—	白	E-355	高台付着
356	焼台		7B20e	SY01 2区	10.0	—	15.2	—	—	白	E-356	
357	焼台		7B20e	SY01 2区	6.8	—	13.8	—	—	白	E-357	
358	焼台		7B20e	SY01 2区	9.8	—	15.9	—	—	白	E-358	
359	焼台		7B20e	SY01 2区	7.1	—	16.8	—	—	青灰	E-359	
360	焼台		8B1e	SY01 5区床面直上	7.5	—	14.6	—	—	灰白	E-360	高台付着
361	焼台		7B20e	SY01 5.6区間ベルト	7.0	—	15.0	—	—	灰白	E-361	高台付着
362	焼台		7B20e	SY01 5.6区間ベルト	7.1	—	15.3	—	—	灰白	E-362	
363	焼台		7B20e	SY01 6区床面直上	8.0	—	15.2	—	—	灰白	E-363	
364	山茶碗+焼台		7B20e	SY01 6区	8.9	—	17.3	—	—	灰白	E-364	
365	焼台		7B20e	SY01 2.6区間ベルト	7.8	—	15.2	—	—	灰白	E-365	
366	焼台		7B20e	SY01 2.6区間ベルト	9.4	—	15.6	—	—	白	E-366	高台付着
367	焼台		7B20e	SY01 6区床面直上	5.6	—	9.9	—	—	白	E-367	小皿用
368	焼台		7B20e	SY01 6区	5.3	—	10.0	—	—	灰白	E-368	小皿用
369	山茶碗	D	7B19d	SY01 前庭部上層	(1.8)	—	6.2	5.9	0	白	E-369	
370	山茶碗	D	7B19d	SY01 前庭部上層	(2.3)	—	6.2	5.9	0	白	E-370	
371	山茶碗	E	7B20e	SY01 前庭部上層	(2.2)	—	6.8	6.3	0	白	E-371	最上段
372	山茶碗	D	7B20d	SY01 前庭部1層	5.7	—	—	—	0	赤薄	E-372	
373	山茶碗	C	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	5.7	14.6	6.0	5.8	8	白	E-373	
374	山茶碗	C	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	5.9	—	6.2	5.9	1	白	E-374	蓋,歪み
375	山茶碗	B	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	5.3	14.4	6.5	6.2	6	灰	E-375	
376	山茶碗	B	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	5.4	—	6.2	5.9	1	灰白	E-376	蓋,歪み
377	山茶碗	A	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	5.5	—	6.9	6.1	3	灰白	E-377	
378	山茶碗	E	7B19d	SY01 前庭部ベルト3層	(2.5)	—	7.3	7.1	0	白	E-378	
379	山茶碗	C	7B19d	SY01 前庭部ベルト3層	5.5	—	5.9	5.2	2	白	E-379	
380	山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.8	—	6.7	6.0	3	白	E-380	最上段
381	山茶碗	B	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.2	—	6.7	5.8	2	白	E-381	
382	山茶碗	B	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.6	—	6.9	6.0	2	白	E-382	
383	山茶碗	B	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.2	14.3	6.6	6.0	6	白	E-383	
384	山茶碗	B	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.0	14.6	6.5	—	5	白	E-384	最下段
385	山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.6	14.5	6.6	6.1	6	白	E-385	
386	山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	4.9	14.1	6.6	6.1	7	白	E-386	
387	山茶碗	B	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	5.3	14.4	6.5	5.6	7	白	E-387	最上段
388	山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部3層	5.4	13.9	6.3	5.7	6	白	E-388	最上段
389	山茶碗重ね焼	—	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト東	—	—	—	—	2	白	E-389	片口,2段
390	山茶碗重ね焼	A	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト西	(5.5)	—	6.8	6.0	0	白	E-390	2段
391	山茶碗重ね焼	A,C	7B20d	SY01 前庭部ベルト3層	(6.3)	—	5.9	—	4	白	E-391	最下段,2段
392	山茶碗重ね焼	C	7B20d	SY01 前庭部3層	5.5	—	5.7	5.4	5	白	E-392	最下段,2段
393	小皿	a	7B20d	SY01 前庭部3層	1.6	7.9	5.0	—	7	白	E-393	最上段
394	小皿重ね焼	c	7B20d	SY01 前庭部3層	1.6	7.5	4.9	—	11	白	E-394	最上段,2段
395	小皿重ね焼	b	7B19d	SY01 前庭部3層	2.0	7.8	5.2	—	8	白	E-395	7段
396	小皿+山茶碗	—	7B19d	SY01 前庭部上層	(3.2)	—	6.4	—	0	白	E-396	最上段,歪み,2段
397	小皿+山茶碗	—	7B19d	SY01 前庭部3層ベルト西	2.2	皿8.1	6.3	6.0	皿12	白	E-397	最上段,2段
398	小皿+山茶碗	—	7B20d	SY01 前庭部3層	(3.2)	—	6.5	5.6	0	白	E-398	最上段,2段
399	小皿+山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部3層	5.2	皿8.3	6.7	6.3	皿8	白	E-399	最上段,歪み,2段
400	小皿+山茶碗	A	7B20d	SY01 前庭部3層	(7.7)	—	6.3	5.7	0	白	E-400	最上段,歪み,5段
401	蓋		7B19d,20d	SY01 前庭部1~3層	4.9	—	—	—	6	白	E-401	自然釉,歪み
402	蓋		7B19d	SY01 前庭部3層	—	—	—	—	3	白	E-402	自然釉,歪み
403	蓋		7B18c,19d	SY01 前庭部3層,表土	—	—	—	—	2	白	E-403	自然釉,歪み
404	山茶碗	E	7B18e	SD02	(4.2)	—	7.0	6.3	0	白	E-404	
405	山茶碗	E	7B18f	SD02	5.4	—	—	—	0	白	E-405	
406	山茶碗	E	7B18f	SD02	4.8	—	7.6	6.9	2	白	E-406	
407	山茶碗	D	7B18f	SD02	5.5	—	—	—	0	赤薄	E-407	
408	山茶碗	D	7B18f	SD02 2トレンチ5層	(2.3)	—	5.7	4.9	0	灰白	E-408	蓋
409	山茶碗	D	7B19f	SD02	5.7	—	7.1	6.2	0	赤褐	E-409	
410	山茶碗	D	7B19f	SD02	(3.4)	—	7.2	—	0	赤薄	E-410	
411	山茶碗	G	7B19f	SD02	(2.0)	—	6.5	5.5	0	灰黒	E-411	高台砂利痕
412	山茶碗	A	7B19g	SD02	6.4	—	7.0	6.0	2	白	E-412	蓋,歪み
413	山茶碗	D	7B19g	SD02	(2.1)	—	6.8	6.4	0	白	E-413	蓋
414	小皿	f	7B18e	SD02	2.3	—	4.4	—	3	白	E-414	
415	小皿	f	7B18f	SD02 2トレンチ5層	2.1	—	—	—	1	赤薄	E-415	最上段
416	小皿	h	7B18f	SD02 2トレンチ5層	1.8	—	—	—	2	灰	E-416	
417	小皿	f	7B18f	SD02	2.1	7.6	4.5	—	4	白	E-417	
418	小皿	f	7B18f	SD02	1.9	—	—	—	0	赤薄	E-418	
419	小皿	f	7B18f	SD02	1.9	—	—	—	0	灰白	E-419	
420	小皿	f	7B18f	SD02	2.3	—	—	—	0	赤薄	E-420	最上段

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
421	小皿	f	7B18f	SD02	2.2	—	—	—	1/12	赤薄	E-421	
422	小皿	e	7B19f	SD02 3トレンチ5層	1.7	—	4.5	—	0	赤薄	E-422	
423	小皿	f	7B19f	SD02	2.1	—	—	—	2	灰白	E-423	
424	小皿	f	7B19f	SD02	1.6	—	—	—	4	白	E-424	
425	小皿	e	7B19f	SD02	1.9	—	4.5	—	1	赤薄	E-425	
426	小皿	f	7B19g	SD02	1.6	—	—	—	2	白	E-426	
427	小皿	f	7B19g	SD02	1.4	—	—	—	3	白	E-427	
428	片口鉢		7B18f	表土	—	(12.0)	—	—	1	白	E-428	内面釉
429	片口鉢		7B19f	SD02	(4.4)	—	—	—	0	白	E-429	内面釉
430	焼台		7B18f	SD02	7.7	—	11.1	—		青灰	E-430	
431	羽釜		7B19f	SD02	—	—	—	—	0	赤褐	E-431	
432	羽釜		7B18f	SD02	—	—	—	—	0	赤褐	E-432	
433	羽釜		7B19g	SD02	—	—	—	—	1	赤黒	E-433	
434	山茶碗	E	7B18e,19e	SX03 1区	(2.1)	—	7.0	6.3	0	白	E-434	最上段
435	山茶碗	E	7B18e,19e	SX03 2区	(3.3)	—	6.5	6.3	0	灰	E-435	
436	山茶碗	E	7B18e,19e	SX03 2区	(3.4)	—	7.5	6.7	0	白	E-436	
437	山茶碗	E	7B18e,19e	SX03 上層	5.0	—	—	—	2	白	E-437	
438	羽釜		7B18d,19e	SX03 2区上層, 灰原1	—	—	—	—	1	赤褐	E-438	丸底
439	焼台		7B18e,19e	SX03 2区上層	6.3	—	10.0	—		青灰	E-439	
440	焼台		7B18e,19e	SX03 2区上層	7.0	—	11.4	—		青灰	E-440	
441	焼台		7B18e,19e	SX03 2区	6.2	—	10.8	—		青灰	E-441	
442	山茶碗	D	7B18d	灰原1	5.5	—	6.9	5.8	5	赤薄	E-442	2段
443	山茶碗	E	7B18d	灰原1	(4.8)	—	—	—	3	赤薄	E-443	
444	山茶碗	E	7B18d	灰原1	(5.5)	—	—	—	1	灰白	E-444	
445	山茶碗	E	7B18d	灰原1	5.1	—	7.9	—	1	灰白	E-445	歪み
446	山茶碗	C	7B18d	灰原1	5.4	—	6.2	6.1	2	灰白	E-446	
447	山茶碗	E	7B18d	灰原1	5.5	—	6.6	5.9	1	灰白	E-447	
448	山茶碗	E	7B18d	灰原1	4.8	—	7.5	7.1	2	灰	E-448	
449	山茶碗	F	7B18d	灰原1	(1.6)	—	8.3	7.5		灰白	E-449	
450	山茶碗	G	7B18d	灰原1	(1.6)	—	6.9	6.3		灰	E-450	最上段
451	山茶碗+焼台	D	7B18d	灰原1	4.9	—	7.5	7.0	2	白	E-451	最下段
452	山茶碗重ね焼	D	7B18d	灰原1	5.9	—	—	—		白	E-452	最上段, 2段
453	山茶碗溶着	E	7B18d	灰原1	6.7	—	7.8	—	5	白	E-453	最上段, 歪み
454	山茶碗重ね焼	E	7B18e	灰原1	5.4	—	7.3	—	4	白	E-454	3段, 歪み
455	小皿	e	7B18d	灰原1	2.1	—	4.5	—	0	赤褐	E-455	
456	小皿	h	7B18d	灰原1	1.7	—	—	—	3	灰白	E-456	
457	小皿	f	7B18d	灰原1	2.1	—	4.1	—	5	白	E-457	
458	小皿	f	7B18d	灰原1	2.0	—	4.5	—	4	灰白	E-458	
459	小皿	e	7B18d	灰原1	2.0	—	5.2	—	1	灰白	E-459	
460	小皿	e	7B18e	灰原1	2.1	—	4.9	—	4	赤褐	E-460	
461	焼台		7B18e	灰原1	7.9	—	12.9	—		赤褐	E-461	
462	鍋		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	灰	E-462	
463	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	赤黒	E-463	
464	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	灰黒	E-464	
465	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	灰黒	E-465	
466	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	赤褐	E-466	
467	羽釜		7B18e	灰原1	—	—	—	—	0	赤褐	E-467	
468	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	灰黒	E-468	
469	羽釜		7B18d	灰原1	—	—	—	—	0	赤褐	E-469	胴部接合部刻目
470	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.0	—	7.5	6.6	2	白	E-470	
471	山茶碗	E	7B18d	灰原2	4.5	—	7.8	6.9	0	灰白	E-471	
472	山茶碗	E	7B18d	灰原2	4.4	—	7.9	7.2	1	白	E-472	最上段
473	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.2	—	7.2	6.5	1	白	E-473	
474	山茶碗	E	7B18d	灰原2	3.9	—	7.0	6.0	2	白	E-474	
475	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.3	—	6.4	5.8	0	白	E-475	
476	山茶碗	E	7B18d	灰原2	4.8	—	—	—	1	白	E-476	
477	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.0	—	—	—	3	白	E-477	
478	山茶碗	E	7B18d	灰原2	4.7	—	—	—	0	白	E-478	最上段
479	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.3	—	—	—	1	白	E-479	
480	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.2	—	7.5	6.8	1	灰白	E-480	
481	山茶碗	E	7B18d	灰原2	4.1	—	—	—	1	灰	E-481	
482	山茶碗	E	7B18d	灰原2	5.0	—	—	—	0	灰	E-482	
483	山茶碗	E	7B18d	灰原2	6.1	—	—	—	2	灰	E-483	
484	山茶碗	D	7B18d	灰原2	5.1	—	7.0	—	1	灰	E-484	
485	山茶碗	C	7B18d	灰原2	5.3	—	—	—	3	赤灰	E-485	
486	山茶碗	C	7B18d	灰原2	6.2	—	6.5	—	2	赤灰	E-486	
487	山茶碗	C	7B18d	灰原2	6.6	—	6.4	—	1	赤灰	E-487	
488	山茶碗	C	7B18d	灰原2	5.5	—	6.7	—	1	灰白	E-488	
489	山茶碗	C	7B18d	灰原2	5.9	—	6.2	5.7	2	灰白	E-489	
490	山茶碗	A	7B18d	灰原2	5.5	—	6.7	6.2	1	白	E-490	

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
491	山茶碗	A	7B18d	灰原 2	5.5	—	—	—	4/12	白	E-491	
492	山茶碗	E	7B18d	灰原 2	5.3	—	7.2	6.5	0	灰白	E-492	
493	山茶碗	C	7B18d	灰原 2	6.2	—	7.0	—	2	灰白	E-493	
494	山茶碗	E	7B18e	灰原 2	4.8	—	—	—	0	白	E-494	
495	山茶碗	E	7B18e	灰原 2	5.1	—	—	—	0	白	E-495	
496	山茶碗	E	7B18d	灰原 2	(2.0)	—	7.2	6.5	0	白	E-496	底部穿孔
497	山茶碗	A	7B18e	灰原 2	5.0	—	7.1	6.3	6	白	E-497	
498	山茶碗重ね焼	E	7B18d	灰原 2	(10.4)	—	7.1	6.5	0	白	E-498	最上段, 5段
499	山茶碗重ね焼	E	7B18d	灰原 2	(7.2)	—	7.7	7.1	1	白	E-499	3段
500	山茶碗重ね焼	D	7B18d	灰原 2	(7.6)	—	6.8	6.6	0	赤薄	E-500	4段, 歪み
501	山茶碗重ね焼	D	7B18d	灰原 2	(6.0)	—	6.7	6.0	0	赤薄	E-501	最上段, 3段
502	山茶碗重ね焼	E	7B18d	灰原 2	(6.1)	—	—	—	0	灰白	E-502	最上段, 3段, 歪み
503	山茶碗重ね焼	E	7B18d	灰原 2	(4.5)	—	6.6	5.6	0	灰白	E-503	最上段, 3段
504	山茶碗重ね焼	C	7B18d	灰原 2	(5.7)	—	6.5	6.0	1	灰白	E-504	2段
505	山茶碗重ね焼	E	7B18d	灰原 2	(5.6)	—	7.6	—	0	灰白	E-505	最上段, 2段, 歪み
506	山茶碗重ね焼	D	7B18d	灰原 2	(4.3)	—	7.3	6.6	0	赤薄	E-506	2段
507	小皿	f	7B18d	灰原 2	2.0	—	4.7	—	4	灰	E-507	
508	小皿	f	7B18d	灰原 2	2.2	—	4.9	—	1	白	E-508	蓋
509	小皿	f	7B18d	灰原 2	2.1	—	3.8	—	3	灰白	E-509	
510	小皿	e	7B18d	灰原 2	2.1	—	4.4	—	3	赤薄	E-510	最上段, 歪み
511	小皿	f	7B18d	灰原 2	1.6	7.9	4.5	—	7	灰	E-511	
512	小皿	f	7B18d	灰原 2	2.2	—	4.9	—	6	灰白	E-512	歪み
513	小皿	e	7B18d	灰原 2	1.6	8.1	5.1	—	7	灰	E-513	最上段, 歪み
514	小皿	f	7B18d	灰原 2	2.0	7.9	4.6	—	8	灰白	E-514	最上段
515	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.5	—	5.0	—	5	灰	E-515	最上段
516	小皿	d	7B18d	灰原 2	2.0	8.6	5.3	—	6	灰	E-516	
517	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.7	8.8	5.4	—	7	灰白	E-517	最上段
518	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.9	—	5.2	—	5	灰白	E-518	
519	小皿	d	7B18d	灰原 2	2.2	8.4	5.5	—	3	灰白	E-519	最上段
520	小皿	h	7B18d	灰原 2	2.1	7.7	4.2	—	9	灰白	E-520	
521	小皿	f	7B18d	灰原 2	1.8	7.8	4.1	—	5	灰白	E-521	最上段, 2段
522	小皿	e	7B18d	灰原 2	2.3	—	5.0	—	1	灰白	E-522	蓋
523	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.9	—	5.2	—	1	灰白	E-523	
524	小皿	c	7B18d	灰原 2	2.3	8.9	5.3	—	4	灰白	E-524	最上段
525	小皿	b	7B18d	灰原 2	1.9	—	6.1	—	0	灰白	E-525	最上段
526	小皿	d	7B18d	灰原 2	2.0	—	5.2	—	1	灰白	E-526	蓋
527	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.8	8.4	4.9	—	7	灰	E-527	蓋
528	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.7	—	5.2	—	3	灰	E-528	
529	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.9	—	5.4	—	1	灰	E-529	
530	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.8	—	5.0	—	1	灰	E-530	
531	小皿	d	7B18d	灰原 2	2.1	—	5.2	—	0	灰白	E-531	
532	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.6	8.3	5.2	—	5	赤黒	E-532	
533	小皿	e	7B18d	灰原 2	1.6	—	—	—	3	赤黒	E-533	
534	小皿	d	7B18d	灰原 2	1.6	—	—	—	3	赤褐	E-534	
535	小皿	h	7B18e	灰原 2	2.1	7.6	4.7	—	7	灰白	E-535	最上段
536	羽釜		7B18d	灰原 2	—	—	—	—	0	赤薄	E-536	
537	羽釜		7B18d	灰原 2	—	—	—	—	0	灰白	E-537	鏝四角
538	羽釜		7B18d	灰原 2	—	—	—	—	0	灰白	E-538	
539	羽釜		7B18d	灰原 2	—	—	—	—	0	赤黒	E-539	底部
540	羽釜		7B18d	灰原 2	—	—	—	—	0	赤褐	E-540	底部
541	焼台		7B18d	灰原 2	7.0	—	13.9	—		青灰	E-541	
542	焼台		7B18d	灰原 2	7.5	—	12.0	—		青灰	E-542	
543	焼台		7B18d	灰原 2	7.3	—	12.6	—		青灰	E-543	
544	焼台		7B18d	灰原 2	5.7	—	12.6	—		青灰	E-544	
545	焼台		7B18d	灰原 2	9.9	—	12.7	—		赤褐	E-545	
546	焼台		7B18d	灰原 2	12.0	—	13.5	—		灰	E-546	2段
547	山茶碗	E	7B18c	灰原 1 トレンチ	4.7	—	—	—	1	灰白	E-547	
548	山茶碗	A	7B18c	灰原 4層	5.1	—	6.2	5.6	1	白	E-548	
549	山茶碗	C	7B18c	灰原 4層	5.8	—	6.3	5.9	1	白	E-549	
550	山茶碗	A	7B18c	灰原 4層	5.4	—	7.1	6.7	0	白	E-550	
551	山茶碗重ね焼	E	7B18c	灰原 4層	5.3	—	7.0	6.5	3	白	E-551	2段
552	小皿	f	7B18c	灰原 2層	2.1	—	4.3	—	6	灰白	E-552	
553	小皿	d	7B18c	灰原 2層	1.8	8.6	6.0	—	3	灰白	E-553	
554	小皿	f	7B18c	灰原 表土	2.3	—	3.8	—	2	灰白	E-554	蓋
555	小皿	d	7B18c	灰原 表土	2.1	—	5.2	—	4	灰黒	E-555	蓋, 歪み
556	山茶碗	E	7B17c	表土	4.8	14.9	7.2	6.8	5	灰白	E-556	
557	山茶碗	E	7B17c	表土	4.9	—	7.4	6.9	2	白	E-557	歪み
558	山茶碗	E	7B17d	表土	5.2	15.8	8.7	7.7	9	白	E-558	
559	山茶碗	E	7B17d	表土	5.4	—	7.1	6.5	2	灰	E-559	
560	山茶碗	A	7B17d	表土	5.3	—	6.2	5.4	0	白	E-560	最上段, 歪み

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
561	山茶碗	E	7B17d	検出	5.4	—	6.6	6.3	3/12	白	E-561	最上段
562	山茶碗	G	7A18t	表土	6.0	—	7.3	6.2	2	灰黒	E-562	高台砂利痕
563	山茶碗	E	7A18t	表土	4.9	—	8.0	7.4	0	白	E-563	最上段
564	山茶碗	C	7B18a	表土	5.6	—	—	—	1	白	E-564	
565	山茶碗	E	7B18a	表土	4.6	—	—	—	3	灰白	E-565	
566	山茶碗	D	7B18a	表土	5.8	—	—	—	1	赤薄	E-566	
567	山茶碗	C	7B18a	表土	5.8	—	6.8	5.9	1	灰	E-567	蓋, 接合痕
568	山茶碗	C	7B18a	表土	5.3	—	—	—	2	灰白	E-568	最上段
569	山茶碗	C	7B18a	表土	5.7	—	—	—	1	灰	E-569	蓋
570	山茶碗	C	7B18a	表土	5.7	—	6.6	5.7	0	白	E-570	蓋
571	山茶碗	E	7B18b	表土	5.1	14.7	7.2	6.3	5	白	E-571	
572	山茶碗	G	7B18b	表土	6.4	—	7.1	6.3	0	灰白	E-572	
573	山茶碗	C	7B18b	表土	5.7	—	6.6	—	2	灰白	E-573	
574	山茶碗	E	7B18c	表土	5.1	—	7.5	7.2	2	灰白	E-574	
575	山茶碗	E	7B18c	表土	5.0	—	7.1	6.7	1	灰白	E-575	
576	山茶碗	E	7B18c	表土	5.1	—	—	—	3	白	E-576	
577	山茶碗	E	7B18c	表土	4.3	—	—	—	1	赤薄	E-577	
578	山茶碗	A	7B18c	表土	5.4	14.4	6.3	5.7	10	灰白	E-578	最上段
579	山茶碗	C	7B18c	表土	5.1	—	5.8	5.5	0	白	E-579	歪み
580	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.2	—	7.0	6.4	4	白	E-580	
581	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチベルト 表土	4.5	—	—	—	2	灰	E-581	
582	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.0	—	—	—	1	灰白	E-582	
583	山茶碗	D	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.8	—	7.2	6.3	1	赤褐	E-583	
584	山茶碗	D	7B18c	1 トレンチベルト 表土	6.0	—	—	—	1	赤褐	E-584	
585	山茶碗	F	7B18c,18d	1 トレンチベルト 表土, 検出	5.5	—	8.0	7.4	1	白	E-585	
586	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.6	14.5	5.8	5.3	6	灰白	E-586	
587	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.9	—	6.5	6.1	3	灰白	E-587	
588	山茶碗	A	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.5	—	6.2	5.8	3	灰白	E-588	最上段
589	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.4	—	6.1	—	4	灰	E-589	最上段
590	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	6.2	—	6.8	6.1	1	灰赤	E-590	
591	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.9	—	—	—	2	灰	E-591	
592	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	5.9	—	—	—	1	灰	E-592	
593	山茶碗	B	7B18c	1 トレンチベルト 表土	6.5	—	6.5	5.9	0	白	E-593	
594	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチベルト 表土	6.0	—	6.4	5.4	1	白	E-594	歪み
595	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチ	5.1	14.4	6.8	6.0	5	白	E-595	
596	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチ	5.2	—	7.8	6.4	1	白	E-596	
597	山茶碗	E	7B18c	1 トレンチ	5.2	—	—	—	1	灰	E-597	
598	山茶碗	A	7B18c	1 トレンチ	5.4	—	6.5	5.6	3	灰	E-598	蓋, 歪み
599	山茶碗	C	7B18c	1 トレンチ	5.4	—	6.5	5.1	1	白	E-599	歪み
600	山茶碗	B	7B18c	1 トレンチ	5.6	—	6.7	5.7	0	白	E-600	最上段, 歪み
601	山茶碗	A	7B18c	1 トレンチ	4.8	—	6.4	6.1	0	白	E-601	
602	山茶碗	A	7B18c	1 トレンチ	5.6	—	6.7	6.2	2	白	E-602	
603	山茶碗	B	7B18c	1 トレンチ	6.0	—	6.6	6.0	3	白	E-603	
604	山茶碗	C	7B18c	試掘トレンチ	5.2	—	6.5	6.0	1	白	E-604	最上段
605	山茶碗	A	7B18c	試掘トレンチ	5.5	—	7.3	6.4	1	白	E-605	
606	山茶碗	D	7B18c	試掘トレンチ	(2.3)	—	6.7	5.9	0	白	E-606	
607	山茶碗	E	7B18d	検出	5.0	—	7.2	6.6	2	白	E-607	2 段
608	山茶碗	E	7B18d	検出	4.7	—	8.1	7.5	1	灰白	E-608	歪み
609	山茶碗	D	7B18e	表土	5.2	—	—	—	1	白	E-609	蓋
610	山茶碗	E	7B18e	検出	5.1	—	—	—	1	灰白	E-610	
611	山茶碗	E	7B18e	検出	5.0	—	—	—	1	灰白	E-611	
612	山茶碗	E	7B18e	検出	4.5	—	—	—	0	赤薄	E-612	
613	山茶碗	E	7B18e	検出	4.7	—	—	—	2	灰白	E-613	
614	山茶碗	E	7B18e	検出	4.9	—	—	—	1	白	E-614	最上段
615	山茶碗	E	7B18e	4 トレンチ	4.7	—	—	—	1	白	E-615	2 段
616	山茶碗	E	7B18f	トレンチ	5.1	—	—	—	4	白	E-616	
617	山茶碗	E	7B18f	2 トレンチ	4.9	—	—	—	1	白	E-617	
618	山茶碗	A	7B18f	検出	5.6	—	7.0	—	3	灰白	E-618	
619	山茶碗	C	7B19d	表土	5.9	—	5.9	5.1	2	灰	E-619	
620	山茶碗	B	7B19d	表土	5.0	—	7.2	6.5	3	灰白	E-620	
621	山茶碗	B	7B19d	表土	5.2	—	6.9	5.7	2	白	E-621	
622	山茶碗	A	7B19d	表土	5.3	—	7.0	6.4	1	白	E-622	歪み
623	山茶碗	B	7B19d	表土	5.0	—	6.7	5.9	3	白	E-623	歪み
624	山茶碗	A	7B19d	検出	5.6	—	7.0	—	1	白	E-624	
625	山茶碗	E	7B19d	検出	4.5	—	7.1	—	1	灰白	E-625	
626	山茶碗	B	7B19d	1 トレンチ	5.4	14.1	7.2	6.2	7	白	E-626	
627	山茶碗	A	7B19d	1 トレンチ	5.3	13.8	6.0	5.3	4	灰白	E-627	
628	山茶碗	A	7B19d	1 トレンチ	5.1	—	6.8	—	1	白	E-628	
629	山茶碗	E	7B19e	検出	5.1	—	7.5	6.9	1	灰	E-629	
630	山茶碗	E	7B19e	検出	5.5	—	—	—	2	白	E-630	

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
631	山茶碗	E	7B19e	検出	5.3	—	—	—	4/12	灰白	E-631	
632	山茶碗	E	7B19e	検出	5.1	—	—	—	3	灰白	E-632	
633	山茶碗	E	7B19e	検出	5.4	—	—	—	1	灰白	E-633	蓋, 歪み
634	山茶碗	D	7B19e	4 トレンチ	4.9	—	7.3	—	4	灰	E-634	
635	山茶碗	E	7B19f	3 トレンチ 2層	5.4	—	—	—	0	灰白	E-635	
636	山茶碗	E	7B19f	3 トレンチ	5.4	—	—	—	1	灰白	E-636	
637	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.7	15.4	8.0	7.1	6	灰白	E-637	2段
638	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.5	—	7.5	6.4	0	灰白	E-638	
639	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.4	—	—	—	2	灰	E-639	
640	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.0	—	—	—	2	灰白	E-640	最上段
641	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.3	—	7.0	6.0	3	白	E-641	蓋, 歪み
642	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.0	—	—	—	1	白	E-642	
643	山茶碗	E	調査区北側	表土	4.6	—	—	—	1	灰白	E-643	
644	山茶碗	E	調査区北側	表土	5.2	—	—	—	0	灰白	E-644	
645	山茶碗	E	—	表土	5.5	—	7.4	6.5	3	灰白	E-645	
646	山茶碗	D	7B18e	表土	4.3	—	—	—	2	灰	E-646	
647	山茶碗溶着	G	7B17d	表土	(5.7)	—	6.7	5.7	3	灰黒	E-647	高台砂利痕
648	山茶碗重ね焼	E	7B18a	表土	(10.8)	14.7	7.8,6.5	7.2,5.9	8	白	E-648	7段
649	山茶碗重ね焼	E	7B18c	表土	(7.1)	—	7.8	6.8	0	灰白	E-649	5段, 歪み
650	山茶碗重ね焼	C	7B18c	表土	(8.1)	—	6.2	5.5	0	白	E-650	4段
651	山茶碗重ね焼	D	7B18c	表土	(7.8)	—	6.7	5.6	0	白	E-651	3段, 歪み
652	山茶碗重ね焼	E	7B18c	1 トレンチベルト 表土	(6.8)	—	7.8	7.0	0	白	E-652	5段
653	山茶碗重ね焼	E	7B18c	1 トレンチベルト 表土	4.3	—	6.7	—	5	白	E-653	4段, 歪み
654	山茶碗重ね焼	D	7B18c	1 トレンチベルト 表土	(4.2)	—	6.3	—	0	赤薄	E-654	3段
655	山茶碗重ね焼	E	7B18c	1 トレンチベルト	5.0	14.8	7.7	7.0	8	白	E-655	3段
656	山茶碗重ね焼	D	7B18d	1 トレンチ	4.6(5.3)	—	6.8	6.2	0	白	E-656	3段
657	山茶碗重ね焼	E	7B18e	検出	(6.2)	—	7.3	6.6	0	白	E-657	3段
658	山茶碗重ね焼	D	7B18g	検出	(8.1)	—	6.8	6.2	0	白	E-658	最上部, 3段
659	山茶碗重ね焼	E	7B19d	表土	(6.6)	—	8.4	7.6	0	白	E-659	5段
660	山茶碗重ね焼	D	7B19d	表土	(6.7)	—	7.0	—	0	白	E-660	6段, 歪み
661	山茶碗重ね焼	E	7B19e	検出	(6.1)	—	7.6	7.1	0	白	E-661	3段
662	山茶碗重ね焼	D	調査区北側	表土	(6.6)	—	8.1	7.2	0	灰白	E-662	4段
663	山茶碗重ね焼	E	調査区北側	表土	4.6	—	—	—	3	灰白	E-663	3段
664	山茶碗重ね焼	E	調査区北側	表土	(4.5)	—	—	—	2	灰白	E-664	2段
665	山茶碗+焼台	E	7B17c	表土	(12.7)	—	7.2	—	0	白	E-665	最下段, 6段, 歪み
666	小皿	h	7B18a	表土	1.8	—	4.1	—	5	白	E-666	最上段
667	小皿	f	7B18a	表土	1.9	8.0	4.5	—	5	白	E-667	
668	小皿	f	7B18b	表土	2.0	7.8	4.7	—	6	灰白	E-668	
669	小皿	f	7B18b	表土	1.7	7.7	4.2	—	3	白	E-669	最上段, 歪み
670	小皿	f	7B18c	表土	1.8	7.7	3.8	—	7	灰白	E-670	最上段
671	小皿	d	7B18c	表土	1.6	—	5.2	—	2	赤褐	E-671	
672	小皿	e	7B18c	表土	1.7	8.1	4.5	—	1	黄白	E-672	
673	小皿	h	7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.9	7.6	4.2	—	5	灰白	E-673	蓋, 歪み
674	小皿	d	7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.4	8.3	5.2	—	10	灰	E-674	蓋, 歪み
675	小皿	d	7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.8	8.5	6.0	—	8	灰白	E-675	
676	小皿	e	7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.6	8.0	4.6	—	7	赤薄	E-676	
677	小皿	f	7B18c	検出	2.1	—	4.3	—	2	灰	E-677	
678	小皿	h	7B18c	1 トレンチ	2.2	—	3.8	—	3	灰	E-678	
679	小皿	e	7B18c	1 トレンチ	2.2	—	3.9	—	3	白	E-679	
680	小皿	g	7B18e	検出	1.9	—	4.3	—	4	灰白	E-680	最上段
681	小皿	g	7B18e	検出	2.2	—	4.5	—	3	灰白	E-681	
682	小皿	f	7B18e	検出	2.3	—	5.0	—	1	灰白	E-682	
683	小皿	e	7B18c	表土	2.5	—	4.0	—	5	—	E-683	歪み
684	小皿	f	7B18f	トレンチ	1.9	—	4.3	—	6	—	E-684	歪み
685	小皿	c	7B19d	表土	1.9	8.0	5.0	—	5	—	E-685	
686	小皿	f	7B19e	検出	2.2	—	4.4	—	1	—	E-686	
687	小皿	g	7B19e	検出	2.4	—	5.0	—	1	—	E-687	蓋, 歪み
688	小皿	g	7B19e	検出	1.8	—	5.4	—	3	—	E-688	蓋, 歪み
689	小皿	h	7B18e,19f	検出, 4 トレンチ	2.2	—	4.2	—	5	—	E-689	最上段
690	小皿	f	7B19f	検出	2.1	—	4.2	—	1	—	E-690	最上段
691	小皿	e	7B19f	3 トレンチ 2層	1.8	—	4.2	—	3	—	E-691	蓋, 歪み
692	小皿	f	調査区北側	表土	2.4	—	4.8	—	1	—	E-692	内外面釉
693	小皿	h	調査区北側	表土	1.9	—	4.4	—	6	—	E-693	
694	小皿	e	調査区北側	表土	1.9	7.6	5.0	—	1	—	E-694	
695	小皿溶着	d	7B18c	1 トレンチベルト 表土	2.0	8.0	4.8	—	8	—	E-695	蓋
696	仏供	—	7B18c	1 トレンチ	(2.2)	—	(7.0)	—	0	灰白	E-696	
697	羽釜	—	7B17d	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-697	鏝下ナデ無
698	羽釜	—	7B18b	表土	—	—	—	—	0	赤黒	E-698	
699	羽釜	—	7B18f	3 トレンチ	—	—	—	—	2	赤黒	E-699	鏝四角
700	羽釜	—	7B18d	検出	—	—	—	—	1	赤褐	E-700	

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)				口縁部 残存率	胎土	登録 番号	備考
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	高台径				
701	羽釜		7B18f	表土	—	—	—	—	2	赤黒	E-701	
702	羽釜		7B18f	2 トレンチ 10 層	—	—	—	—	0	赤黒	E-702	
703	羽釜		—	表土	—	—	—	—	1	赤褐	E-703	
704	羽釜		7B16d	表土	—	—	—	—	0	赤黒	E-704	
705	羽釜		7B16f	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-705	
706	羽釜		7B17d	検出	—	—	—	—	0	赤黒	E-706	
707	羽釜		7B18a	表土	—	—	—	—	0	黄白	E-707	焼成不良
708	羽釜		7B18c	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-708	
709	羽釜		7B18c	1 トレンチベルト 表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-709	
710	羽釜		7B18c	1 トレンチベルト 表土	—	—	—	—	0	赤黒	E-710	
711	羽釜		7B18d	表土	—	—	—	—	0	赤黒	E-711	
712	羽釜		7B18d	検出	—	—	—	—	0	赤黒	E-712	
713	羽釜		7B18e	表土	—	—	—	—	0	灰	E-713	
714	羽釜		7B18d	検出	—	—	—	—	0	灰黒	E-714	
715	羽釜		7B18e	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-715	
716	羽釜		7B19f	検出	—	—	—	—	0	赤褐	E-716	接合部刻み目
717	羽釜		7B19f	3 トレンチ	—	—	—	—	0	赤褐	E-717	
718	羽釜		調査区北側	表土	—	—	—	—	0	灰	E-718	
719	羽釜		—	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-719	
720	羽釜		—	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-720	
721	鍋		7B18d	検出	—	—	—	—	0	赤褐	E-721	
722	鍋		7B16f	表土	—	—	—	—	1	赤褐	E-722	
723	鍋		7B18e	検出	—	—	—	—	1	赤褐	E-723	
724	鍋		7B18f	2 トレンチ 6 層	—	—	—	—	1	赤褐	E-724	
725	鍋		調査区北側	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-725	
726	羽釜+焼台		7B18d	検出	—	—	—	—	0	赤黒	E-726	
727	焼台		7B16f	表土	5.6	—	11.4	—	—	白	E-727	
728	焼台		7B16f	表土	6.7	—	6.7	—	—	赤黒	E-728	
729	焼台		7B18c	1 トレンチベルト 表土	6.0	—	11.8	—	—	青灰	E-729	
730	焼台		7B18c	1 トレンチ	6.4	—	9.4	—	—	青灰	E-730	
731	焼台		7B18e	検出	7.4	—	13.7	—	—	赤黒	E-731	
732	焼台		7B18e	表土	5.5	—	10.1	—	—	赤黒	E-732	
733	焼台		—	表土	6.1	—	8.8	—	—	赤黒	E-733	
734	焼台		7B18b	表土	(3.2)	—	5.9	—	—	灰	E-734	小皿用
735	分焰棒		7B18c	表土	(30.0)	—	—	—	—	白	E-735	
736	須恵器	杯B	7B16f	表土	(1.7)	—	—	—	0	赤黒	E-736	NN-3 2
737	須恵器	杯B	7B17d	トレンチ	4.0	—	—	—	1	灰黒	E-737	O-1 0
738	灰釉陶器	平瓶	—	表土	(4.8)	—	—	—	0	白	E-738	K-1 4
739	灰釉陶器	平瓶	—	表土	(6.1)	—	—	—	0	白	E-739	K-1 4
740	山茶碗		7B18f	SD02	(2.3)	—	—	—	0	赤薄	E-740	分析サンプル
741	山茶碗		7B18f	SD02 2 トレンチ 6 層	(3.9)	—	—	—	0	灰白	E-741	分析サンプル
742	山茶碗		7B19f	SD02	(2.4)	—	—	—	0	灰白	E-742	分析サンプル
743	砂質シルト		7B19e	SX03 1.4 区間ベルト 1 層							E-743	分析サンプル
744	焼台		7B19e	SX03 2 区上層	(6.7)		12.0			青灰	E-744	分析サンプル
745	白色粘土		7B20e	SY01 床下							E-745	分析サンプル
746	赤色土(地山)		7B20e	SY01 床下							E-746	分析サンプル
747	黒色土		7B20e	SY01 床下							E-747	分析サンプル
748	山茶碗		7B20e	SY01 6 区	5.7	—	—	—	1	白	E-748	分析サンプル
749	窯壁		7B20e	SY01 3 区分焰柱西横床							E-749	分析サンプル
750	小皿		7B20e	SY01 2 区床面直上	1.6	—	5.0	—	2	白	E-750	分析サンプル
751	焼台		7B20e	SY01 2 区	(7.8)	—	4.2	—	—	灰	E-751	分析サンプル
752	小皿		7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.7	—	—	—	1	灰	E-752	分析サンプル
753	小皿		7B18c	1 トレンチベルト 表土	1.8	—	—	—	3	灰白	E-753	分析サンプル
754	山茶碗		7B18d	灰原 2	(5.8)	—	—	—	0	赤黒	E-754	分析サンプル
755	山茶碗		7B18d	灰原 2	(3.0)	—	—	—	0	灰白	E-755	分析サンプル
756	焼台		7B18d	灰原 2	(7.0)	—	—	—	—	赤褐	E-756	分析サンプル
757	粘土		—	—							E-757	分析サンプル
758	小皿		調査区北側	表土	1.8	—	4.7	—	0	赤薄	E-758	最上段, 歪み, 分析サンプル
759	羽釜		7B18e	表土	—	—	—	—	0	赤褐	E-759	分析サンプル

()は残存高・残存径

遺物番号に網掛のあるものは付録の CD に写真がある。

第4章 理化学的分析

第1節 K-G-93号窯跡の考古地磁気年代推定

藤根 久・Lomtadze Zauri (パレオ・ラボ)

(1) はじめに

K-G-93号窯跡は、みよし市福谷町地内に所在する山茶碗の窯跡である。ここでは、窯跡の床面焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から窯跡の焼成年代を推定した。

(2) 考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度（全磁力）によって表される。方向は、真北からの角度である偏角（Declination）と水平面からの角度である伏角（Inclination）によって表す。磁気コンパスが北として示す方向（磁北）は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約 7.06° 、伏角は約 47.84° 、全磁力（水平分力）は約 $30728.35(\text{nT})$ である（理科年表、2006；いずれも2000年値）。これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は、観測する地点によって異なった値になる。全世界地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や炉跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物（磁鉄鉱など）はこの磁場が取り除かれた後でも磁気が残る。これが残留磁化である。考古地磁気では、焼土の残留磁化（熱残留磁化）が、焼かれた当時の地磁気の方角を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方角は少しずつではあるが変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去2,000年については、西南日本の窯跡や炉跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている（広岡、1977、Shibuya、1980）。一方、地磁気には地域差が認められることから、東海地方の地磁気永年変化曲線が求められている（広岡・藤澤、2002；図46）。

こうした年代のよく分かっている窯跡焼土や火山岩の熱残留磁化測定などから地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。ただし、この方法は、 ^{14}C 年代測定法など他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代の決定を決定する方法ではない。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、焼き物等の年代が参考となる。

(3) 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算

を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

a 測定用試料の採取および整形

試料は、床焼土面において、①一辺約 4cm の立方体試料を取り出すため、瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや固め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺 5cm の正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺 3.5cm ・厚さ 2 cm 程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、16 試料である。なお、採取時において 1 試料が破損した。

b 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：㈱夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意 1 試料（No. 4）について交流消磁装置（DEM-8601：㈱夏原技研製）を用いて段階的に消磁を行い、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した。その結果、試料の磁化強度は 10^{-3} emu と強いことが分かった。さらに、磁化方向は、両者とも中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録していることが分かった。

以上の理由から、150 Oe で消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、150 Oe 消磁した後に残留磁化を測定した。

複数試料の測定から得た偏角 (D i)、伏角 (I i) を用いて、Fisher (1953) の統計法により平均値 (D m、I m) を求めた。信頼度数は、377.26 であり、従って伏角および偏角の各誤差が 6 大きな値であった (表 6)。

遺構名	試料 No.	偏角 (° E)	伏角 (°)	強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
K-G-93 号窯跡 (150Oe)	1	13.0	62.2	0.741		試料数 (n)	6
	2	9.7	61.1	1.556			
	3	6.4	63.9	1.537			
	4	13.9	65.8	1.609	段階交流消磁	平均偏角 Dm (° E)	9.82
	5	14.9	63.1	1.485		平均伏角 Im (°)	62.2
	6	92.3	10.5	2.943		誤差角 δ D (°)	7.35
	7	8.4	-36.1	24.840			
	8				破損		
	9	2.9	55.6	22.890		誤差角 δ I (°)	3.45
	10	-84.9	7.7	13.710		信頼度数 (k)	377.26
	11	-171.3	-12.3	17.890			
	12	-21.2	-45.0	9.446			
	13	8.3	6.2	35.320		平均磁化強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	4.97
	14	-143.3	-50.2	25.890			
	15	177.5	-53.9	35.440			
	16	-178.1	-54.9	29.350			
	17						

表 6 残留磁化測定結果 (偏角補正前)

求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の1990.0年の磁気偏角近似式から計算した $7.06^{\circ} W$ を使用した。その結果は、広岡・藤澤(2002)による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー(1953)の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

(4) 焼成年代値の推定

図46には、広岡・藤澤(2002)による東海地方の地磁気永年変化(実線)の一部曲線とともに床面焼土の磁化方向を示した。

磁化方向は、標準曲線の1,100～1,200年間にプロットされた。年代の推定は、磁化方向の中心もとも近い標準曲線上に移動して推定した。

その結果、A.D.1,140 $^{+160}_{-60}$ 年と計算され、かなり広い年代範囲となった。

引用文献

Fisher, R.A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc. Roy. Soc. London, A, 217, 295-305.

広岡公夫(1977) 考古学地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、15、200-203.

広岡公夫・藤澤良祐(2002) 東海地方の地磁気永年変化曲線、考古学と自然科学、45、29-54.

理科年表(2006) 国立天文台編、丸善、1030p.

Shibuya, H. (1980) Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文、54p

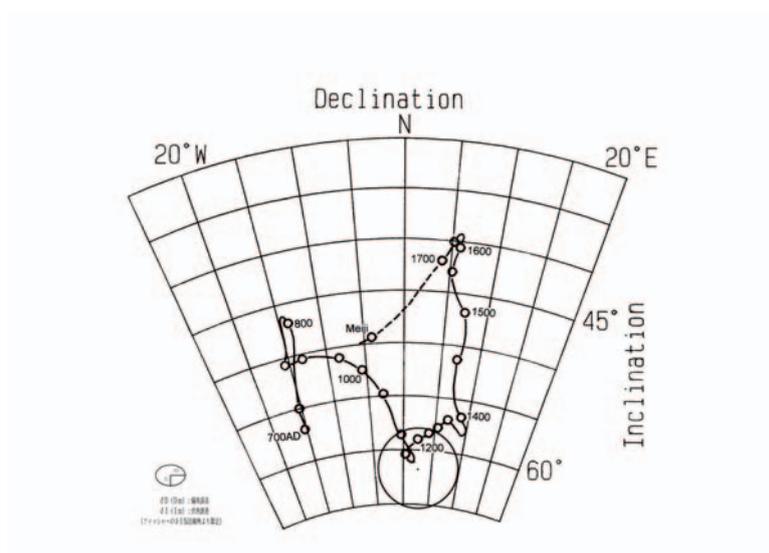


図46 K-G-93号窯跡床面焼土の残留磁化と標準曲線
(広岡・藤澤(2002)に標準曲線にプロット)

(1) はじめに

K-G-93号窯跡は境川とその支流である小石川に挟まれた丘陵上に立地する、山茶碗の焼成が行われた窯跡である。発掘調査では窯跡（SY01）の他に粘土溜まり（SX03）と谷状地形（SD02）が検出された。それらの時期は、窯跡出土の山茶碗の型式により13世紀前半と考えられている。

SY01の燃烧室および前庭部、灰原と、SX03などから炭化材が出土した。ここではそれら炭化材の樹種同定を行い、樹種の検討を行った。

(2) 試料と方法

試料はSY01から17点（燃烧室13点、前庭部3点、灰原1点）、SX03から2点、調査区北側の表土から1点の計20点である。No.2・3・4・7・9・11・12・13・19の試料は、袋内に複数破片がみられた。またNo.1・6・8・10・12・13・16・18・19の試料は破片であるが内樹皮が残存しており、5mm刻みの同心円に試料の最外面を当て、材の直径を求めた。No.4の試料では樹皮は確認できなかったが、前述の方法で材の残存径を求めた。

炭化材の同定方法は、実体顕微鏡で予察し、炭化材の3断面を5mm角程度の大きさに整形したあと、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し試料を作製した。その後金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡で同定および写真撮影を行った。なお、残りの試料は（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

(3) 結果

同定の結果、針葉樹のマツ属複維管束亜属と広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下クヌギ節）の2分類群が産出した。マツ属複維管束亜属が最も多く16点産出し、クヌギ節は4点産出した。袋内に複数個体が確認された試料は、いずれも同一の樹種であり、同一個体とした。表7に樹種同定結果を、表8に同定結果一覧を記す。

樹種／遺構	SY01			SX03	調査区北側	合計
	燃烧室	前庭部	灰原			
マツ属複維管束亜属	9	3	1	2	1	16
コナラ属クヌギ節	4					4
合計	13	3	1	2	1	20

表7 K-G-93号窯跡出土炭化材の樹種同定結果

No.	出土遺構	出土部位	採取地点	樹種	備考
1	SY01	燃焼室	分焰柱脇東	マツ属複維管束亜属	φ 1.5cm
2	SY01	前庭部	3 層	マツ属複維管束亜属	複数破片
3	SY01	燃焼室	3 区床面直上	マツ属複維管束亜属	複数破片
4	SY01	燃焼室	3 区	マツ属複維管束亜属	復元径 10.0cm 以上 複数破片
5	SY01	燃焼室	4 区	マツ属複維管束亜属	生材
6	SY01	燃焼室	8 区 4 層	コナラ属クヌギ節	φ 1.5cm
7	SX03	—	2 区上層	マツ属複維管束亜属	複数破片
8	SX03	—	2 区	マツ属複維管束亜属	φ 5.5cm 2 破片
9	7B18e	灰原	灰原②	マツ属複維管束亜属	複数破片
10	調査区北側	—	表土	マツ属複維管束亜属	φ 1.5cm 一部生
11	SY01	燃焼室		マツ属複維管束亜属	複数破片
12	SY01	燃焼室	2 区	コナラ属クヌギ節	φ 1.0cm 複数破片
13	SY01	燃焼室	2 区床面直上	コナラ属クヌギ節	φ 1.0cm 複数破片
14	SY01	燃焼室	4 区床面直上	マツ属複維管束亜属	
15	SY01	燃焼室	4 区床面直上	マツ属複維管束亜属	
16	SY01	燃焼室	7・8 区間ベルト 4 層	マツ属複維管束亜属	φ 1.0cm
17	SY01	燃焼室	7 区床面直上	マツ属複維管束亜属	
18	SY01	燃焼室	8 区 4 層	コナラ属クヌギ節	φ 1.0cm
19	SY01	前庭部	ベルト 3 層	マツ属複維管束亜属	φ 2.0cm 複数破片
20	SY01	前庭部	ベルト 3 層西	マツ属複維管束亜属	一部生

表 8 K-G-93 号窯跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

次に同定された材の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を示す。

a マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 図 4 7 1a-1c・2a-2c

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は低い鋸歯状となり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に育成しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

b コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図 4 7 3a-3c

年輪の始めに大型の道管が 1～2 列並び、晩材部にかけて単独の道管が径を減じて放射方向に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列同性のものと、集合放射組織が存在する。

(4) 考察

SY01 の試料は燃焼室、前庭部、灰原からの出土で、燃料材の残渣であると考えられる。燃焼室ではマツ属複維管束亜属とクヌギ節が産出し、前庭部と灰原ではマツ属複維管束亜属のみの産出であった。燃焼室のみでクヌギ節が産出したが、前庭部と灰原の試料は燃焼室より試料数が少ないためであるとされる。

材の直径は、1.0～2.0cmの材が多かった。小径材が多い理由には、燃料廃棄の際などに小径材は形状が崩れにくかったなどの要因が考えられる。また、復元直径では10.0cm以上の材もみられたため、操業当時の燃料材には、計測された小径材よりも太い材が一定数存在していたと思われる。また、焼室のNo.5は生材（マツ属複維管束亜属）、前庭部のNo.20（マツ属複維管束亜属）は、一部未炭化であった。No.5は全く被熱しておらず、操業後の廃棄の段階で未炭化の木材が混入したと思われる。またNo.20は完全に燃焼しきらなかった燃料材と考えられる。

SX03と表土では、マツ属複維管束亜属が産出した。SX03の試料では直径5.5cmの材が確認できた。表土の試料は直径1.5cmで、一部未炭化であった。表土の試料の由来は不明であるが、SX03の試料はSY01の燃料材の残渣である可能性がある。

東海地域の山茶碗や常滑などの中世窯で利用された燃料材については、燃料材の選択利用や燃料材の輸送、山野の入会権などについての可能性が考えられている（池本・植田，2005；早野，2007）。また、K-G-93号窯跡周辺の13世紀前半の窯跡、KG88・91・92号窯跡とKG96・99号窯跡では、マツ属複維管束亜属が多く産出している（早野，2007）。

K-G-93号窯跡では、層位別の樹種構成に変化は見られず、マツ属複維管束亜属が多かった。そして近隣の窯跡でもマツ属複維管束亜属を多く利用しており、当該遺跡周辺の13世紀前半の窯跡では、マツ属複維管束亜属を燃料材として利用する事が定着していた可能性が考えられる。

引用文献

- 池本正明・植田弥生（2004）出土炭化材の樹種同定．愛知県埋蔵文化財センター編「NA311号窯」：37-42，愛知県埋蔵文化財センター．
- 早野浩二（2007）夏敷古窯の特質．愛知県埋蔵文化財センター編「夏敷古窯跡・蛇廻間古窯跡」：160-169，愛知県埋蔵文化財センター．

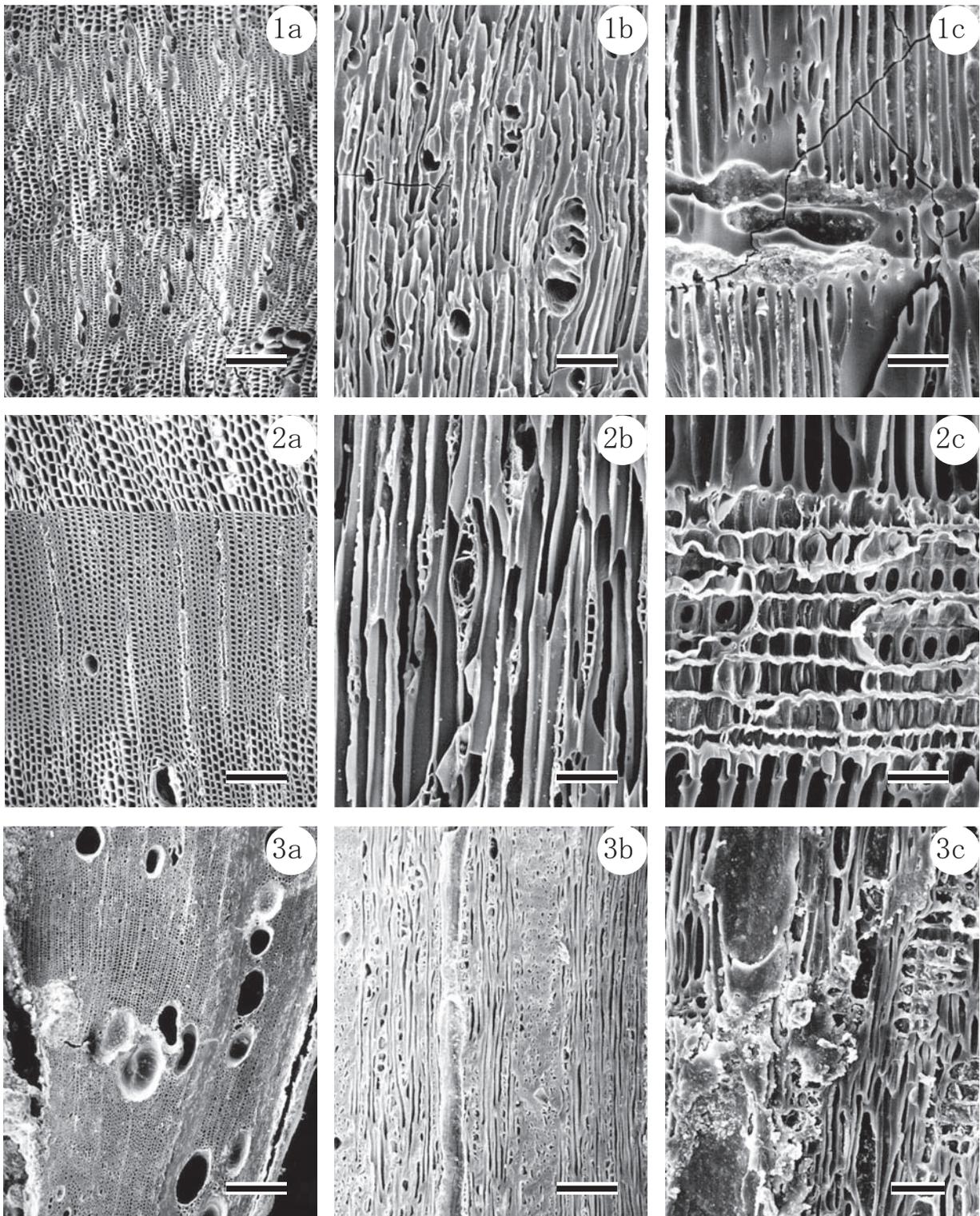


図4.7 K-G-93号窯跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No.2) 2a-2c. マツ属複維管束亜属 (No.9) 3a-3c. コナラ属クヌギ節 (No.5)

a: 横断面 (スケール=100 μ m) b: 接線断面 (スケール=50 μ m) c: 放射断面 (スケール=1-2:20 μ m 3:25 μ m)

(1) はじめに

愛知県みよし市に位置する K-G-93 号窯跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

(2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表9のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

(3) 結果

表10に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図48に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.0(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

(4) 考察

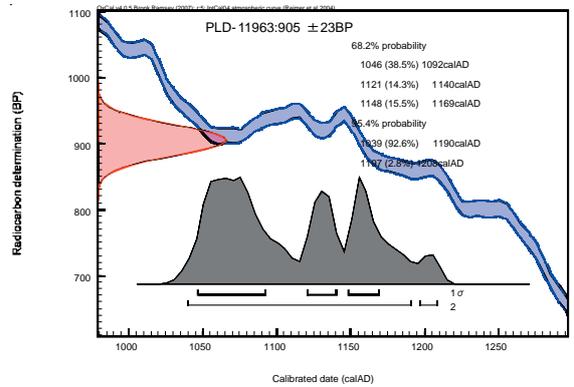
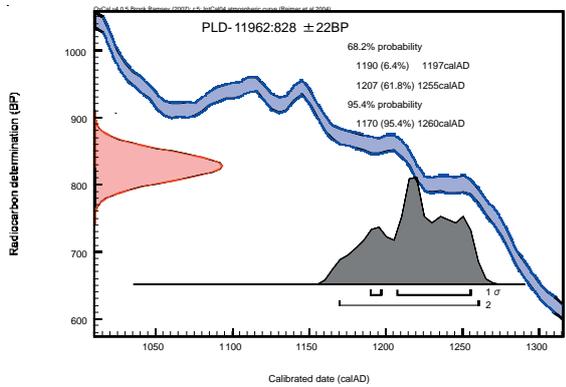
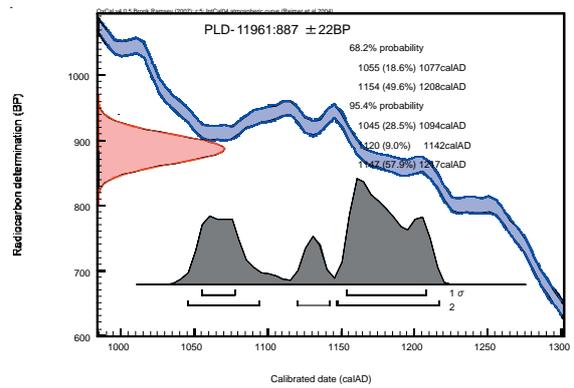
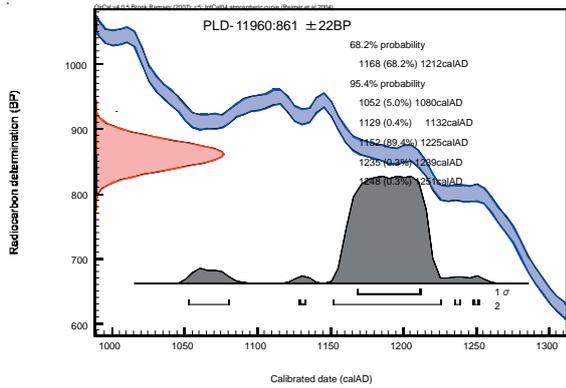
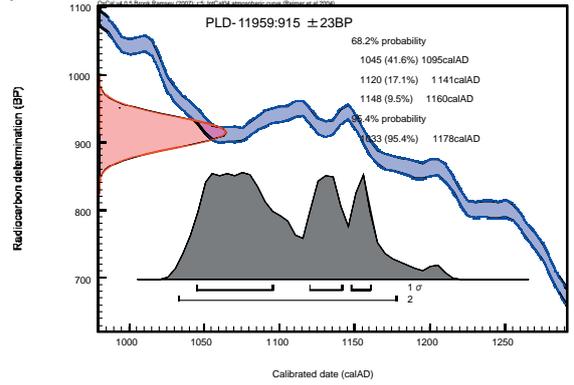
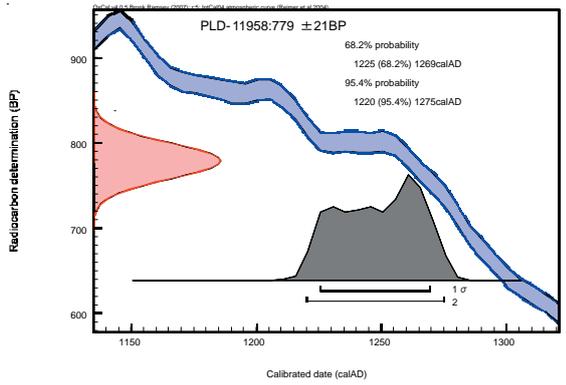
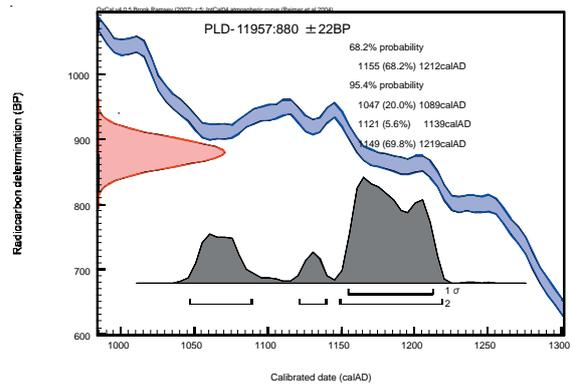
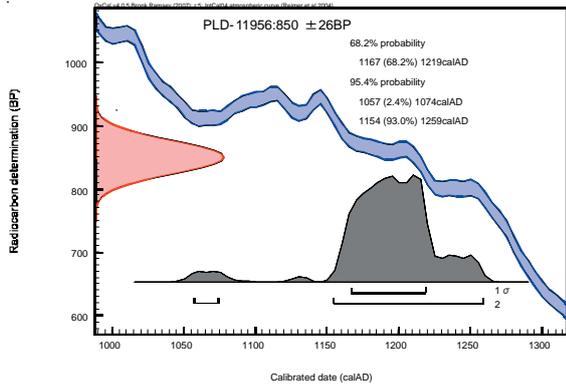
試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-11956	調査区：2WKG06 位置：SY01 床下黒色土 試料 No.：21 その他：061207	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.5N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11957	調査区：2WKG06 位置：SY01 分焰柱脇東 試料 No.：1 その他：061130	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11958	調査区：2WKG06 位置：7B20e SY01 前庭部 3 層 試料 No.：2 その他：061117	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11959	調査区：2WKG06 位置：SY01 3 区 燃焼室床面直上 試料 No.：3 その他：061129	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11960	調査区：2WKG06 位置：SY01 3 区 試料 No.：4 その他：061030	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11961	調査区：2WKG06 位置：SY01 4 区 試料 No.：5 その他：061026	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11962	調査区：2WKG06 位置：SY01 8 区 4 層 試料 No.：6 その他：061107	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.5N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11963	調査区：2WKG06 位置：7B18e SX03 2 区上層 試料 No.：7 その他：061115	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11964	調査区：2WKG06 位置：SX03 2 区 試料 No.：8 その他：061110	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11965	調査区：2WKG06 位置：7B18e 灰原② 試料 No.：9 その他：061113	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-11966	調査区：2WKG06 位置：調査区北側 表土ハギ 試料 No.：10 その他：061205	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス

表9 測定試料及び処理

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-11956 試料 No. : 21	-29.89 \pm 0.47	850 \pm 26	850 \pm 25	<u>1167AD(68.2%)1219AD</u>	1057AD(2.4%)1074AD <u>1154AD(93.0%)1259AD</u>
PLD-11957 試料 No. : 1	-26.33 \pm 0.19	880 \pm 22	880 \pm 20	<u>1155AD(68.2%)1212AD</u>	1047AD(20.0%)1089AD 1121AD(5.6%)1139AD 1149AD(69.8%)1219AD
PLD-11958 試料 No. : 2	-27.01 \pm 0.15	779 \pm 21	780 \pm 20	<u>1225AD(68.2%)1269AD</u>	<u>1220AD(95.4%)1275AD</u>
PLD-11959 試料 No. : 3	-27.36 \pm 0.22	915 \pm 23	915 \pm 25	<u>1045AD(41.6%)1095AD</u> 1120AD(17.1%)1141AD 1148AD(9.5%)1160AD	<u>1033AD(95.4%)1178AD</u>
PLD-11960 試料 No. : 4	-25.23 \pm 0.19	861 \pm 22	860 \pm 20	<u>1168AD(68.2%)1212AD</u>	1052AD(5.0%)1080AD 1129AD(0.4%)1132AD <u>1152AD(89.4%)1225AD</u> 1235AD(0.3%)1239AD 1248AD(0.3%)1251AD
PLD-11961 試料 No. : 5	-28.36 \pm 0.16	887 \pm 22	885 \pm 20	1055AD(18.6%)1077AD <u>1154AD(49.6%)1208AD</u>	1045AD(28.5%)1094AD 1120AD(9.0%)1142AD <u>1147AD(57.9%)1217AD</u>
PLD-11962 試料 No. : 6	-24.95 \pm 0.14	828 \pm 22	830 \pm 20	1190AD(6.4%)1197AD <u>1207AD(61.8%)1255AD</u>	<u>1170AD(95.4%)1260AD</u>
PLD-11963 試料 No. : 7	-25.73 \pm 0.16	905 \pm 23	905 \pm 25	<u>1046AD(38.5%)1092AD</u> 1121AD(14.3%)1140AD 1148AD(15.5%)1169AD	<u>1039AD(92.6%)1190AD</u> 1197AD(2.8%)1208AD
PLD-11964 試料 No. : 8	-26.31 \pm 0.16	874 \pm 22	875 \pm 20	<u>1160AD(68.2%)1210AD</u>	1048AD(13.7%)1085AD 1123AD(3.5%)1138AD <u>1150AD(78.2%)1220AD</u>
PLD-11965 試料 No. : 9	-25.19 \pm 0.12	902 \pm 22	900 \pm 20	<u>1047AD(37.0%)1089AD</u> 1122AD(13.0%)1139AD 1149AD(18.1%)1172AD	1041AD(46.4%)1109AD <u>1116AD(49.0%)1209AD</u>
PLD-11966 試料 No. : 10	-28.29 \pm 0.23	968 \pm 22	970 \pm 20	<u>1023AD(32.3%)1046AD</u> 1094AD(28.8%)1120AD 1141AD(7.0%)1148AD	1017AD(38.4%)1055AD <u>1077AD(57.0%)1155AD</u>

表 1 0 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果



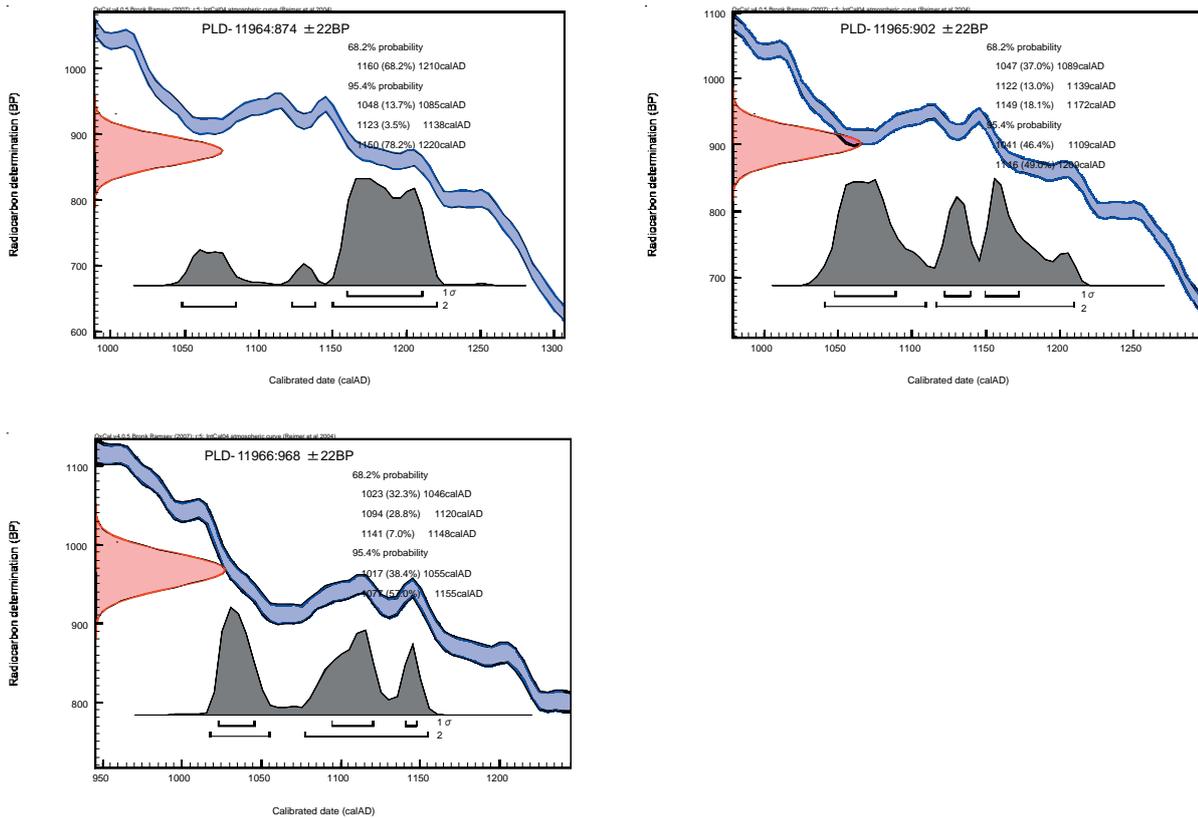


図 4 8 暦年較正結果

参考文献

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. *Radiocarbon*, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43, 355-363.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ¹⁴C 年代. 3-20.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

(1) はじめに

愛知県みよし市の北部に所在するK-G-93号窯跡からは、窯体（SY01）、粘土溜り（SX03）が検出され、山茶碗、焼台などが出土した。また、遺構形成時期自体は近代以降であったもののSD02およびそれに続く谷状地形も検出され、ここからも山茶碗、焼台、陶器の羽釜などが出土している。

これら土器および粘土等について、波長分散型X線分析装置による元素分析を行い、資料の元素組成からみる材料的特徴を比較、検討した。

(2) 試料と方法

分析対象資料は、窯体SY01より出土した山茶碗2点（分析No.9、No.11）、焼台（分析No.12）、窯の床下に敷き詰められた粘土および地山の土計3点（分析No.6～8）、窯壁（分析No.10）、粘土溜りSX03より出土した焼台（分析No.5）、砂質シルト（分析No.4）と、SD02およびそれに続く谷状地形周辺より出土した山茶碗8点（分析No.1～3、No.13～16、No.19）、陶器羽釜（分析No.20）、焼台（分析No.17）、比較対象として粘土サンプル1点（分析No.18）の計20点である（表11、図49）。時期は、SY01より出土した山茶碗が斎藤編年第八期第1型式で、SD02およびそれに続く谷状地形出土のものはSY01出土のものより1型式古い。

蛍光X線分析には各資料よりガラスビードを作成し、それを分析試料とするガラスビード法を用いた。

分析No.	調査区	グリッド	遺構	採取地点	種別・器種
1	2WKG06	7B18f	SD02		山茶碗・碗
2	2WKG06	7B18f	SD02	2トレンチ壁6層	山茶碗・碗
3	2WKG06	7B19f	SD02		山茶碗・碗
4	2WKG06	7B19e	SX03	1.4区間ベルト1層	砂質シルト
5	2WKG06	7B19e	SX03	2区上層	焼台
6	2WKG06		SY01	床下	白色粘土
7	2WKG06		SY01	床下	赤色土（地山）
8	2WKG06		SY01	床下	黒色土
9	2WKG06		SY01	6区	山茶碗・碗
10	2WKG06		SY01	分焰柱西横床	窯壁
11	2WKG06		SY01	2区床面直上	山茶碗・小皿
12	2WKG06		SY01	2区	焼台
13	2WKG06	7B18c		1トレンチベルト表土	山茶碗・小皿
14	2WKG06	7B18c		1トレンチベルト表土	山茶碗・小皿
15	2WKG06	7B18d	灰原	②	山茶碗・碗
16	2WKG06	7B18d	灰原	②	山茶碗・碗
17	2WKG06	7B18d	灰原	②	焼台
18	2WKG06				粘土サンプル
19	2WKG06			調査区北側 表土ハギ	山茶碗・小皿
20	2WKG06	7B18e		表土	陶器・羽釜

表11 分析対象資料



图 4-9 分析对象资料

まず必要量を各資料より岩石カッターで切り取り、土器については胎土以外の影響を排除するため、表面を削った後、精製水にて超音波洗浄を行った。試料はセラミック乳鉢で粉末にしてつばに入れ、電気炉で750℃、6時間焼成した後、デシケーター内で放冷し、1.8000g 秤量した。これを、無水四ホウ酸リチウム Li₂B₄O₇ と、リチウムメタボレイド LiBO₂ を 8:2 の割合で調製した融剤 3.6000g と十分に混合し、白金製のつばに入れ、ビードサンプラーにて約 750℃で 250 秒間予備加熱、約 1100℃で 150 秒間溶融させ、約 1100℃で 450 秒間揺動加熱してガラスビードを作成した。

分析はフィリップス社製波長分散型蛍光 X 線分析装置 MagiX (PW2424 型) にて、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターおよび米国標準技術研究所 (NIST) の岩石標準試料計 14 種類を用いた検量線法による定量分析を行った。定量元素は、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、二酸化ケイ素 (SiO₂)、五酸化二リン (P₂O₅)、酸化カリウム (K₂O)、酸化カルシウム (CaO)、酸化チタン (TiO₂)、酸化マンガン (MnO)、酸化鉄 (Fe₂O₃) の主成分 10 元素と、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の微量元素成分 4 元素の計 14 元素である。

(3) 結果

表 1 2 に、蛍光 X 線分析の測定結果を示す。また、図 5 1 に各元素の分布図を示す。

(4) 考察

図 5 1 を見てみると、SY01 より出土した山茶碗とその他より出土した山茶碗の間には、CaO や MnO で特徴的な値を示した分析 No. 3 の山茶碗を除いて、有意といえるような差異は見出されなかった。分析 No. 3 は土器材料となる素地が他とは異なるものが使用されていると考えられる。陶器羽釜や焼台もこれら山茶碗と組成は似ていたが、Fe₂O₃ の含有量がやや高い傾向であった。また、窯壁は他の試料とは極めて大きく異なる値を示した。分析した試料は分焰柱近くの窯壁であり、燃料材の灰の影響を大きく受けていると考えられる。

分析 No.	Na ₂ O (%)	MgO (%)	Al ₂ O ₃ (%)	SiO ₂ (%)	P ₂ O ₅ (%)	K ₂ O (%)	CaO (%)	TiO ₂ (%)	MnO (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	Total (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)	分析 No.
1	0.42	0.29	12.5	81.9	0.037	2.57	0.12	0.60	0.011	1.46	99.9	106	46	29	297	1
2	0.35	0.33	13.9	80.9	0.033	2.57	0.12	0.64	0.009	1.17	100.0	118	47	28	257	2
3	0.23	0.29	13.8	80.4	0.067	1.97	0.38	0.65	0.034	1.59	99.4	84	52	24	242	3
4	0.28	0.15	5.9	89.8	0.029	2.07	0.15	0.47	0.008	0.75	99.6	67	40	18	253	4
5	0.24	0.32	14.6	78.8	0.070	2.14	0.10	0.65	0.011	2.88	99.8	96	37	24	249	5
6	0.13	0.25	12.1	82.3	0.032	1.87	0.09	0.49	0.009	2.02	99.3	70	34	18	204	6
7	0.27	0.17	10.7	82.9	0.015	3.41	0.05	0.16	0.012	1.58	99.3	109	49	16	66	7
8	0.17	0.23	12.1	81.6	0.038	2.08	0.10	0.44	0.009	2.01	98.8	84	34	21	189	8
9	0.25	0.23	10.3	85.5	0.049	2.11	0.07	0.58	0.008	0.96	100.1	90	37	22	184	9
10	0.25	0.95	9.8	77.3	0.305	3.08	5.66	0.29	0.303	1.28	99.2	94	386	20	159	10
11	0.19	0.26	12.3	83.5	0.024	1.95	0.04	0.57	0.008	1.11	100.0	91	31	22	191	11
12	0.20	0.23	11.7	83.1	0.019	2.05	0.06	0.48	0.009	1.95	99.8	83	35	19	189	12
13	0.29	0.35	15.2	79.1	0.020	2.14	0.05	0.66	0.011	1.38	99.2	112	35	27	177	13
14	0.46	0.34	13.4	80.3	0.017	2.38	0.14	0.77	0.010	1.60	99.4	112	50	29	212	14
15	0.21	0.31	13.5	80.9	0.019	2.04	0.05	0.61	0.009	1.27	98.9	101	34	23	177	15
16	0.25	0.27	12.5	83.1	0.027	1.74	0.08	0.68	0.008	1.41	100.1	85	35	21	214	16
17	0.26	0.32	13.5	80.2	0.041	2.03	0.07	0.66	0.011	2.42	99.5	92	36	23	268	17
18	0.85	0.65	21.5	67.7	0.035	2.05	0.41	0.90	0.015	4.06	98.2	112	67	41	198	18
19	0.38	0.30	12.7	81.5	0.017	2.59	0.11	0.57	0.011	1.50	99.7	107	46	30	295	19
20	0.14	0.23	14.2	80.3	0.024	1.59	0.05	0.69	0.009	2.30	99.5	73	33	22	237	20
最大	0.85	0.95	21.5	89.8	0.305	3.41	5.66	0.90	0.303	4.06	100.1	118	386	41	297	最大
最小	0.13	0.15	5.9	67.7	0.02	1.59	0.04	0.16	0.01	0.75	98.2	67	31	16	66	最小

表 1 2 分析結果

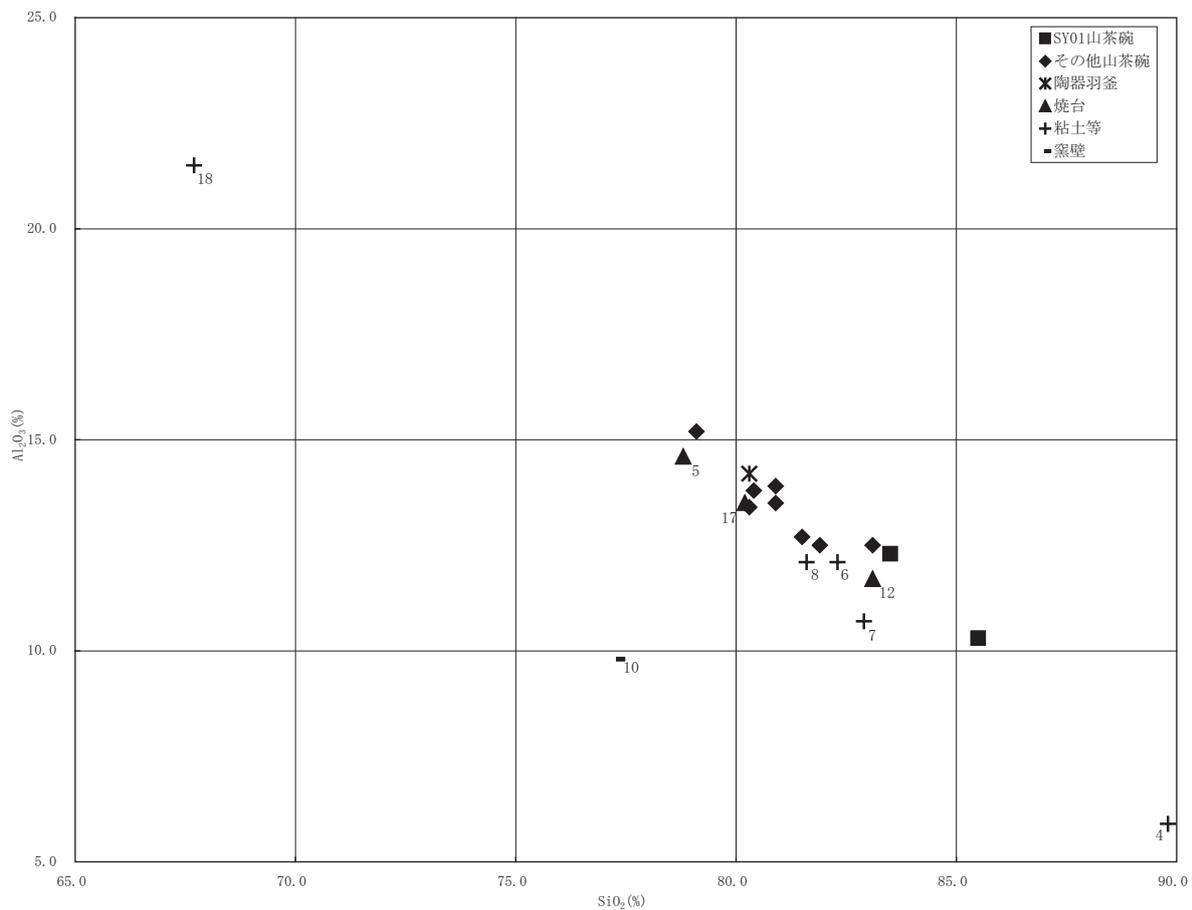
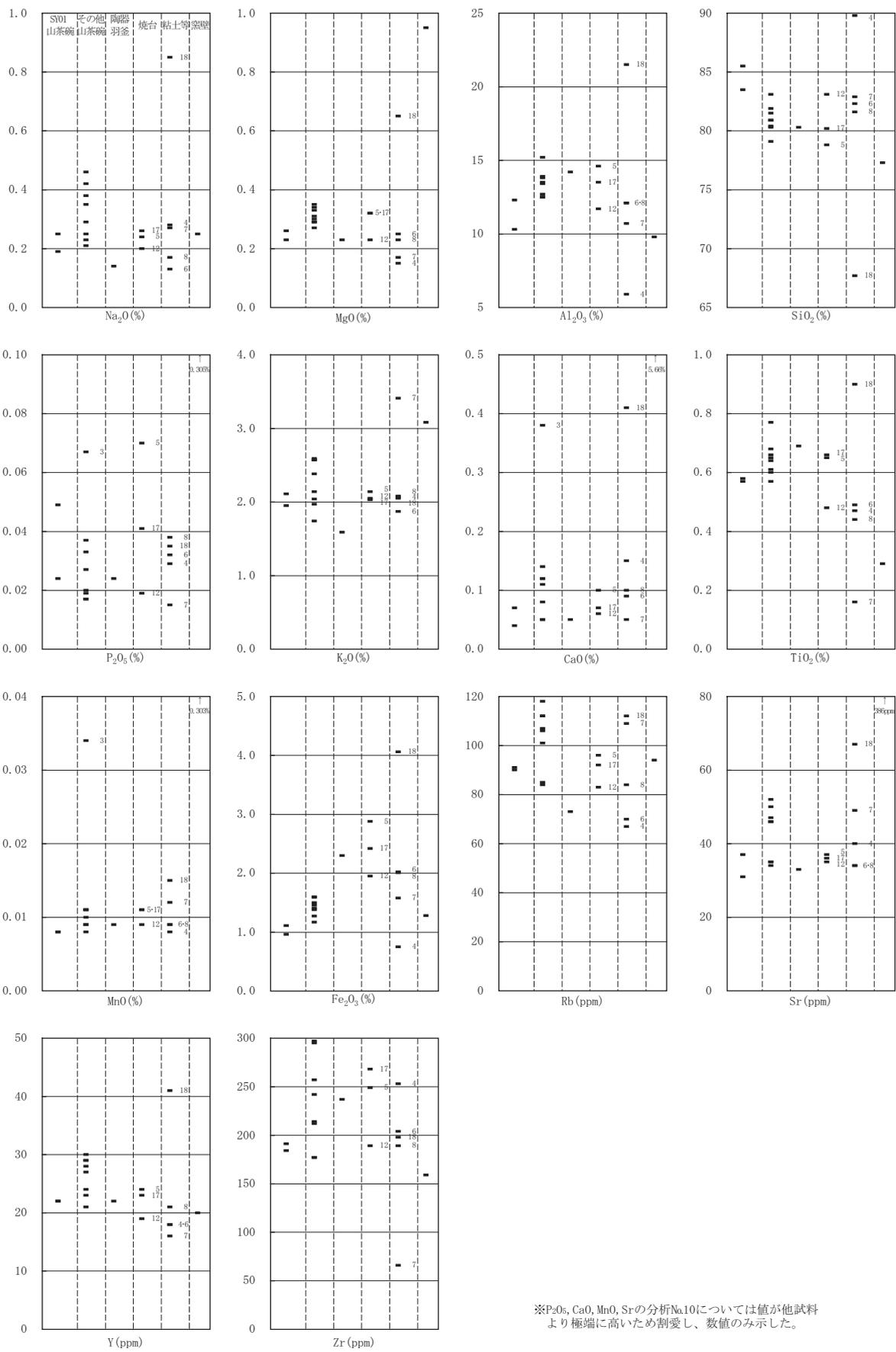


図50 SiO₂-Al₂O₃ 分布図

粘土等については、窯の床下に敷き詰められていた粘土（分析No. 6、No. 8）は、土器の示した組成と大きな差異は見られなかったが、地山の土（分析No. 7）、粘土溜り SX03 の砂質シルト（分析No. 4）、粘土サンプル（分析No. 18）は他の試料とは大きく異なる値を示した。特に Al₂O₃ と SiO₂ における分析No. 4 と No. 18 は他試料との差異は顕著、かつ両者の値は対照的で、分析No. 4 は SiO₂ が高く Al₂O₃ が低く、分析No. 18 はその反対である。SiO₂-Al₂O₃ 分布図を図50に示す。小村・藤根（2001）は、中世東海地方の山茶碗の材料的な検討において、粘土の化学組成は酸化アルミニウム (Al₂O₃) が比較的多く砂粒は酸化ケイ素 (SiO₂) が多いことから、酸化アルミニウム (Al₂O₃) と酸化ケイ素 (SiO₂) の組成比の直線的变化は、同一材料の粘土と砂粒を用いている場合には、その混合割合を表すとしている。分析No. 4 も分析No. 18 も、今回分析した土器群の示す組成比の直線的变化の延長線上にそれぞれあることから、両者共にこれら土器群と元の由来を一にする可能性を否定はしない。

引用・参考文献

- 小村美代子・藤根久（2001）須恵質土器胎土中の砂粒分の化学的評価．日本文化財科学会第18回大会研究発表要旨集,114-115,日本文化財科学会
- 小村美代子・藤根久（2002）山茶碗胎土の化学的評価．日本文化財科学会第19回大会研究発表要旨集,60-61,日本文化財科学会



※P₂O₅, CaO, MnO, Srの分析No.10については値が他試料より極端に高いため割愛し、数値のみ示した。

図 5 1 各元素分布図

第5章 総括

第1節 窯体（SY01）

窯体（SY01）は、焼成室の半分から上が削平されていたものの、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好であり、さまざまな情報を得ることができた。

（1）規模

窯体の最大幅は3.4mを測るが、これは猿投窯では最大規模となる。その一方、焚口部分の幅は狭く、0.92mしかない。このような最大幅に対して焚口部分が狭い窯体は、斎藤編年Ⅷ期の窯に共通性が高いとされている（尾野・嘉見1997）。

床面は、焚口から分焰柱までほぼ水平で、分焰柱を境に18°の傾斜で上昇している。猿投窯では、例外はあるものの、焚口から焼成室前半まで水平でその後急に上昇するもの→焚口から分焰柱までほぼ水平で、その後緩やかに上昇するもの→焚口付近から上昇が始まり、分焰柱は傾斜の途中にあるものと変遷しており、SY01は中間の性格を有する。

（2）構造

焼成室側壁は構築に伴う工具痕が明瞭に残り、粘土を貼付けた様子はみられない。分焰柱は地山を掘り抜いて築かれており、粘土による補修痕がみられた。天井は分焰柱付近しか残存していなかったが、焼成中に表面が剥がれ落ちたようで、窯体内から大量の窯壁が出土した。これらを観察すると側壁同様粘土を貼付けた様子はみられなかった。その一方、焼成室の床下には地山を掘り抜いた後に粘土を厚さ10cmほど充填し、焼台を砕いたような粘土塊を敷いて床面としている。窯体内から出土する焼台は硬く焼け締まり床面が付着したものもあり、焼成具合は良好であったようだ。なお、工具痕は床下の被熱により赤褐色に変色した地山面にも黒色の楕円形をした小穴として残存しており、今後注意深く調査すれば同様な痕跡が見つかると思われる。

（3）焼成回数

側壁に工具痕が明瞭に残ることや、床面が硬く焼け締まっていないことから、何回も焼成したとは考えにくい。分焰柱に補修痕からみられることから、焼成は2・3回程度だったと思われる。焼成中に天井の表面が剥がれ落ちたことが、放棄につながった可能性が高い。

（4）出土遺物

窯体内から出土した遺物の大半が山茶碗と小皿であり、他には蓋が1点出土したにすぎない。底部が1/2以上残存するものを1点とカウントすると、山茶碗448点に対して小皿400点と小皿の割合が高い。出土遺物は底部に焼台が付着したり、内面に窯壁や灰などが溶着したり、何枚か重なった状態で出土するものが目立つ。これらは、窯出しの際、失敗品として窯体内に廃棄されたものと考えられる。また、燃焼室から前庭部にかけての壁際から完形に近い山茶碗が多数出土したが、これらは窯出し時に中央部分を通路と利用したため、その部分の遺物は踏まれ細片となったのに対して、壁際はその影響をほとんど受けなかったためだと考えられる。

(5) 焼成方法

内面全面に自然釉がかかる山茶碗や小皿は重ね焼きの最上段に置かれたものであるが、内面全面に自然釉がかかるのではなく内面中央のみ自然釉がかからない山茶碗や、山茶碗の上に小皿が釉着した状態で出土するものが多かった。このことから重ねた山茶碗の上にさらに小皿を重ねて焼成したことがわかる。山茶碗の上に小皿が4枚重なり、さらにその上に窯壁がのったもの(344)が出土しており、山茶碗の上に小皿を4枚程度重ねていたことがわかる。またそれとは別に小型の焼台にのった状態で出土する小皿もあり、焼台を使用した小皿の焼成も併用しておこなっていたことがわかる。また、山茶碗の外面全面に自然釉がかかるものがあり、蓋として二次利用されたとも考えられるが、自然釉が厚くかかり、器形が大きく変形したものや、口縁部に床が付着したもの(164、165)などは、蓋以外の用途に使用された可能性が高い。

第2節 出土遺物

(1) 山茶碗

出土した山茶碗を器形の相違からA～Gに分類したが、SYO1から出土したものは主にA～Cである。A・BはSYO1の最終焼成品と考えられるが、CはA・Bが白色に焼成されているのに対して灰白色をしており、さらに焼台と溶着した状態で出土するものが多いことから、最終焼成品ではなく、焼台に山茶碗を安定した状態で積むために焼台の上に置いた二次利用品の可能性が高い。A・BとCは厚さや口縁部の形状の相違により明確に区別することができるが、AとBは体部下方のくびれの有無が区別の基準であり、明確に区別できないものもある。

次に谷状地形を中止とするSYO1以外からはA～Gすべての種類が出土している。AとBはSYO1内にあったものが、畑の耕作時に掘り上げられ廃棄された可能性が高い。Cは灰白色の他に灰黒色や赤黒色をしたものがあり、多くはSYO1の初期か、近隣にあった別の窯体で焼かれたものとする。Dは、口径・底径が狭く器高が高いところはCと類似しているが、口縁端部が尖らない、底部内面の指ナデがないものがあるなど、Cより古い特徴を持つ。また、酸化炎焼成されたと考えられる赤褐色や茶褐色をしたものがある。

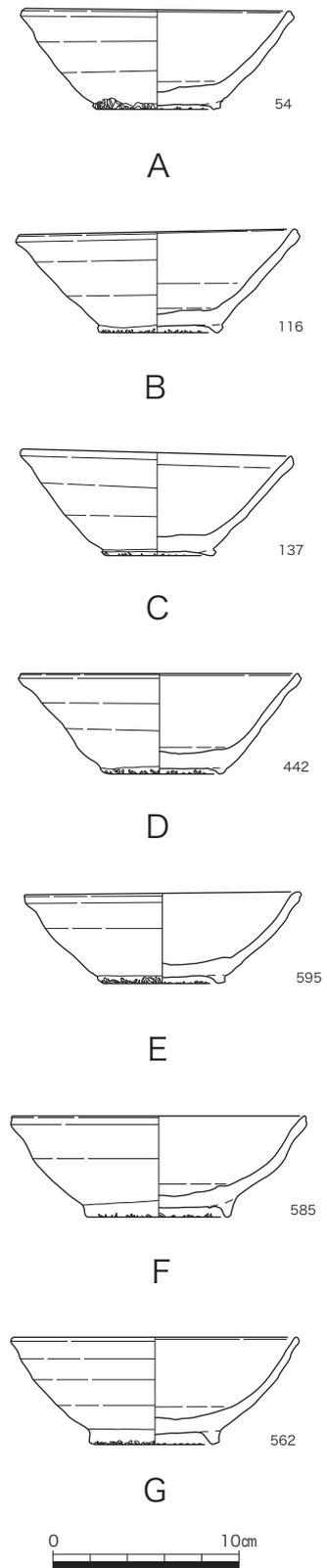


図5.2 山茶碗分類図

分類	A	B	C	D	E	F	G	
個数	119	47	78	15	76	1	2	
器高	最大	6.5	6.5	6.6	6.6	6.7	5.5	6.4
	最小	4.6	5.0	4.8	4.3	3.9	5.5	6.0
	平均	5.37	5.42	5.66	5.43	5.04	5.50	6.20
口径	最大	15.1	15.1	16.0	不明	15.8	不明	不明
	最小	13.4	13.5	14.0	不明	14.4	不明	不明
	平均	14.19	14.32	14.72	不明	14.96	不明	不明

※個数は実測分のみ

(cm)

表13 山茶碗分類表

Eは、口径・底径が広く器高が低いものが多い、底部外面の糸切り痕が明瞭に残る、口縁部の仕上げが丁寧である、底部内面と体部との境に稜がみられるものや境が不明瞭で中央が凹むものが多いなどの特徴を持ち、A～Dとは明瞭に区別できる。しかし、厚手のものは胎土が粗く、薄手のものより口径・底径が広く器形が低い傾向があり、区別する必要があるかもしれない。Fは高台断面が逆三角形をし、粗穀痕がほとんどみられない古い特徴を示すが、底部内面と体部との境に稜がみられる。Gは、胎土が黒に近い灰色、口縁先端が緩やかに尖る、底部内面に稜や指ナデはみられない、逆高台をした高台に砂利痕が残るなど、他の山茶碗と系統を別にするものであり、猿投窯製品以外の可能性も視野に入れて類例を待ちたい。

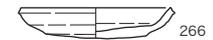
(2) 小皿

山茶碗と同様、出土した小皿を器形の相違からa～hに分類したが、その内SYO1から出土したものはa～cである。a～cはすべて白色をしており、SYO1の最終焼成品と考えられる。a～cは体部下方と底部外面の境の相違を区別の基準としているが、山茶碗A・Bと同様、明確に区別できないものもある。

次に谷状地形を中止とするSYO1以外からは主にd～hが出土している。dはa～cと比べ薄手、口縁端部が尖る、灰黒色や赤黒色をしたものが多いなど山茶碗Cと共通するところが多いことから、山茶碗Cと同時に焼成されたと考える。eは、厚手、口縁端部が丸い、底部内面の体部に近い部分に円形の工具痕が残るなどの特徴から区別がしやすい。山茶碗Dと同じ赤褐色をしたものがあることから山茶碗Dと同時に焼成されたと考える。fは、a～dと比べ口径・底径が狭く器高が高い傾向を示す。底部外面の糸切り痕が明瞭に残る、口縁部の仕上げが丁寧であるなどの特徴が山茶碗Eと共通しており、山茶碗Eと同時に焼成されたと考える。gは口縁端部が尖るものの、底部がやや突出する、作りが丁寧など古い特徴を示す。hも底部がやや突出する、体部と底部内面の境が不明瞭で底部中央が凹む、作りが丁寧など古い特徴を示す。



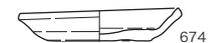
a



b



c



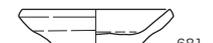
d



e



f



g



h



図53 小皿分類図

分類	a	b	c	d	e	f	g	h	
個数	20	72	35	20	17	32	5	9	
器高	最大	1.9	2.0	2.3	2.2	2.5	2.4	2.4	2.2
	最小	1.4	1.4	1.6	1.4	1.6	1.4	1.8	1.7
	平均	1.68	1.73	1.78	1.82	1.93	2.00	2.04	1.97
口径	最大	8.7	8.5	8.9	8.8	8.1	8.0	不明	7.7
	最小	7.1	7.1	7.2	8.0	7.6	7.6	不明	7.6
	平均	7.80	7.97	7.80	8.43	7.96	7.80	不明	7.63

※個数は実測分のみ

(cm)

表14 小皿分類表

(3) 羽釜・鍋

羽釜と鍋が破片ではあるがまとまって出土した。羽釜は猿投窯黒笹地区ではK-G-69・90号窯跡の灰原から出土しているが、鍋は初めての出土である。これらの多くは常滑窯で焼成されているため、常滑窯からの搬入品とも考えられるが、口縁部から鏝にかけて自然釉が厚くかかる失敗品が多い、使用痕がない、赤褐色をした山茶碗と小皿が出土している、赤褐色をした焼台が多く出土しており、その中に1点ではあるが羽釜の胴部片が釉着した焼台(726)が含まれている、出土した羽釜の焼成具合や口縁部の形状がK-G-69・90号窯跡から出土したものに類似しているなどの理由から搬入品ではないと考える。ただし、これらはSYO1からは1点も出土しておらず、古手の山茶碗や小皿と同様に谷状地形を中心とした調査区北側から出土しており、近隣にこれらを焼成した窯体が別に存在した可能性が高い。

(4) 編年的位置づけ

上記の考察をもとに、出土遺物の編年的位置づけを試みたい。山茶碗はGを除き尾張型山茶碗であり、F→E→D→C→A・Bの順に新しくなる。小皿はすべて尾張型山茶碗であり、h・g→f→e→d→a・b・cの順に新しくなる。

底部内面と体部との境に稜がみられるようになるのは斎藤編年第VIII期第1型式(藤澤編年第6型式)からだとしており(斎藤1988)、Gを除くすべてが第VIII期第1型式のものとなる。しかし、FとEは口径に比して器高が低い第VII期第3型式の特徴を持つのに対して、D～Aは口径に比して器高が高い第VIII期第1型式の特徴を持つ。また、Eと同時に焼成されたと考えられる小皿fは口径に比して器高が高く、底部がやや突出する第VII期第3型式の特徴をもっている。このことを考慮せず、すべてを第VIII期第1型式に分類してしまうのには疑問が残る。

以上のことから、SYO1は斎藤編年第VIII期第1型式、13世紀前半に稼働していた窯体であることと、近隣には先行する窯体が別にあり、そこでは短期間であるが羽釜や鍋を焼成していたことが判明した。

参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2007 『愛知県史別編窯業2 中世・近世瀬戸系』 愛知県
- 飯塚邦男 2005 『吉兼1号古窯跡・兼近1号古窯跡』 豊田市教育委員会
- 宇佐見守 2007 「K-G-93号窯跡」『年報平成18年度』（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
- 尾野善裕・嘉見俊宏 1997 『社団法人愛知県トラック協会センター用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 三好町教育委員会
- 尾野喜裕・齊藤理ほか 1996 『県営北部畑地帯総合土地改良事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 三好町教育委員会
- 斎藤孝正 1988 「中世猿投窯の研究—編年に関する一考察—」『名古屋大学文学部研究論集』 C I 史学34 名古屋大学文学部
- 中野晴久 1996 「常滑羽釜」『鍋と甕そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 野本欽也・小澤一弘ほか 1994 『黒笹40・89号古窯跡 黒笹G2号古窯跡 立楠古窯跡』 愛知県埋蔵文化財センター
- 平出紀男 1988 『神ノ倉東部土地区画整理内古窯跡発掘調査報告書』 名古屋市教育委員会
- 藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要第3号』 三重県埋蔵文化財センター
- 三好町誌編さん委員会 2007 『新編三好町誌別編』 愛知県三好町
- 三好町立歴史民俗資料館 2009 『夏季企画展「よみがえる三好の窯～遺跡の発掘から復元まで～」パンフレット』



調査区全景（北より）



調査区遠景（西より）



調査区遠景（南より）



S Y 0 1 燃烧室遺物出土状況（北西より）



SY01 焼成室遺物出土状況（北西より）
出土遺物はベルト部分のみ



SY01 焼成室土層断面（西より）



SY01 分焰柱土層断面（北西より）



SY01 焼成室土層断面（南西より）



灰原土層断面（西より）



SY01 焼成室完掘状況（南東より）



SY01 分焰柱完掘状況（南より）



SY01 焼成室壁（北東より）



SY01 燃焼室完掘状況（北西より）



SY01 焼成室床下黒色土面（北西より）



SY01 焼成室床下地山面（北西より）



SY01 分焰孔断面（北西より）



SY01 分焰柱断面（北より）



SY01 焼成室床下断面（北西より）



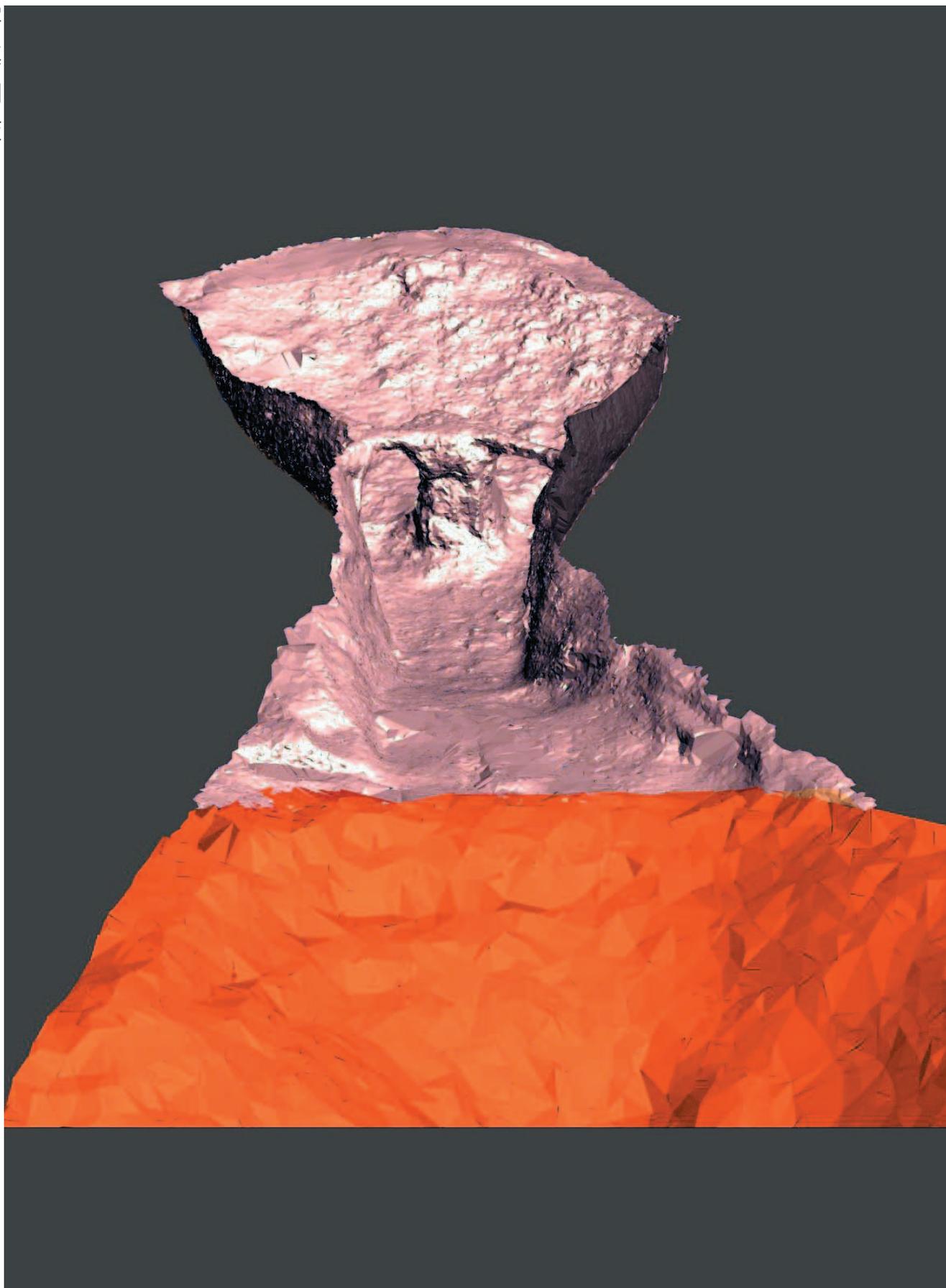
SY01 焼成室床下断面（北西より）



SY01 焼成室床下断面（北東より）



SY01 燃焼室断面（南東より）



K-G-93号窯跡3Dモデル



SY01出土遺物



谷状地形ほか出土遺物





補修痕のある小皿



口縁部に床が溶着した山茶碗



外面に窯壁が溶着した
山茶碗



山茶碗の上に小皿をのせて
焼成した例









439



542



731



507



513



514



507



513



514



518



520



666



518



520



666





433



433



438



438



699



699



701



701

報告書抄録

ふりがな	けーじー93ごうかまあと
書名	K-G-93号窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第163集
編著者名	宇佐見守・藤根久・小林克也・伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・竹原弘展
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
K-G-93号 かまあと 窯跡	あいちけんみよしし 愛知県みよし市 うきがいちよう 福谷町	23521	640164	35° 07' 12"	137° 06' 05"	20060926 ～ 20061207	750	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
K-G-93号 窯跡	古窯跡	鎌倉	窯体1	山茶碗・ 陶製羽釜	陶製羽釜の出土

文書番号	発掘届出（18埋セ第25号・18.7.4） 通知（18教生第906号・18.7.26） 終了届・保管証・発見届（18埋セ第75号・18.12.19） 鑑査結果通知（18教生第2303号・19.1.25）
------	--

要約	窯体（SY01）は焼成室の半分から上を削平されていたが、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好で、窯内や前庭部から焼成後の選別作業で廃棄された尾張型第6型式の山茶碗・小皿が多数出土した。当初灰原を想定していた谷状地形からは、山茶碗・小皿・羽釜・鍋などが出土したが、第5型式の特徴を残す山茶碗・小皿が含まれ、付近にこれらを焼成した窯体が別に存在した可能性が高い。また、知多窯で主に焼成された羽釜が猿投窯で出土したことは、知多窯との技術交流を考える上で参考になるものを一つ加えることとなった。
----	--

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第163集

K-G-93号窯跡

2010年3月31日

編集・発行 財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社 ジーピーセンター

